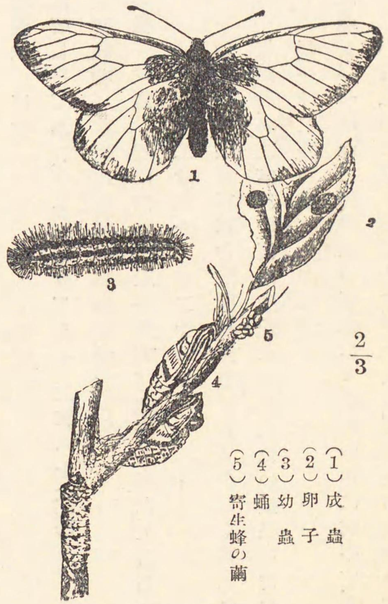
第二百六十六圖 えぞしろてふ



(1)成蟲
(2)卵子
(3)幼蟲
(4)蛹
(5)寄生蜂の繭

2/3

り、翌春に至り温暖の日は出でゝ食害すれども、寒冷の日は其巢に歸りて蟄居す。蝶の運行は遲鈍にして花蜜を吸收す。其害割合に大なり。

驅除法 冬期樹梢に垂下せる枯葉を採り去るべし、六月上旬乃至中旬枝上に集合して蛹化せるものを殺すべし、蝶發生の時期は網を以て捕ふべく、花に集まるの性あるを以て豫め花圃を作りて誘引すべし、幼蟲には石油乳劑なれば二十倍、魚油乳劑なれば三十倍の水を混じて撒布すべし。郭公鳥は好んで之を食す。

集合し絲を以て枝上に縋らる、六月中旬乃至下旬羽化す、蝶は黄色なる長形の卵子を葉下に集合して産す、其數百數十、卵子は短き紡錘狀にして約二十五條の縱溝あり、八月中旬頃孵化したる幼蟲は食害すること少く、枯葉內に數匹相集まりて越年す、冬期梢上に枯葉の垂下せるは多くは其越年せるものなり。

鳳蝶科 Papilionidae.

(一) **ながさきあげは** Papilio memnon L. (第四十圖版(1))

被害植物 柑橘類。

特徴 成蟲 多形種にして三形あり、第一種は黒色にして後翅少しく黒藍色を帶び青鱗を撒布し、尾樣突起を有せず第二種は黒色なれども白色の部分多く、後翅に白色の六楕圓紋を裝ひ、尾樣突起を缺く、第三種は第二種に酷似すれども尾樣突起を有し、臺灣に普通なり、何れも前翅の翅底に紅色の一紋を具へ、後翅底の裏面に暗紅の三紋を裝ふ、九州地方に稀ならず、體長一寸乃至一寸三分、開張三寸五分乃至四寸九分。

幼蟲 體は暗綠にして前方に瘤狀突起を具へ、前方に赤色條あり、尙淡褐の斜條を裝ふ、其形宛然一種の天蛾の幼蟲に似たり、體長一寸七分乃至二寸五分。

經過 年三回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、第一回の蝶は四·五·六、第二回は六·七·八、第三回は八·九·十月に跨りて現はる、卵子は黄綠にして一個宛葉下に産附せらる、幼蟲は初めは黒色、白紋を裝へる「くろあげは」に似たり、蛹は帶蛹にして灰綠若くは灰褐時に綠色なるものあり、何れも黄紋と黄條を裝ふ、九州地方に多く、好んで花に集來す。

(二) **もんきあげは** Papilio helenus L. (第四十圖版(2))

被害植物 柑橘類。

特徵 成蟲 體翅黑色、後翅第四、第五、第六及び第七室に黃白の大紋ありて、中央にある二紋は大なり、內緣角に暗紅色の弦月形を裝ふ、後翅裏面の各室に弦月形の橙黃紋ありて、第二室には二個あり、前翅裏面の中室に五個後翅に白色鱗の三縱條を裝ふ、體長八分乃至一寸、開張四寸乃至四寸五分。

幼蟲 綠色、第三節及び第九節に光澤なき黑色の斜條を裝ひ、第五第七及び第八節には天鵞絨樣の黑色斜條を有す、腹面は灰白なり、體長一寸五分乃至二寸二分。

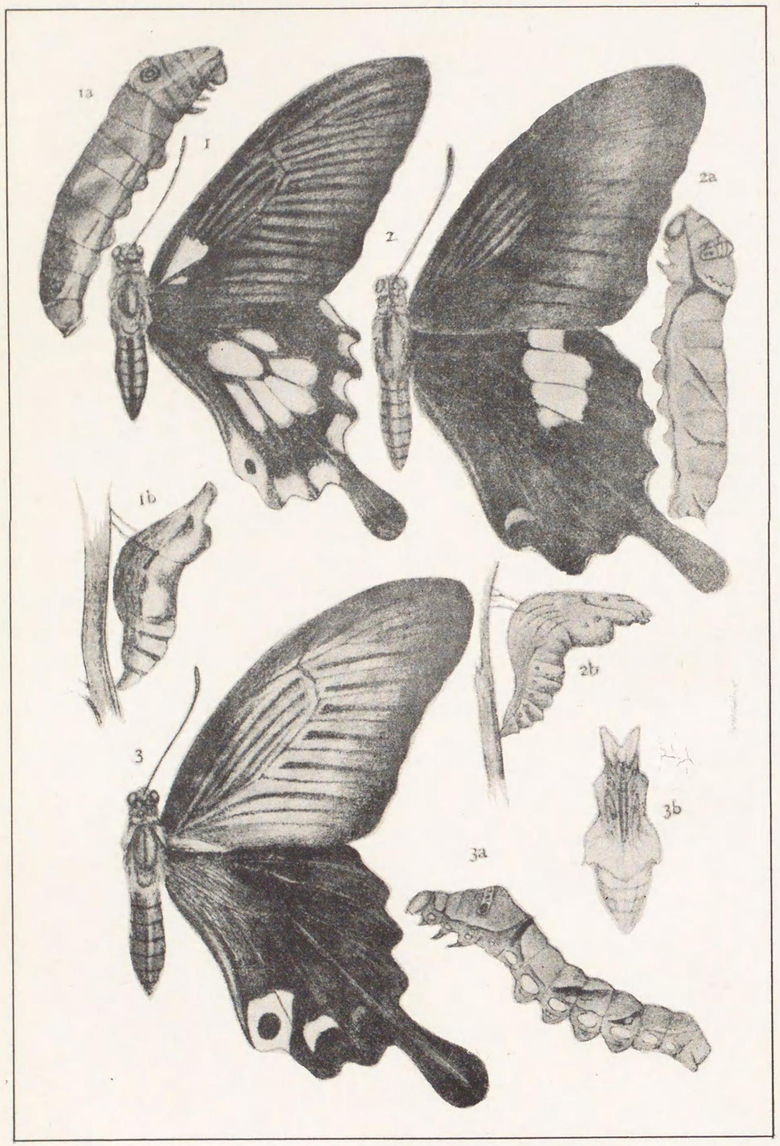
經過 年三回發生し、蛹の有樣にて越年す、蛹は綠色、帶蛹にして角樣の二突起を有す、卵子は黃綠にして一個宛葉下に產附せらる、卵子より孵化せる當時は黑色にして白紋を裝ひ鳥糞に似たり、第一回の蝶は四月より五月、第二回は六、七月、第三回は八、九の兩月に跨りて出で、花に集來するの性あり。

(三) くろあげは *Tapilio demetrius* Cram. (第四十圖版(3))

被害植物 柑橘類。

特徵 成蟲 前翅暗色、中室に五條、各室に一條の黑線を縱列し、第一室には二條を裝ふ、後翅は黑色、內緣の末端に近く橙黃の一環紋を裝ひ、第二室に弦月形の一橙黃紋あり、尤も種類により此紋の判然せざるものあり、裏面の各室端に橙黃の弦月紋ありて、第三、第四及び第五室にあるものは小なり、雄にありては濃色にして後翅の前緣黃白となり、體長六分乃至八分、開張三寸乃至四寸五分。

第四拾圖



第四拾圖

1. Papilio memnon L.　ながさきあげは …… ……P.749
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
2. Papilio helenus L.　もんきあげは …… ……P.749
   a. 幼蟲　*b.* 蛹
3. Papilio demetrius Cram.　くろあげは …… ……P.750
   a. 幼蟲　*b.* 蛹

幼蟲　暗綠色、第三節の兩側に黒色の眼狀紋を裝ひ其中間に四個の環紋あり、第七節の氣門上には各一條の斜走せる黒線あり、第八節の背上にて波狀をなす、第九節の氣門上にも亦同樣の斜條あり背面にて相合す、以上の黒線上には灰白の部分あり、尙第五節乃至第十一節の兩側に楕圓形の白紋ありて黒輪を有す、初めは黒色にして白紋を裝ふ、體長一寸七分乃至二寸一分。

經過　年三回の發生、蛹の有樣にて越年す、蛹は暗褐、頭部に長き角樣の二突起を有し左右に開く、胸部の突起は甚だ高からず、腹背は少しく弓狀をなし、第三腹節は廣く左右に突出し、其局部は他よりも濃色なり。

(四) からすあげは　Papilio bianor Cram.　(第四十一圖版(1))

被害植物　柑橘類、黄蘗木。

特徴　成蟲　體は黒色、翅は黒色、青藍色若くは青色の鱗毛を密生す、前緣及び翅脈は黒色、前翅後緣に近く天鵞絨樣の黒紋あり、第三、第四の脈上にも亦同樣の軟毛あり、外緣は白色、後緣の中央に青藍色の鱗毛多く、外緣は黒色、其內に青藍色の弦月紋あり、內緣角に黒紋ありて其內側は赤色、外側は白色、變種多し、體長八分乃至一寸一分、開張二寸五分乃至四寸五分。

幼蟲　「くろあげは」の幼蟲に酷似す、綠色、第二及び第三節の背上に黒斜條あり、第四及び第五節の接合部に天鵞絨樣の黒帶を有する等「くろあげは」に異ならず、體長六分乃

至八分。

經過 年三回の發生、蛹の有樣にて越年する等「くろあげは」と略々同樣なり。

(五) きあげは Papilio machaon L. (第四十一圖版(2))

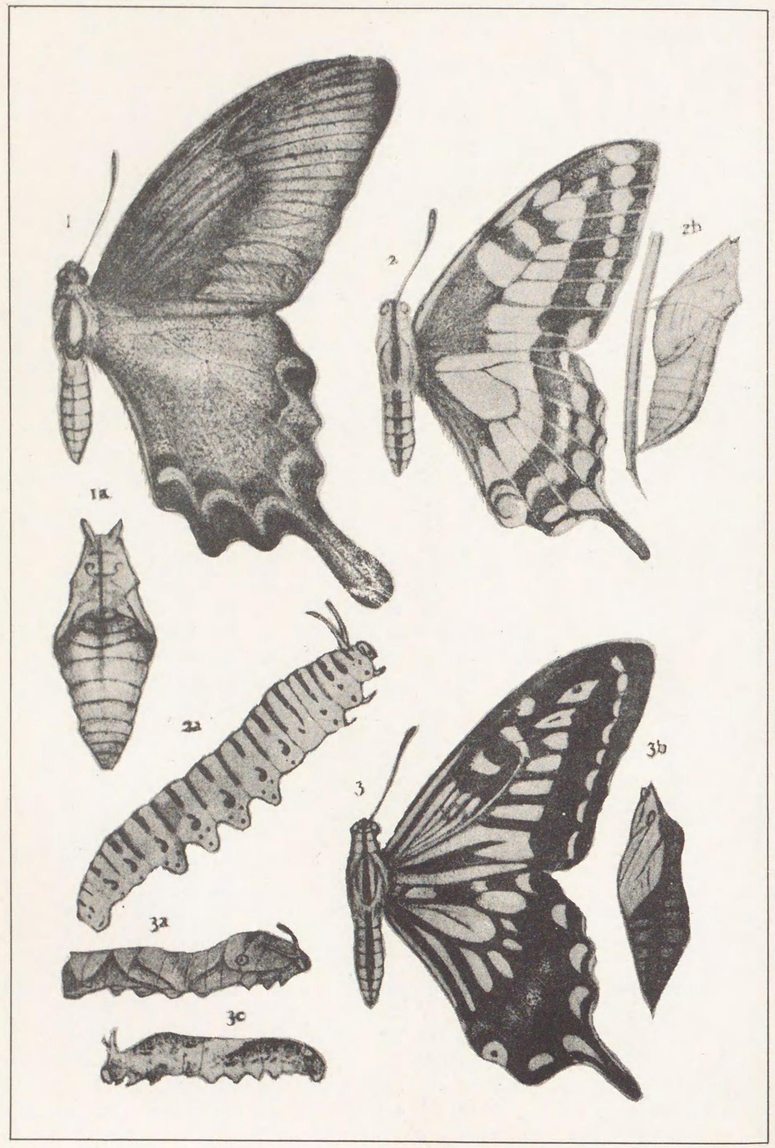
被害植物 胡蘿蔔、防風、茴香(ウイキヨウ)。

特徵 成蟲 體は淡黃色にして背上に太き黑線を縱走す、前翅は黑色、三列の黃紋あり、上列にあるものは三個にして、其中二個は中室にあり、中央を斜走せるものは八個、第七室にあるものは中央に黑紋を裝ふ、外緣に八個の小黃紋を橫列す、後翅底の大半は黃色、翅底の內緣及び脈は黑色、外緣は天鵞絨樣の黑色、內に七個の藍色紋と七個の黃色紋を具へ、內緣角に赤褐紋を有し、其下方に黑紋あり、體長八分乃至一寸一分、開張二寸六分乃至四寸。

幼蟲 綠色、各節の背上に一條の黑帶ありて、內に四個乃至六個の赤褐紋を具へ、第五節より尾端に至る迄氣門部に鉤狀の黑紋を裝ひ、中央に各一個の赤黃紋あり、各關節の接合部及び腹面に散在せる斑紋も亦黑色なり、頭部黃綠、四條の黑條あり、體長二寸。

經過 年三回の發生、蛹の有樣にて越年す、第一回の蝶は三四月より五月に亘り、第二回は五·六·七月、第三回は七·八·九の三ケ月に跨りて現はる、蝶は卵子を一個宛葉下に產附す、卵は黃綠にして稍々球狀をなし、數日の後孵化す、初めは黑色にして赤色の突起と白紋を有すれども成長するに隨ひ固有紋を表はす、蛹は灰褐乃至黃綠にして黃色條あ

第四拾壹圖



第四拾壹圖

1. Papilio bianor Cram. からすあげは……P.751
a. 蛹
2. Papilio machaon L. きあげは……P.752
a. 幼蟲 *b.* 蛹
3. Pailio xuthus L. あげは……P.753
a. 幼蟲 *b.* 幼蟲四齢 *c.* 蛹

り、頭部より二個の角狀突起を出だし、胸背及び胸側にも亦一個の小突起あり、幼蟲に觸るゝときは臭角を出だして臭液を滲出す、蝶は甚だ活潑にして百合の花に來るもの多く、時に又一定の場所に飛翔す。

(六) あげは Papilio xuthus L. (第四十一圖版(3))

被害植物　柑橘類・黄蘗木(キハダ)。

特徴　成蟲　體綠黄、背上に黒縱條あり、尾端に至りて終る、翅は黄色乃至淡綠黄、前翅に黒紋と黒條多く、中室に黒色の縱條と大なる黒横線あり、各室の末端には一黄紋ありて下方にあるものは弦月形をなす、後翅の外緣は黒色、青藍色の鱗毛を各室に裝ひ、斑紋の如き觀をなす、内緣角に橙黄色の大紋ありて其中央に一黒點を裝ふ、體長八分乃至一寸、開張二寸七分乃至四寸。

幼蟲　暗綠、赤黄紋を散在し、第四、第八及び第九節の背上に最も多し、第三節の兩側に眼狀紋を有し、其中央は黒色、更に黄色の細線ありて二分す、此紋の中間に馬蹄様の四紋あり、第三、第四の兩節は最も太く、頭部を收縮するときは此の部恰も頭の如く、且眼狀紋を有するを以て特に其然るを覺ゆ、第四節と第五節との縫皺は黒色、之より各一條の細線を出だす、此線は第六節に於て最も深く彎曲し、斜走して第八節の背上に出で、銳角をなして互に相合す、第七、第八の兩節に於ける斜條の外側は黒綠、第九及び尾節も亦同様に暗黒を呈する部分あり、尚第四節より第十一節に至る迄兩側に各一個

の輪紋ありて第六第七の兩節に於けるもの最も大なり、頭は黃綠にして少しく暗色を帶ぶ、體長一寸二三分。

經過 年三回の發生、蛹の有樣にて越年す、蛹は帶蛹、頭及び背上の突起は前種より稍々長し、蝶は前種と同時に出づ、卵子は一個宛柑橘の葉下に產下せらる、其孵化したる幼蟲は、初め黑色にして白紋を有するを以て恰も鳥糞の如し、百合の花に集來すること前種に異ならず。

(七) くろたいまい (あをすぢあげは) Papilio sarpedon L. (第四十二圖版(1))

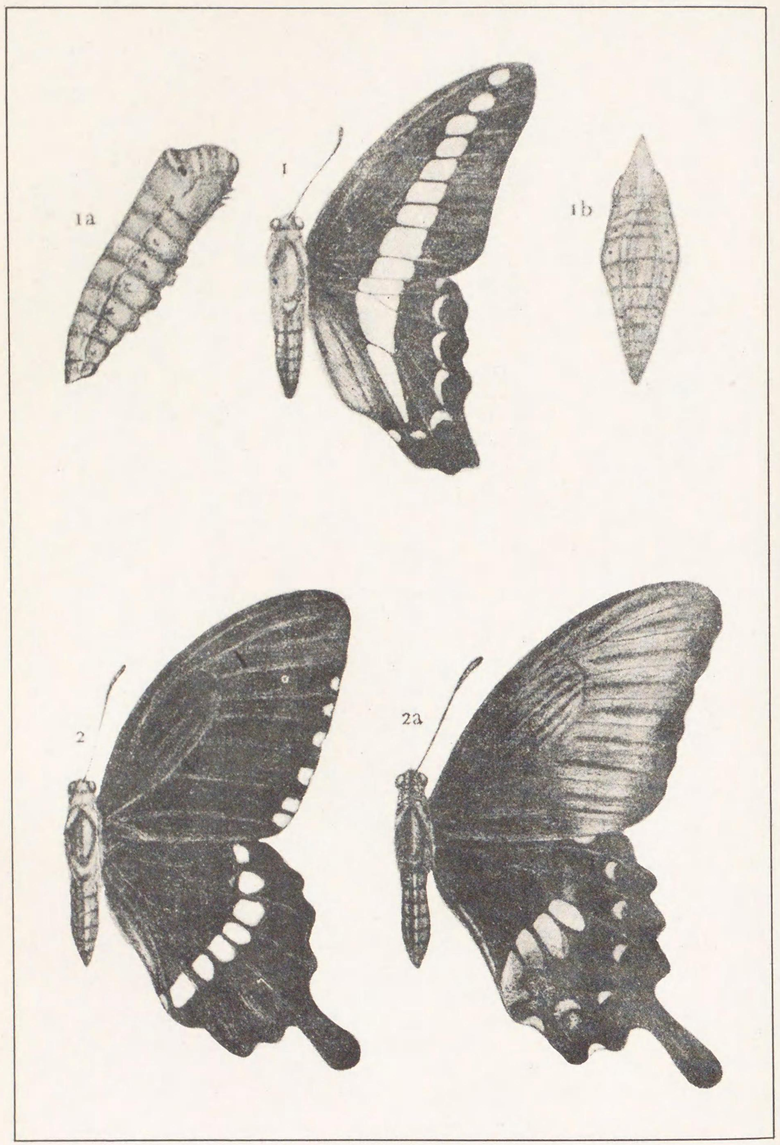
被害植物 樟、柱。

特徵 成蟲 體は暗黑色、腹側に各二條の白線を縱走す、翅は黑色、前翅の中央に青色紋を縱列し、後緣に至るに隨ひ其太さを增す、後翅には三個の青色紋を縱列し、第二室にあるものは細長し、各室の末端に弦月形の青色紋を裝ふ、後翅裏面の翅底及び第一室より第五室に至る迄各室に一赤紋を有す、體長八分、開張二寸五分乃至三寸。

幼蟲 濃褐色にして灰黃の小斑を散在す、氣門上線は黃色にして小突起より成り、氣門下線は黃褐體の前方は肥大し、後方に至るに隨ひ次第に細小す、第二節の背上には黃條を橫走し、其兩端は黑紋に終る、頭及び尾節に突起あり、尙第三節及び第五節に突起あり、體長一寸五分。

經過 年二回の發生、第一回は五六月、第二回は八九月、臺灣にありては三四回の發生をな

第四拾貳圖



第四拾貳圖

1. Papilio sarpedon L. くろたいまい……P.754
a. 幼蟲 p. 蛹
2. Papilio polytes L. しろおびあげは……P.755
3. Papilio polytes G. var pammon L. しろおびあげは變種……P.755

すものゝ如し、蛹の有様にて越年す、卵子は常に葉下に一個づゝ産下せらる、蛹は褐色にして胸背上の突起は甚だしく突出す、體長一寸二分。

(八) しろをびあげは Papilio polytes L. (第四十二圖版(2))

被害植物 柑橘類。

特徴 成蟲 二形あり一は帶狀に一列をなせる七個の黃白紋を裝ひ、他は中室の外方に五白紋を有す、前者は全體暗黑にして各室の末端に弦月形の小白紋を裝ふ、但し種類により紋狀の大なるものあり、後翅の內緣角に橙黃の一弦月紋を裝ひ、其上方に青色鱗を散在す、後者にありては前翅の外半は淡色、後翅の各室は表裏共に橙黃色の弦月紋を裝ひ、第一室及び第二室に各二紋あり、體長六分乃至八分開張二寸六分乃至三寸二分。幼蟲 綠色、第三、第五、第七、第八、第九及び第十二節の背上に白色の綾紋を裝へる暗色の鞍狀紋あり、體長一寸三四分。

經過 年數回の發生をなす、臺灣及び沖繩に產すれども、本州には未だ發見したることなし、蛹の有樣にて越年す、卵子は一個宛葉下に產附せらる、蛹は綠色、肩部白色なるもの多し、甚だしく彎曲し、頭部の角狀突起は大にして、胸背にある突起も亦大なり、何れの時期にありても此蝶を見得べし、其害餘り大ならず。

鳳蝶一般の驅除法

一、網を以て蝶を捕ふべし、特に花園を設くるときは其捕獲容易なり、特に其集來する花は「くさぎ」「ぼけ」「らんたな」「ふろくす」「ゆり」等なり、成蟲は或一定の場合に必ず廻り來るものなれば捕獲には其場所を發見すること必要なり、又雨後路上に靜止して水を吸收する性あり、又河畔の水邊或は小山の頂上に居ること普通なり。

二、蛹は常に食葉の近邊にあるを以て、注意せば發見するに難からず。

菊蟲と稱するものとなれるを以て、注意せば發見するに難からず。

三、幼蟲は多く葉上にありて食害するものなれば、石油乳劑の二十倍液を遠くより樹全體に灌注すべし、殊に幼時に於て一層の効あり、幼蟲は第一節の背上より黃角を出だすを以て其存在を認むること容易なり、又一種固有の臭氣によりて其居所を知り得べし、常に臭液を滲出するを以て直接手にて殺すよりも寧ろ鑷子の如きものを以て捕ふべし、粗布にて手袋を造り捕ふるも可なり。

双翅目 Dip'tera

蝿亞目 Pupipara

蝿科 Hippoboscidae

(一)**うましらみばい** Hippobosca equina Latr. (第四十三圖版(1))

被害動物 馬牛犬。

特徴 成蟲 體は黃褐頭前胸背の斑紋幷に稜狀部は黃白翅は透明脈は黑褐にして太し、脚は淡黃褐前腿節太く後腿節の末端幷に脛節に黑褐紋を裝ふ體長二分。

幼蟲 體は白色成蟲の體内を出づるや直ちに蛹化す。

經過 一年四五回の發生をなす成蟲は唯一匹の幼蟲を産す六七八の三ケ月間は何れの時期と雖も成蟲を見得べし幼蟲は母蟲の體外に出づるや直ちに毛間に入りて蛹化す蛹は球形にして二突起を有し初めは暗色なれども次第に褐色となり終に光澤ある黑色となる約四週間を經て羽化す。

驅除法 成蟲は普通馬の尾下臀部及び腹部に靜止するを以て網にて捕殺すべし蛹は光澤ある黑色を呈するを以て注意すれば發見するに難からず臀尾下其他部に一割の「テレビン」油を混じたる蓖麻子油を塗抹し置くべし。

(二)**いぬしらみばい** Hippobosca capensis Olf. (第四十三圖版(2))

被害動物 犬。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども小形にして淡色翅脈は翅と同色にして横脈及び其周圍のみ黑褐なり體長一分五厘乃至一分七厘。

(三)**ひつじしらみばい** Melophagus ovinus L. (第四十三圖版(3))

被害動物 羊。

特徵 成蟲　黃褐、體下は淡色、體毛及び爪は黑色、單眼、稜狀部及び翅を缺く、眼は甚だ細く腹部は袋狀をなして膨れ脚は太く二齒ある爪を有す、體長一分五厘。

經過 年四五回の發生をなす、老熟したる幼蟲は母體より出づるや直ちに土塊若くは羊糞下に潛みて蛹化す、蛹期三週間內外、成蟲となれば羊毛間に入りて血液を吸收す、其盛に發生せる場合は蟲糞のため毛の絲色を呈するに至ることあり、又羊は痒を治せんが爲め自體を他物に摩し毛の品質を損すべし、舍飼となすときは甚だしく蕃殖せざれども野外飼育の場合は發生頗る盛にして大害を加ふることあり。

驅除法 蛹は土塊間若くは羊糞間にあるを以て、灰汁に石炭酸の少量を混じ撒布すべし、家畜房は常に清潔に保ち、壁板柱等の空隙にも同液を注入すべし、毛間にあるものは胡桃葉を酢に浸漬したるものにて洗滌すべし、又「アルボース」石鹼の溶液に除蟲菊を浸漬したるものにて洗ふも効あり。

(四) あをばとしらみばい　*Ornithomyia aobatonis* Matts. (第四十三圖版(4))

被害動物 鳩。

特徵 成蟲　暗黃、前胸背の中央に淡色の縱條を裝ひ、其兩側に各一個の褐紋あり、翅の長さは體に二倍す、腹部は小にして橫卵形、頭部に三個の單眼を具へ脚に三爪を有す、體長一分五厘、翅端まで三分。

經過 年發生の回數は判然せざるも七、八の兩月頃鳩に普通なり、性甚だ活潑にして、直ちに飛去するを以て、注意せざれば捕獲し難し。

驅除法 鷄蝨と同樣の驅除法を行ふべし。

短角亞目　Brachycera

家蠅科　Muscidae

(一) しやうじやうばい　*Drosophila obscurus* Fall. (第四十三圖版(5))

被害物 酒、醋、醬油、味噌等。

特徵 成蟲　體は淡黃褐眼は赤褐、腹部は黑褐觸角、顏、脚、平均棍及び體下は淡黃、翅は體長より長くして透明、紫色の虹色を表はす、體長七厘內外。

經過 幼蟲　白色、細長にして頭の細小なる等、家蠅の幼蟲に異ならず、體長一分。

一年數回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年し、翌春厨房にありて種々の液汁に卵子を產下す、殊に味噌の如きは大害を被ることあり。

驅除法 鳥黐を以て蠅を捕ふべし、幼蟲の味噌其他の液汁に發生する憂ある場合は、胡椒、山椒等の粉若くは葉を入れ置くべし。

(二) むぎもぐりばい　*Chlorops circumdata* Meig. (第四十三圖版(6))

被害植物 麥其他の禾本科植物。

特徵 成蟲　黃色，頭頂，前胸背及び腹部は黑色，前胸背に二個の黃縱條を裝ふ，翅は透明にして少しく紅色を帶ぶ，體長一分五厘。

幼蟲　黃白色，半透明に近し，體長一分。

經過 年二回の發生をなし，成蟲の有樣にて越年す，翌春白色の卵子を麥其他禾本科植物の葉上に產下し，穗出づれば之に移りて食害す，六月下旬乃至七月上旬蛹化す，本邦に於ては其害未だ大ならず，蛹は黃色，兩端細小す，蛹期三週間，八月羽化す，第二回の幼蟲は十月上旬現はる。

驅除法 成蟲發生の時期を見計ひ，麥圃に至り掬網を以て捕殺すべし，幼蟲を捕ふべし，幼蟲の加害せる麥葉の局部は黃色に變ずるを以て容易に認め得べし。

(三) いねきいろはむぐりばい Chlorops oryzae Mats. （第四十三圖版(7)）

被害植物 稻。

特徵 成蟲　體黃色，頭頂の一紋及び後頭は黑色，胸背には三黑條を縱走す，其中央にあるものは胸背の中部に達す，翅は透明，紫色の虹色を表はす，腹背暗黃，基部は黑色，體長八厘。

幼蟲　白色，稍々紡錘狀に近く，尾端に突起を有す，體長二分二厘。

經過 年發生の回數は未だ判然せざるも二回なるが如し，新潟地方にありて稻を害すること少なからずと云ふ。

驅除法 同前。

(四) いねむぐりばい Oscinis oryzella Mats. （第四十三圖版(8)）

特徵 成蟲　暗黑，少しく綠色を帶ぶ，觸角は稍々卵形をなし，端刺に短毛あり，翅は透明，少しく暗色を帶び，紫樣の虹色を表はす，平均棍は白色，脚は黑色，中肢の轉節は黃褐，體長八厘。

幼蟲　白色，少しく青色を帶ぶ，形稍々紡錘狀に近く，前端に黑色の二齒あり，體長一分二厘。

經過 年二回の發生，第一回は五月下旬乃至六月中旬，第二回は六月下旬乃至七月中旬，成蟲は葉內に白色長楕圓形の卵子を一粒づゝ產下す，其數七八十粒ありて數回に之を產卵す，蛹は黑褐，普通莖上に附着す，蛹のまゝにて越年す。

(五) いねあをむぐりばい Siphonella viridiaenea Mats.

特徵 成蟲　前種に酷似すれども，少しく大形にして綠色一層甚だしく，顏は灰白にして，其前緣は半圓形に刳らる，體下及び脚は光澤なき灰綠色，腿節の末端及び脛節の基部は黃色，體長一分乃至一分二厘。

經過 前種と同一なるべし，前種と同時に發生したるものなれば，其差異は判然せず。

驅除法 同前。

(六) なむぐりばい Phytomyza nigricornis Macq. （第四十三圖版(9)）

被害植物　十字科植物、豌豆。

特徴　成蟲　灰黒色、頭は黄色、頭頂に一暗色紋を裝ふ、觸角は黒色、翅は大にして體長より長く、脈は黄白、平均棍は白色、脚は黒色、腿節の末端は暗黄色、體長六厘。

幼蟲　白色、稍々紡錘狀をなせども前端は一層細小す、體長一分。

經過　發生の回數未だ明かならず、六七月頃、十字科植物及び豌豆の如き莖科植物の葉中に蜿蜒たる隧道を穿ちつゝ食害し、老熟すれば葉中に蛹化す、蛹は黒褐にして長さ七厘あり、越年の狀態は判然せざるも、恐らくは他の蠅に同じく成蟲の有樣なるべし。

驅除法　同前。

(七) ひめいへばい　Homalomyia canicularis L.　（第四十三圖版(10)）

被害物　室内の食物。

特徴　成蟲　體は灰褐、觸角は黒褐、端刺は羽狀をなす、胸背に黒褐の三縱條あり、翅は透明、少しく暗色を帶び、脈は暗黄、雄にては腹部の兩側は暗黄、雌にては全部灰褐、體長一分八厘乃至二分二厘、

幼蟲　暗色にして長楕圓形をなし、體上及び體側に肉狀の突起多し、體長四分。

經過　年發生の回數は未だ判然せざれども少くとも數回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年し、翌春室内の食物に集り、又時に室内に飛翔す、「いへばい」の如く大害を加へず、幼蟲は植物性の腐敗物に棲息す。

驅除豫防法　木片に鳥黏を塗り天井より吊り置くべし、又數多群をなして室内に飛翔するものなれば網を以て掬ひ捕ふべし、蠅採籠に砂糖液醋酒等を入れて誘引すべし、植物性の腐敗物は燒棄して除去すべし。

(八) だいこんばい　Anthomyia flavopicta M.ts.　（第四十三圖版(11)）

被害植物　蘿蔔蕪菁其他の十字科植物及び莖科植物。

特徴　成蟲　體は暗灰色、胸背に判然せざる暗色の縱條を裝ふ、觸角及び脚は黒色、雄にては觸角上に一黄紋あり、雌にては複眼の内側白色なり、翅は透明、基部少しく黄色を呈す、雄の腹部には一黒條を縱走す、雌は之を缺く、體長一分乃至一分五厘。

幼蟲　乳白色にして少しく黄色を帶ぶ、體は圓柱形にして判然せざる十一節より成り前方に突出す、判然せる頭部なく、尾端は截斷狀に終り、其下緣に短歯を列ぬ、體長三分。

經過　年三四回の發生をなす、普通成蟲の有樣にて越年し、翌春植物の根際に二百内外の卵子を産す、卵期は十日内外、孵化すれば直ちに根邊に入りて食害す、之に罹りたる蘿蔔は幼蟲分泌液のために腐敗すること速かなり、普通四週間内外にて一代を終る。

驅除豫防法　蠅の出づる時期を見計ひ網を以て捕ふべし、根際に石油乳劑の二十倍液を注入すべし、又第三回間引後石炭酸に百倍乃至二百倍の水を混じ鋸屑に浸し根際に撒布すべし、「タール」を塗抹せる紙を適宜に切りて根際を掩ひ置くべし。

(九) **ひめくろばい** Ophyra nigra Wied. (第四十三圖版(12))

被害動物 人類。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒色、眼は小豆様の赤褐、觸角は黒褐、胸背は光線の工合により少しく藍色を現はす、翅は透明、脈は黄褐、光線の工合にて紅色を現はす、體長二分。

幼蟲 家蠅の幼蟲に酷似す。

經過 便所に普通なる種にして、幼蟲は糞尿を以て食とし肥料成分を減却すれども未だ害蟲と認むべきものにあらず、其經過未だ詳かならずと雖も、病菌を傳播する重なるものなるべし。

(一〇) **おほいへばい** Cyrtneura stabulans Fall. (第四十三圖版(13))

被害動物 人類。

特徴 成蟲 暗灰色、胸背に四本の黒縦條を具へ、腹部の中央に黒色の一縦條を走らし、褐色の光澤ある斑紋を裝ふ、觸角の中部小腮鬚稜狀部の末端及び脚は黄褐時に黒色なることあり、體長三分乃至三分五厘。

經過 幼蟲は植物性の腐敗物及び馬糞を以て食とし、成蟲の有様にて越年す、翌春屋内にありて食物に集まり大害を加ふ、又病菌の媒介をなす。

(一一) **いへばい** Musca domestica L. (第四十三圖版(14))

被害動物 人類。

特徴 成蟲 體は黒褐、顏は黄白、觸角及び小腮鬚は黒色、胸背に四箇の黒縦條を裝ふ、雄については腹部の兩側に黄褐紋あり、體長(雌雄)二分乃至三分。

幼蟲 白色、長圓錐形にして尾端は截斷狀に終り、之に褐色の二氣門を有す、口部は單に一個の黒色鉤を有するに過ぎず、體は十一個の環節より成り、第三節の兩側に各一個の氣門を有し、體下には疣狀突起ありて運行に便ならしむ、體長四分。

經過 年七八回の發生をなす、成蟲の有様にて越年し、翌春馬糞其他の腐敗物に産卵す、一雌の總卵數は百二十内外、約一週間にて老熟し、次で蛹化す、蛹は赤褐色にて圓蛹なり、長さ一分八厘。

(一二) **くろいへばい** Musca corvina L.

被害動物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、雄にては顏の兩側銀白色、胸背は光澤ある黒色にして、更に濃色の判然せざる四縦條を走らす、但し光線の工合により前胸の前方は白色を現はす、腹部は黄褐、第一節背線幷に尾端は黒色、雌にては腹部黒色、灰白の光澤ある斑紋を裝ふ、體長二分二厘乃至二分五厘。

經過 同前、此害蟲は山間の道路に多く、都市には稀なり。

(一三) **きんばい** Lucilia caesar L. (第四十三圖版(15))

被害物 動物性の食物。

特徵　成蟲　體は金綠色、前胸背の前緣に白粉を裝ふ、複眼は赤褐、顏は上方より見れば銀白色、觸角は黑褐、翅は透明、脈は黃褐、腹部は稍々球形に近し、日數を經たるものは黃金色を呈す、脚は黑色にして少しく綠色を帶ぶ、體長二分五厘乃至三分。

幼蟲　白色にして少しく黃色を帶ぶ、體は十一節より成り、尾端の氣門及び口部は暗色を呈す、體長四分。

經過　年數回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、翌春動物性の食物其他屍骸に產卵す、蛹は初めは赤褐にして次第に黑褐となる、約十日間にて一代を終る、時々生魚と共に人類の胃腑内に入り大害を加ふることあり。

（一四）おほきんばい Lucilia jeddensis Big.

被害物　同前。

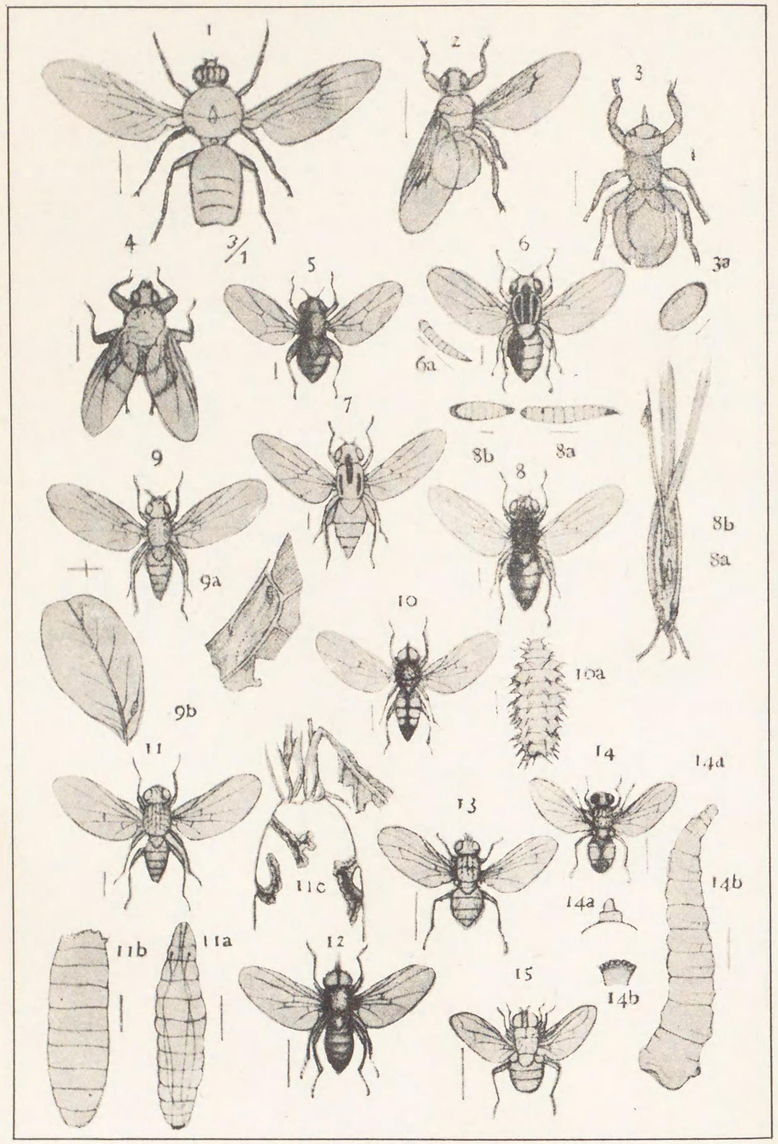
特徵　成蟲　前種に酷似すれども遙に大形、青藍色にして觸角は黑褐、脚は黑色、體長三分乃至三分五厘。

幼蟲　同じく前種に酷似すれども、尾端に赤褐の長楕圓紋ありて橫置せらる、體長五分。

經過　同前。

（一五）おびきんばい Lucilia dux Esch. （第四十四圖版(1)）

被害物　同前。



第四拾參圖

1. Hippobosca equina Latr. うましらみばい ……P.756
2. Eippobosca capensis Olf. いぬしらみばい ……P.757
3. Melophagus ovinus L. ひつじしらみばい ……P.757
   a. 蛹
4. Ornithomyia aobatonis Mats. あをばとしらみばい ……P.758
5. Drosophila obscurus Fall. しやうじやうばい ……P.759
6. Chlorops circumdata Meig. むぎもぐりばい ……P.759
   a. 幼蟲
7. Chlorops oryzae Mats. いねきいろはむぐりばい ……P.760
8. Oscinis oryzaella Mats. いねむぐりばい……P.761
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
9. Phytomyza nigricornis Macq. なむぐりばい……P.761
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
10. Homalomyia canicularis L. ひめいへばい ……P.762
    a. 幼蟲
11. Anthomyia flavopicta Mats. だいこんばい……P.763
    a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 被害ノ有樣
12. Ophyra nigra Wied. ひめくろばい ……P.764
13. Cyrtoneura stabulans Fall, おほいへばい ……P.764
14. Musca domestica L. いへばい ……P.764
    a. 幼蟲ノ頭部 *b.* 氣門
15. Lucilia caesar L. きんばい ……P.765

特徴 成蟲 前種に酷似すれども金絲色にして顏及び觸角は黃色、胸背に剛毛少なし、各腹節の末端に紺色帶あり、體長三分乃至三分五厘、

幼蟲 不明。

經過 年幾回の發生をなすか判明せざれども小笠原島臺灣の如き熱帶地方に產するものなれば、少くも十數回に達すべし、前揭の地方にありては何れの時期にも見得べく、動物性の食物に大害を加ふ、早朝群をなして蜂の如き聲を發す。

(一六) くろばい (蒼蠅) Calliphora lata Coq. (第四十四圖版(2))

被害物 同前。

特徴 成蟲 灰黑、腹部は藍色顏は雄黃褐、雌銀白色にして少しく黃色を帶ぶ、口吻鞘は赤褐觸角は黑褐、第三節の基部は赤褐、前胸の氣門は黃色、脚は黑色、鱗狀瓣灰色、其周圍は白色、體長四分乃至四分五厘。

(一七) こくろばい Calliphora erythrocephala Meig.

特徴 成蟲 前種に酷似すれども遙に小形、顏は赤褐、觸角は黑褐、第三節の基部は灰色、腹部は藍色、背線及び各節の橫帶は黑色、體長二分乃至三分五厘。

(一八) さしばい Stomoxys calcitrans L. (第四十四圖版(3))

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 灰色、頭頂に馬蹄狀の黑紋を裝ふ、顏は黃白色にして金光を放つ、胸背に四個

の黒縦條を走らす、腹部は卵形に近く之に七個乃至九個の大黒紋を散在す、脚は黒色、脛節の基部は赤褐體長二分乃至二分七厘。

幼蟲　光澤ある乳白色、口部に不等なる二鉤を裝ひ、氣門の周圍は黒褐、尾端の周圍には肉狀の突起多し、體長三分。

經過　年二回の發生をなし、幼蟲の有樣にて、普通馬糞中にありて越年す、第一回の蠅は五月、第二回は八、九月に亘りて現はる、人畜を螫し大害を加ふることあり、殊に牛馬に「ツレバノソーミア」病菌を移殖して大害を與ふ、馬の「フラフラ」病を媒介するを以て注意すべし。

驅除法　林間にありては火繩を携ふべし、莵麻子油の臭氣は之を驅除し得べし、又家畜房にありては黄昏若くは早朝蠅の靜止する處に除蟲菊の浸汁に「アルボース」石鹸を混じ灌注すべし、又網を以て捕ふべし。

(一九) しまばい Sarcophaga carnaria L. (第四十四圖版(4))

被害物　肉類。

特徴　成蟲　灰色、顏は光澤ある黄色、頭頂、觸角及び下唇鬚は黒色、眼は赤褐、胸背に五個の黒縦條ありて、兩側にあるものは短し、稜狀部の中央に一個の暗色紋を裝ふ、翅は透明、少しく暗色を帶ぶ、腹部は黒色、各節に四個の灰白紋を裝ふ、鱗狀瓣は白色、脚は黒色、雄にては後脛節に黒色の房狀毛を裝ふ、體長四分五厘乃至五分。

幼蟲　「きんばい」の幼蟲に酷似す、白色にして疣狀突起を散在す、尾端の肛門下に二個の尾狀突起あり、口部の鉤は小にして判然せず、體長三分五厘乃至四分。

經過　年數回の發生をなし、蛹の有樣にて越年す、卵は母體内にて成長し、幼蟲となりて産下せらる、一週間内外にて一代を終る、而して生魚と共に人類の胃腑内に入り大害を加ふることあり。

(一二〇) ひめしまばい Sarcophaga melaura Meig.

被害物　同前。

特徴　成蟲　前種に似たれども形小にして腹部の斑紋は光澤ある淡黄褐、雄の尾端は光澤ある黒色にして灰色の黄紋を裝ふ、雌にては灰色、體長三分七厘乃至四分五厘。

(一二一) こしまばい Sarcophaga privigna Rond.

被害物　同前。

特徴　成蟲　「しまばい」に酷似す、形小なれども割合に太し、翅は殆ど透明にして「しまばい」の如く暗色を帶びず、腹部の斑紋は少しく黄色を帶ぶ、體長三分五厘乃至四分。

(一二二) かひこのうじばい Sturmia (Crossocosmia) sericariae Rond.
Tachina ciliipes Macq. (第四十四圖版(5))

被害動物　家蠶。

特徴　成蟲　體は灰黒、顏は灰白にして銀光を放つ、觸角黒褐、胸背に黒色の五縦條を裝ふ、

稜狀部は黃褐、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ、脈は黃褐、鱗狀瓣は白色、雄には腹部の兩側に暗黃の大紋あり、全體剛毛多し、體長四分內外。

幼蟲 體は圓柱形をなし、頭部に向て尖小す、口部に二個の黑色鉤を裝ひ、尾端は截斷狀に終る、橫皺多し、體長六分乃至七分。

經過 年一回の發生、蛹の有樣にて越年す、翌春五月頃羽化し、葉下に二粒乃至三粒の卵子を產下す、一頭の總卵數は六千內外、卵子は普通葉の中肋に沿ひて產下せられ、葉と共に蠶兒の胎內に入る、十分成長すれば蠶體を離し地下に下りて蛹化す、蛹は黑色なり。

驅除豫防法 蠅は葉上にありて暄を負ふの性あるを以て網を以て捕ふべし、蠶兒の病徵を現はすものは可成別に上簇せしめ、結繭後速に蒸殺して蛆の脫出を防ぐべし。

牛蠅科 Oestridae.

(一) うまばい Gastrophilus equi F. (第四十四圖版(6))

被害動物 馬牛。

特徵 成蟲 黃褐、頭、觸角、脚及び腹部は黃色、胸背に軟毛を密生し、稜狀部に刷毛狀の長毛を簇生す、翅は灰白半透明、中央の大紋及び翅端の二小紋は暗色なり、各腹部の基部は黃褐雄にては腹部下方に彎曲し、雌にては最後の二節膝狀に曲折す、體長四分五厘內外。

幼蟲 初めは白色、馬の體內より出でたるときは黃赤色を呈す、前端細く、口に二鉤を裝ふ、體の中央部最も廣く、尾端は截斷狀に終る、各節に二列の棘狀突起列ありて後方に向ふ、體長六分乃至六分五厘。

經過 年一回の發生をなす、九ケ月乃至十ケ月間は寄主の體內にあり、蠅は六月より十月に亘りて出づ、成蟲は好んで山の頂上に暄を負ふ、高飛する性あり、雌は七百內外の卵子を馬の體毛に產附す、卵は黃白色にして長さ四厘內外、稍々圓柱形にして末端は斜に截斷せられたるが如し、一匹の馬に產附せらるゝ卵數は四百乃至五百、卵子孵化すれば毛間に侵入して皮膚に達し、口鉤を以て孔を穿つ、馬は之が爲めに痒みを覺え、之を舐るに當り幼蟲は舌に附着して口腔內に入り次で胃腑に達す、後口鉤を以て胃壁に懸り液汁を吸收す、老熟すれば黑色卵形の蛹となり、馬糞と共に體外に出づ。

驅除法 主に放牧せる馬に寄生するものなれば、其驅除豫防困難なり、務めて網を以て蠅を捕へ、叉金梢にて卵子をかき取るべし、幼蟲の胃腑內にあるものを殺すには蓖麻子油を飲ましむべし。

(二) ひつじばい Oestrus ovis L.

被害動物 羊。

特徵 成蟲 體灰黃黃白及び黑色の斑紋を裝ひ、顆粒狀の突起あり、觸角は黑色、脚は黃褐、翅は透明、脈は黃褐鱗狀瓣は灰白、體長三分五厘乃至四分。

幼蟲　體は稍々圓錐形に近く、腹面は平たし、第二節より第十節まで各節の背上に劍狀の橫隆起を具へ、其兩側に一双の瘤狀突起あり、又腹面には疣狀突起多し、初めは白色なれども次第に褐色の橫紋を有するに至る、體長六分五厘乃至一寸。

經過　年一回の發生をなす、成蟲は七月より、十月に亘りて出づ、蠅は胎生兒を鼻孔に產下す、幼蟲は深く鼻孔に入り其內部に寄生するを以て大害を加ふ、約九ケ月間にて老熟すれば鼻孔より出で、地上に下りて蛹化す、蛹は六週間にして羽化す、羊の此害蟲に侵さるゝや、鼻孔より一種の分泌物を出だし、頻繁に噓をなし同時に呼吸困難の狀を示し、鼻を地上其他種々の物體に摩擦するを以て、容易に其存在を知り得べし。

驅除法　蠅の出づる時期を見計ひ網を以て捕ふべし、家畜房は可成白色に塗り、以て蠅の存在を知るに容易ならしむべし、蛆の寄生せる徵候を現はす場合には、噓煙草を鼻孔に挿入し、噓の都度其出で來たる幼蟲を殺すべし、砒石劑其他の劇劑を用ふるも蛆は容易に死することなし、蛆の發生夥しくして加害甚だしき場合は鼻骨を切開して其內の蛆を殺すべし。

(iii) **うしばい** Hypoderma bovis Deg. (第四十四圖版(7))

被害動物　牛。

特徵　成蟲　黑色にして軟毛を密生す、顏は灰黃色、胸背に黑色の四縱條を負ひ橫皺の前方に綠黃稀に白色の長毛を簇生す、稜狀部は黃色、後胸背及び腹部は黑色、後者基部の兩側は白色若くは黃色、尾端は赤黃、翅は大にして少しく灰色を帶び、脈は褐色、平均棍は黑褐體長四分三厘乃至五分。

幼蟲　初めは白色、老熟すれば黑褐生す第二節乃至第九節に至る迄各二個の光澤ある疣狀突起を裝ふ體長七分乃至九分。

經過　年一回の發生をなす、成蟲は七月より九月に亘りて出で牛の皮膚に產卵す、卵子孵化すれば皮下に蝕入して大害を加ふ、卵子は白色、一端は褐色、長楕圓形にして少しく扁たし、初めは甚だしく加害せざるも第二齡以後は局部瘤狀に膨れ、其成長と共に瘤も亦大形となり、終に膿化して大害を加ふるに至る、老熟すれば地上に降り蛹化す、蛹は黑色、蛹期は四週間內外。

驅除豫防法　牛の皮膚に蓖麻子油を塗り置くべし、腫物を破りて蛆を除却し、百倍の石炭酸液にて局部を洗滌すべし、蠅は注意して捕獲すべし。

虻　科　Tabanidae

(i) **ごまふあぶ** Haematopota tristis Big. (第四十四圖版(8))

被害動物　人畜。

特徵　成蟲　體は暗褐、眼の上方大半は淡黃褐、下方小部分は黑色、觸角は黑色、第三節の基

部は暗黃褐,顏は灰色,黑色の小點を密布す,小腮鬚は暗黃褐,胸背に三條の灰白線を縱走す,腹部は黑褐各節の後緣は黃色,翅は暗色,灰色紋を散在す,脚は黑色,脛節の兩端は黃褐,體長三分四厘。

經過 未だ判然せざれども,幼蟲は虻に同じく朽木に棲むものゝ如し。

驅除豫防法 成蟲を捕殺すべし,朽木を取り除くべし牛馬の場合には蓖麻子油を塗抹し置くべく,林間を旅行するときは火繩を携ふべし。

(二) あかはねごまふあぶ Haematopota rufipennis Big.

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども少しく大にして顏及び小腮鬚は黑色第三觸角節の基部は赤褐,翅は赤褐を帶ぶ,體長三分五厘。

(三) めくらあぶ Chrysops dispar F. (第四十四圖版(9))

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 體は黑色,觸角は黑褐にして長く頭の二倍以上あり,第一節は黃色,頭は黃色,觸角上下の瘤狀突起は光澤ある黑色,胸背に四條の黃線を縱走す,翅は透明,前緣中央の三角紋及び其下方にある小紋は黑色,第一及び第二腹節は黃色,但し第一節の中央にある二紋は黑色,背線は黃色,脚は黑色,中脛節及び中後の跗節は末端を除き暗黃,體長三分五厘。

經過 未だ判然せず,幼蟲は土中に棲むものゝ如し。

(四) くろめくらあぶ Chrysops japonicus Wied. (C. aterrimus Kirby.) (第四十四圖版(10))

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 全體光澤ある黑色,翅は白色透明にして少しく暗色を帶び前緣及び中央の大三角紋は黑色,體長三分五厘。

(五) ひげながさしあぶ Dichelacera japonica Big.

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 體は黑褐,觸角は暗黃,末端及び小腮鬚は黑色,白色を裝ふ,腹部は暗黃,基節は赤褐尾節端は黑色,鱗狀瓣,平均棍及び脛節は暗黃,翅は稍々透明なり,體長五分。

經過 不詳。

(六) こしろふあぶ Tabanus amaenus Wk. (T. trigeminus Coq.)

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 體は灰黑,複眼は黑褐にして少しく綠色を帶ぶ,顏は灰色,觸角は黑褐,第三節の基部は赤褐,胸背の中央に三個の灰白縱條を走らし,其中央にあるものは細し,翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ,脈は黃褐,前緣は黑褐,鱗狀瓣は暗黃,平均棍は黃色にして末端の大部は黑褐,腹部は黑色,各節の後緣及び三角形の中央紋は灰白,脚は暗黑,脛節は末端を除き黃色,體長(雌雄)五分乃至六分。

(七) あかうしあぶ Tabanus chrysurus Loew. (第四十四圖版(11))

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 體は黒褐,頭及び顏は黄色,複眼は暗黒にして少しく綠色を帶び光澤あり,觸角及び小腮鬚は黄色,口吻は黒褐,胸背は中央に二個の黄縱條を走らす,兩側も亦黄色なり,翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ,脈は黄色,腹部は黒褐,各節の後緣は黄色,但し第六節以下は全部黄色,脚は黄色,腿節は末端を除き黒褐,跗節は褐色,體長(雌,雄)八分乃至八分五厘,此は最大の虻にして北海道に普通なり。

(八) うしあぶ Tabanus trigonus Coq. (第四十四圖版(12))

被害動物 人畜。

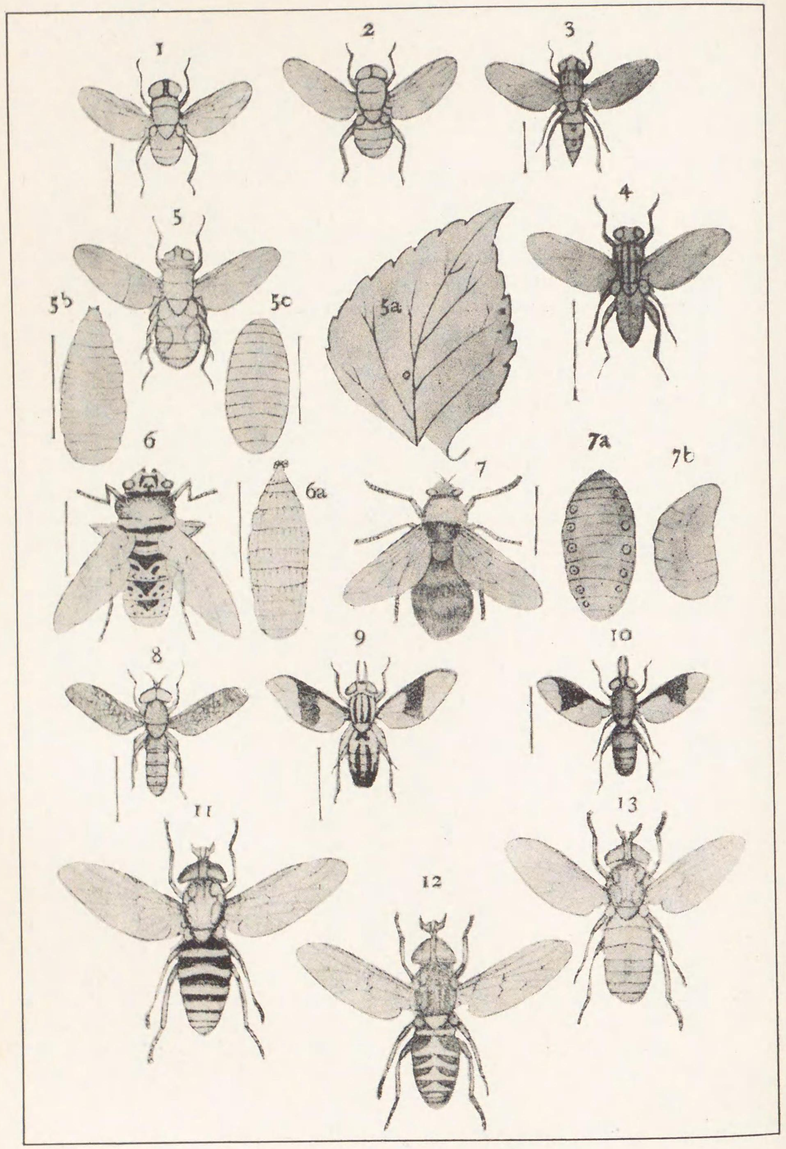
特徵 成蟲 體は灰黒,複眼は黒綠,顏は灰黄,觸角の第一及び第二節は黄褐,第三節は黄色にして末端は黒色,口吻は黒褐,胸背に灰白の五縱條を走らす,翅は透明にして少しく褐色を帶ぶ,脈は黄褐,前緣脈は褐色,腹部は黒褐,各節の後緣中央の三角紋及び側部は淡黄,脚は黒褐,腿節の末端及び脛節は黄色,體長(雌,雄)八分,中國地方に普通なり。

(九) あかあぶ Tabanus rufidens Big. (第四十四圖版(13))

被害動物 人畜。

特徵 成蟲 體は暗灰色,灰色の短毛を密生す,複眼は暗黒にして少しく綠色を帶ぶ,顏は淡黄,短毛を密生す,觸角は黄色,第三節は基部及び枝狀突起を除き黄色,口吻は黒褐,胸

第四拾四圖



第四拾四圖

1. Lucilia dux Esch. をびきんばい ……P.766
2. Calliphora lata Coq. くろばい ……P.767
3. Stomoxys calcitrans L. さしばい ……P.767
4. Sarcophaga carnaria L. しまばい ……P.768
5. Sturmia (Crossocosmia) sericariae Rond. かいこのうじばい ……P.769
   a. 卵 *b.* 幼蟲 *c.* 蛹
6. Gasterophilus equi F. うまばい ……P.770
   a. 幼蟲
7. Hypoderma bovis Deg. うしばい ……P.772
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
8. Haematopota tristis Big. ごまふあぶ ……P.773
9. Chrysops dispar F. めくらあぶ ……P.774
10. Chrysops japonicus Wied. くろめくらあぶ ……P.775
11. Tabanus chrysurus Loew. あかうしあぶ ……P.776
12. Tabanus trigonus Coq. うしあぶ ……P.776
13. Tabanus rufidens Big. あかあぶ ……P.776

背には判然せざる三個の暗黒縦條あり、翅は透明にして淡褐を帯び、前緣及び脈は褐色、平均棍は褐色、腹部は赤褐、腹背の中央に黒色の縦條を走らし、其中に更に灰色の判然せざる縦條あり、腹面の中央には黒褐の太き縦條を有すれども尾端に達せず、脚は黒褐、脛節は黄色、體長（雌雄）七分乃至七分五厘。

（一〇）**きばらあぶ** Tabanus tropicus Meig.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は灰黒、複眼間にある光澤ある一個の黒紋あり、觸角は黄色、第三節末端の二分の一若くは三分の二は黒褐、胸背は光澤を有し灰色の三縦條あり、翅は透明にして少しく褐色を帯ぶ、脈は黄褐、腹部は灰黒、初めの第三第四節の側面は廣く黄橙色、各節の後緣は細く黄色、脚は黄褐、腿節は末端を除き黒褐、蹠節は褐色、體長（雌雄）五分五厘乃至六分、東北地方に普通なり。

（一一）**きいろあぶ** Tabanus pyrrhus Wlk. （第四十五圖版(1)）

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は黄褐、赤黄の短毛を密生す、複眼に紋條なし、觸角は黄色、小腮鬚は淡黄、口吻は黄褐、胸背には縦條を有せず、翅は透明にして前緣及び脈は黄色、鱗狀瓣及び平均棍は淡黄、腹背は赤黄、中央の短き縦條及び尾端の四節は黒褐、金色の短毛を密生す、脚は黄色、脛節端及び蹠節は黒褐、體長（雌雄）四分五厘乃至五分、中國地方に普通なり。

水虻科 Stratiomyiidae.

(一) ひげながみづあぶ Stratiomyia barca Wk. (第四十五圖版(2))

被害植物 苗代の稚稻。

特徵 成蟲 體は黑褐、雄の複眼は相密着し、顏に金色の短毛を密生す、雌の後頭及び觸角の上方に各一個の黃色大紋を裝ふ、觸角は黑色にして長く、第三節は大にして紡錘狀をなす、胸背は黑褐、稜狀部に黃色の二棘刺あり、翅は暗色半透明にして脈は黃褐、末端は透明、平均棍は淡黃、腹部は黑色、第一及び第二節の側面幷に第三節の後緣は黃色、尾端の一縱條も亦黃色、脚は黑色、脛節の基部及び跗節は黃色、體長(雌雄)五分乃至五分五厘。

幼蟲 體は長き紡錘狀、尾端に至るに隨ひ細小となる、暗色にして背上に暗黃色の四縱條を併走す、但し外側にあるものは斷續せり、頭は暗褐にして兩側に弓狀の一縱溝を具へ、其兩側に各一個の單眼あり、尾節は細くして長さ次節に二倍す、體長一寸四五分、俗に之を「なめうじ」と云ふ。

經過 年一回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、翌春泥水其他腐敗水に產卵す、稀に苗代に發生し、苗根を浮上して大害を加ふることあり。

驅除豫防法 早春花上にある蠅を捕獲すべし、苗代にて之を發見したる場合は水を落して新鮮なるものを入るべし、水腐敗せざれば此害蟲の蕃殖を見ることなし。

石炭酸に水を混じ灌注すべし、又石油乳劑の十倍液を注ぐも効あり、又水は時々落し

長角亞目 Nematocora.

大蚊科 Tipulidae.

(一) ひめきりうじがゝんぼ Tipula parva Loew. (第四十五圖版(3))

被害植物 稻麥。

特徵 成蟲 體は暗褐、頭の中央、前胸、胸側、胸背の細き二縱條稜狀部及び平均棍は黃色、觸角は淡黃にして末端は少しく暗色を帶ぶ、各節の末端は黑色、二三の剛毛を裝ふ、翅は透明にして少しく暗色を帶び、中央に近く白色の透明紋あり、脈及び緣紋は暗褐、第一及び第二腹節の兩側は淡黃、脚は頗る長く、暗黃、腿節は淡色にして其末端は黑褐、體長三分五厘乃至五分五厘。

幼蟲 體は暗灰色、頭は小にして黑き大腮と觸角とを具へ、圓柱形にして橫皺多く、尾端は截斷狀に終り、其周圍に約十二個の肉狀突起を具へ、中央に二個の氣門ありて其直下に肛門あり、體長七分五厘。

經過　年二回の發生、普通幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化し六月上旬羽化す、蚊は卵子を苗代に產下す、其數三百內外なり、卵は黑色長楕圓にして一端に三角形の附屬物あり、七月下旬乃至八月上旬蛹化し、約二週間を經て羽化す、其性甚だ遲鈍にして低く飛翔す、幼蟲は粘土濕地又は日蔭を好み、晝間は泥中地中若くは地物の下に住し、夜に至り稻麥の根際を嚙み切り大害を加ふ、故に此名あり。

驅除法　蚊は飛翔遲鈍なるを以て、其羽化の時期を見計ひ網を以て捕獲すべし、苗代に蕃殖したる場合は、前述の「ひげながみづあぶ」と同樣の方法を行ふべし。

（二）おほきりうじがゝんぼ　Tipula longicauda Mats.

被害植物　稻麥。

特徵　成蟲　體は灰色、口吻小腮鬚及び觸角は黃色、第二及び第三節の末端は黑褐、胸背に灰褐の四縱條ありて、中央にあるものは後方に至りて細まる、稜狀部は暗黃、翅は透明にして少しく暗黃を帶び、翅底及び前緣並に緣紋は黃色、脈は褐色、平均棍は黃白、末端の頭狀部は黑褐、腹部は黃色、黑褐の一縱條あり。脚は黃色、腿節及び脛節の末端並に跗節は黑褐、體長（雌雄六分五厘乃至八分。

經過　同前。

蚊　科　Culicidae.

（一）うすか　Culex pallens Coq.（第四十五圖版(4)）

被害動物　人畜。

特徵　成蟲　雌の頭は黃褐、口吻黃色、觸角褐色、第一節及び第二節の基部は黃色、胸背は黃褐側片及び後胸は黃色、稜狀部は灰白、平均棍腹部及び脚は黃色、但し平均棍の末端は褐色を帶ぶ、翅透明、虹樣の彩色を現はす、雄の雌と異なる點は、其觸角長き旋毛狀を呈し、之に銀白の部分を有するにあり、體長一分五厘乃至二分。

幼蟲　體は暗灰色、頭圓く、二個の單眼を具へ、大腮は割合に大にして內方に曲る、觸角に箒狀毛あり、腹部は大にして尾端に至るに隨ひ次第に細小す、尾節は二個に分れ、各其末端に氣門を開き、其周圍に放線狀の剛毛を裝ふ、體長三分。

經過　年數回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春二百乃至三百の卵子を溜水若くは潭水に產下す、卵子は蟻狀を呈し、互に相固着して船形をなす、數日の後孵化す、幼蟲は動植物性の腐敗物を食ひ、三週間にして約三回の脫皮を終り蛹化す、蛹は活潑にして二個の判然せる角狀突起を裝ひ、其末端に氣門あり、幼蟲の運動する狀恰も棒を振るの觀あるを以て俗に「ぼうふり」と云ふ。

驅除豫防法　幼蟲を驅除するには石油を用ゆ、成蟲の黃昏軒下等に群集せる時期を見計ひ網を以て捕獲するか、又は除蟲菊の粉末を燻蒸すべし、蜻蛉は蚊を食餌となすが故に保護すべし、其幼蟲も亦「ぼうふり」を食とす「テレビン」油を廣口の罎に入れ、開口した

る儘之を室內に置くも効あり。潭水の腐敗する場合には幼蟲の蕃殖する患あるを以て、成るべく新鮮なるものを入れ代ゆるか、然らざれば常に金魚などを入れ置くべし。

(二) くろか Desvoidyia obturbans Wk. (Culex subalbatus Coq.)

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗褐、複眼の後方及び觸角の基部は暗黃、胸背の中央に褐色毛を裝ひ、兩側に白毛を混ず、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ脈は暗褐、同色の鱗狀毛を並列す、平均棍は淡黃、末端は少しく暗色を帶ぶ腹部は暗褐脚は暗黑、後腿節基部の大半は白色、夏日東京地方に普通なり、體長(雌雄)一分七厘乃至二分。

經過 同前。

(三) はまだらか Myzorhynchus (Anopheles) sinensis Wied. (第四十五圖版(5))

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗灰色、頭小、觸角は細くして暗褐、太さ小腮より短し、胸背には褐色の五縱條を走らし、最も外側にあるものは太し、翅は透明にして少しく暗色を帶ぶ脈は黃色にして黑褐及び黃色の鱗毛を有し、中央部に近く黑褐色をなせる四五個の鱗毛紋あり、平均棍は灰白、雌の腹部は暗黃、背線は黑褐、雄にては暗褐、金色の長毛及び短毛を混生す、脚は暗黃、跗節の各接合部は黃白なり、體長(雌雄二分內外。

幼蟲 普通蚊の幼蟲は垂直に浮べども、此類にありては水平に游泳す。

經過 年數回の發生をなし、成蟲の有樣にて越年す、其經過普通蚊と異なることなし、卵子は普通一個宛產下せられ、稍々紡錘狀をなす、色は灰黑なり、成蟲の靜止するときは、口吻を前方に突出し、尾端を擧ぐるを以て、容易に識別することを得べし、此蚊の唾液線中に「プラスモデウム」と稱する下等動物を宿し、其刺螫の都度人類の血液に移り「マラリア」熱病を起す。

驅除豫防法 普通蚊と異なりて、靜止のときは口吻を下方に斜出し、腹端を上方に擧ぐるを以て、容易に區別するを得べし、(播州高砂附近に發生する蚊は大部之なり)普通蚊と同じく黃昏軒下等に群集する時期を見計ひ網を以て捕獲すべく、幼蟲は普通蚊の幼蟲と異なり流水に棲息するを以て注意して掬ひ捕ふべし、又魚を放ちて之れを捕食せしむるも可なり。蛹蛉の幼蟲は好みて之を食す、刺螫せられし場合には、針端にて其局部に穴を穿ち之に石炭酸の五十倍液を注ぐべし。

搖蚊科 Chironomidae.

(一) ぬかが Ceratopogon jezoensis Mats.

被害動物 人畜。

特徴 成蟲 體は暗灰色、觸角黃色、翅は灰白、半透明、緣紋は褐色、其兩側は白色、平均棍は白

色、腹面は黃色、體長（雌雄）三厘內外。

幼蟲　未だ判然せざれども、歐洲產のものと同じく樹皮下若くは腐蝕植物下に棲息するものゝ如し。

經過　不明なれども、山間に普通にして其甚だ微小なるに係らず之に刺螫せらるゝときは甚だしき腫傷を生ず、札幌地方にありては九月頃最も多し。

驅除豫防法　障子には寒冷紗を張り其侵來を防ぐべし、一度室內に入りたるものは除蟲菊の粉末を燻して殺すべし、微小にして認識に苦しめども亦網を以て捕獲し得べし、刺螫せられたる場合は前同樣石炭酸五十倍液を用ふべし、又無臭沃度フオルムを塗抹するも有效なり、燈火に飛來するの性あるを以て誘殺すべし。

（二）おほぬかが　Ceratopogon arakawae Mats.

被害動物　鷄（人畜？）。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども、形大にして翅は暗色、之に十三四個の白紋あるを以て容易に區別することを得べし、體長五厘。

幼蟲　黃白色、十一節より成り、前半次第に細小し、尾端切斷狀をなす、體長五厘。

經過　未だ判然せざれども、幼蟲は鷄糞中に棲息し、凡二週間位に一代を經過するもゝ如し（四國地方にありて）稚鷄に大害を加ふ。

驅除豫防法　室內にありて除蟲菊を燻烟すること、網を以て捕ふること、靜止するものには

アルボース液に五十倍の水を混じて灌注すること、幼蟲は鷄糞中にあるを以て掃除すべし。

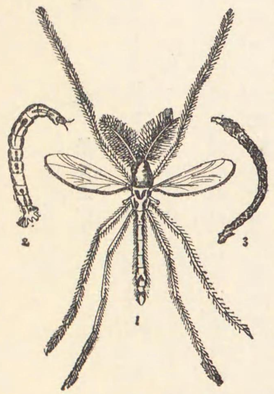
（三）いねゆすりか（いねつとか）　Chironomus oryzae Mats.（第二百六十七圖）

被害植物　稻。

特徵　成蟲　體は黑色、雌にては觸角は絲狀をなせども、雄にありては甚だしく羽狀を呈す、暗黃色體長七厘。

幼蟲　初めは灰色、老熟すれば淡き血色を呈す、頭は褐色にして大腮は甚だしく發達し、四齒あり、尾節（第十二節）に袋狀の四附屬物を具へ、其背上には二本の小突起ありて之より長き硬毛を生ず、體長八厘、常に一分餘の泥筒中に住す。

第二百六十七圖
いねゆすりか
（1）成蟲
（2）幼蟲
（3）泥筒中にある幼蟲



經過　年四回の發生をなすものゝ如し　成蟲の有樣にて越年し、翌春四五月頃水上其他泥地に產卵するもゝ如し、第二回の蚊は六月中旬より七月に亘り、第三回は八月上旬乃至九月第四回は九月下旬乃至十月下旬雌の產卵數は百內外、蛹は泥筒中にありて黃色、尾端に長毛を裝ふ、苗代に發生し時に大害を加ふることあり。

驅除法　蚊の發生する時期を見計ひ網を以て捕ふべし但し群生するの性あるを以て捕殺し易し幼蟲には石油を用ふべし(一反歩に付苗代なれば八合本田には一升位の割合)。

蚋　科　Simulidae.

(一) きあしぶゆ(ぶよ) Simulium crassitarsis Macq.（第四十五圖版(6)）

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は暗色、金色の短毛多し、觸角は短くして黑色、紡錘狀にして十節より成り、前胸は稍々球形に膨起す、翅は透明、前緣の三脈は暗黃にして判然すれども、他の脈は淡色にして判然せず、脚は黃褐、雄にては脛節及び跗節膨大す、體長九厘乃至一分二厘。

驅除豫防法　林間を行く場合には西洋蚊帳布を以て袋を造り覆面すべし、火繩を携帶するも亦有効なり、又小川に魚を放ち幼蟲を捕食せしむべく、刺螯せられたる場合には「ぬかが」と同樣に石炭酸の五十倍液を塗抹すべし、釣魚家は手袋を用ふるか若しくは苞麻子油を塗抹するを良しとす。

(二) あしまだらぶゆ Simulium colobatezensis Schin.

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黑色、黃色の短毛を裝ふ、觸角の基部は黃色、轉節、腿節の基部、脛節の大部

（末端を除く）並に第一跗節の基部は白色、平均棍は黃白、他は前種の如し、體長八厘乃至一分。本邦最も普通なる種類にして、何れの地に至るも其發生を見ざるなし、殊に北海道及び樺太に普通なる種類にして、農家に大害を加ふ。

(三) おほぶゆ Simulium kawamurae Mats.

被害動物　人畜。

特徴　成蟲　體は黑色、觸角の基部は黃色、前胸背前緣の兩側は黃褐、胸背には金の短毛を粗生す、光線の工合により前緣及び兩側は白色、翅は透明にして基部は黃色、平均棍は鮮黃色、腹部に暗黃帶あり、脚は黑色、基節、轉節及び腿節の基部は暗黃、脛節及び第一跗節は末端を除き白色、體長一分四厘、九州熊本地方に普通なる種類なり。

(四) ひめぶゆ Simulium arakawae Mats.

特徴　成蟲　體は黑色、觸角は短大、脚は黑褐、跗節は暗黃、翅は透明にして前緣の太き脈は暗黃、體長五厘、札幌地方に稀ならざる種類なり。

微翅目　Aphaniptera.

蚤　科　Pulicidae.

(一) のみ(蚤) Pulex irritans L.（第四十五圖版(7)）

被害動物 人・猿。

特徴 成蟲 體は側扁にして赤褐、頗る光澤あり、觸角・口吻及び脚は淡色、體は後方に傾斜せる剛毛を粗生す、脚は側扁にして大に、後肢は甚だしく發達して跳躍に適す、剛毛多し、體長(雌雄)三厘五毛乃至九厘。

幼蟲 細長なる圓柱形にして白色、剛毛を粗生す、觸角は短くして二節より成り、口は咀嚼に適す、頭を除き十三節より成り、尾端に二個の尾狀突起を裝ふ、體長一分二厘。

經過 年數回の發生をなす、幼蟲の有樣にて疊下に越年し、翌春蛹化し、次で成蟲となる、蛹は側扁にして尾端に二個の突起を裝ふ、前方の脚鞘は判然す、幼蟲は初めは白色、次第に暗色となり、甚だ活潑なり、塵埃を集めて巢を造り、其内に蛹化す、寒帶及び熱帶には稀なれども、溫帶地方には普通なり。

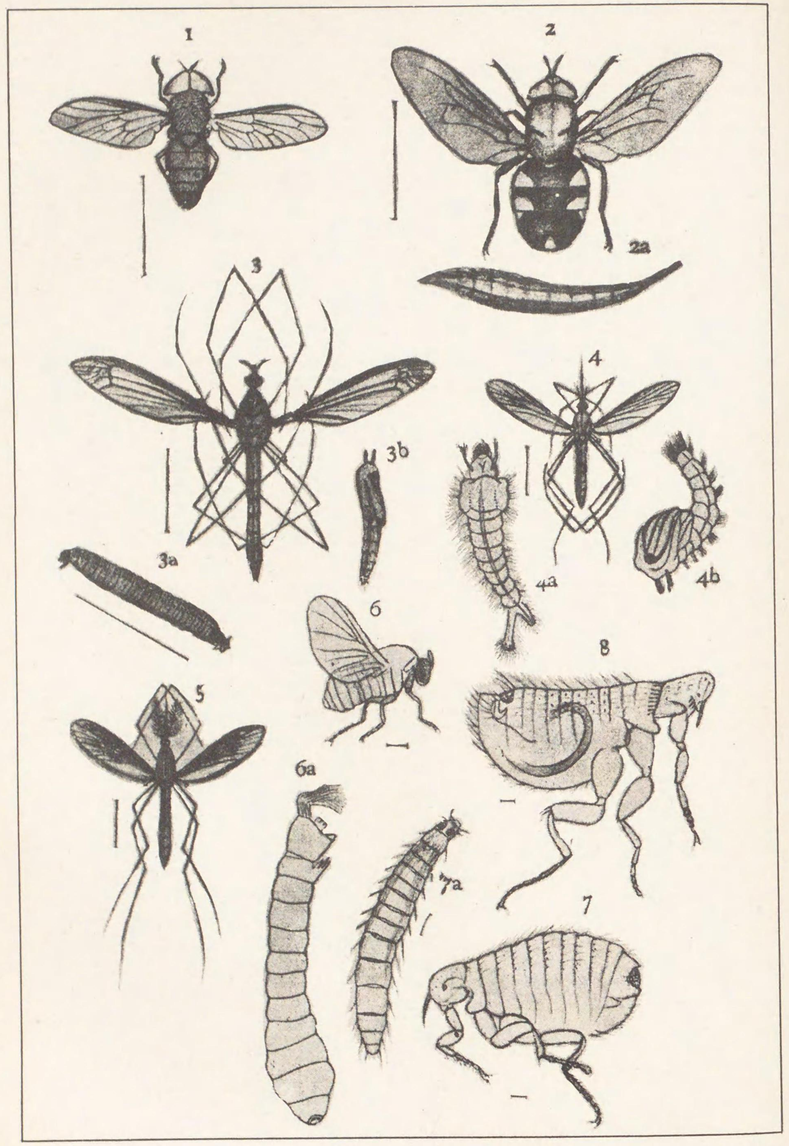
驅除豫防法 除蟲菊を撒布すべし、疊の下には除蟲菊又は胡桃の葉を挿入し置くべし、疊下は可成清潔になし置くべし。

(二) いぬのみ Ceratopsyllus canis Deg.

被害動物 人・犬・猫・鼠。(C. felis Bouch.)

特徴 成蟲 前種に酷似すれども後頭及び前胸背の前緣に各七個乃至九個の齒狀刺毛を有す、脚は長く、前跗節にては第五節、後跗節にては第一節最も長し、體長八厘乃至一分一厘。

第四拾五圖



第四拾五圖

1. Tab nus pyrrhus Wk. きいろあぶ ……P.777
2. Stratiomyia barca Wk. ひげながみづあぶ……P.778
   a. 幼蟲
3 Tipula parva Loew. ひめきりうじかがんぼ ……P.779
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
4. Culex pallens Coq. うすか ……P.781
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
5. Myzorhynellus (Anopheles) sinensis Wied. はまだらか ……P.782
6. Simulium crassitarsis Macq. きあしぶゆ……P.786
   a. 幼蟲
7. Pulex irritans L. のみ……P.787
   a. 幼蟲
8. Ctenopsyllus musculi Dug. いんどのみ ……P.789

幼蟲　同前。

經過　同前但し普通蚤の如く甚だしく跳躍せず、猫蚤は從來別種の如く思考せられたれども、近時其同種なること判然せり、此種は又鼠に寄生することあり。

驅除豫防法　除蟲菊をアルボース石鹸水に浸漬し、之を以て洗淨すべし。

(三) いんどのみ　Ctenopsyllus musculi Dug.（第四十五圖版(8)）

被害動物　人鼠。

特徵　成蟲　普通蚤と異なる所は、體甚だしく側扁にして細長きことなり、而して後脛節の刺は一列にして相近接し、頭は稍々圓錐形に近く、眼を缺き、色は少しく淡色なり、體長六厘乃至七厘五毛。

幼蟲　未だ判然せざるも、普通蚤と同じく塵埃を食するものならん。

經過　未だ充分の經過を知るを得ざれども、鼠の死後人類に移り來り加害す、若し死鼠より移り來りたるものとせば其病菌を人類に移殖するや明なり、彼のペスト菌の如きは多くは此蚤によりて傳播せらるゝものなり。

驅除法　鼠を驅除すべし、人類に移り來りたるものは、普通の蚤と同じく除蟲菊を用ゆべし。

(四) とりのみ　Xestopsylla gallinacea West.

被害動物　人、猫、犬、馬、家禽等。

特徵 成蟲 普通蚤よりも遙に小形にして形短く、殊に胸部は甚だしく短縮し緊縮あり、下唇鬚及び觸角の第三節に副節なし、小腮鬚は長し、體長五厘。

經過 未だ判然せず、家禽に普通なる種類なれども、時に移り來り加害することあり、此他左の二種は鼠に寄生するものなるも、往々人類に寄生することあり。

驅除法 油紙若くは油布にて袋を造り、其内に家禽若くは家畜を入れ、後更に青酸加里の二三片を其中に入れ置くべし、然るときは數時間の後全體の蚤を驅除し得べし、但し此袋は頸に縛る樣になすべく、頸以上にある蚤には二硫化炭素若くは除蟲菊、アルボース石鹼水」を加へたるものを塗抹すべし。

(五) ねづみのみ Pulex cheopis Roth.

被害動物 人、鼠。

普通蚤よりも遙に短小なり

(六) おほねずみのみ Deratopsyllus fasciatus Bosc.

被害動物 人、鼠。

普通蚤よりは遙に大なり。

鞘翅目 Coleoptera.

瓢蟲科 Coccinellidae

(一) にじゆうやほし（一名てんたうむしだまし） Epilachna 28-maculata Motsch.（第四十六圖版(1)）

被害植物 茄子、馬鈴薯、南瓜、西瓜等。

特徵 成蟲 黄褐、前胸の三紋及び翅鞘の二十八紋は黒色、即ち各翅鞘には2:3:3:2:1の六列に排列す、脚及び體下は少しく淡色なり、體長（雌雄）二分五厘。

幼蟲 灰白、各節に四個乃至六個の分岐せる黒色の刺毛を横列し、其一刺に約十二三の分刺を裝ひ、其分刺には關節あり、頭は灰黒、脚は割合に長く、一個の爪あり。

經過 年一回稀に二回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年す、翌春軟葉を食ひ之に産卵す、卵は黄色、長楕圓形にして兩端細小す、十二三日にて孵化す、一雌の總産卵數は二百内外、卵子より出でたる當時は黄白色、葉綠層を食するを以て網狀の纖維を殘留す、約三週間にて蛹化す、蛹は黄白色にして頭部に黒紋を裝ふ物に驚くときは脚の關節より黄色の液汁を滲出す、晩秋に至り軒下、朽木下等に入りて越年す。

驅除法 物に驚くときは脚を縮小して地上に落つる性あるを以て、心臟形の網内に拂ひ落すべし、幼蟲には十五倍の石油乳劑を用ふ。

(二) おほにじゆうやほし Epilachna 23-punctata F.（第四十六圖版(2)）

被害植物 同前。

特徵 成蟲　前種に酷似すれども、其異なる所は體の大にして總べて斑紋の遙に大なること、前胸背の三紋は縱に長きこと、體は黑褐なること等なり。體長(雌雄)三分乃至三分五厘。

幼蟲　前種に酷似すれども少しく大なり。

經過 同前。

擬瓢蟲科 Endomycidae.

(一)きいろてんたうむしだまし Saula japonica Gorh. (第四十六圖版(3))

被害植物 樟。

特徵 成蟲　體は黃色乃至黃褐、觸角黑色、基部の三節暗黃、末端の三節太し、頭及び前胸背は黃褐、後者の後兩側は銳角をなして突出す、兩側に灰色の短毛あり翅鞘は少しく弓狀に膨起し、灰色の軟毛多く、點刻は細微なるを以て判然せず、脚は黑褐、脛節の基部並に爪は黃褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せず、年二三回の發生をなすものゝ如し、九州地方にありては四月上旬より現はれ、樟樹の葉を食害す、第二回の成蟲は七月中旬、第三回は八九月出づるものゝ如し、其害甚だしからず。

驅除法 同前。

金花蟲科 Chrysomelidae.

(一)かめのこはむし Cassida nebulosa L. (第四十六圖版(4))

特徵 成蟲　體は楕圓形、體上は少しく穹狀に膨起し、若きものは灰白、老いたるものは黃褐、體下は光澤ある黑色、前胸背は橫楕圓形にして斑紋を缺き、翅鞘には多數の小黑點を散在す、脚は黃色、體長(雌雄)二分五厘內外。

幼蟲　體は黃綠にして平たく、各節の兩側に各一本の太き肉刺を具へ、之に六七個の小刺を裝ふ、小枝には關節を有するものあり、尾端には長き尾狀の附屬物を有し、平時は之を上方に擧げて蟲糞を附着せしめ、以て外患を免るゝものゝ如し、體長三分內外。

經過 年一回の發生をなす、稀に二回の發生をなすことあり、成蟲の儘越年し、翌春甘菜、藥の如き植物に集まりて之を食ひ同時に產卵す、卵子は黃色、長楕圓形にして葉下にありて塊をなす、其成長不整にして大小の幼蟲を混ずるを常とす、數回の脫皮後、葉下に懸垂して蛹化す、蛹は嘗て幼蟲の裝へる脫皮を尾端に附着す、形成蟲に似るも體側に肉樣の突起を有す、前胸背は大、前緣に三個の切目ありて其緣に小刺を列ぬ、蛹期八日內外甚だしき大害をなさず。

驅除法 同前。

(二)ひめかめのこはむし Cassida nigroguttata Gorh. (第四十六圖版(5))

被害植物　同前。

特徵　成蟲　前者に酷似すれども遙に小形なり、前胸背及び翅鞘の兩側は鼈甲樣の黃色、上に弓狀の太き黑紋及び小黑紋を具へ、後者の兩側には甚だしく凹陷せる部分ありて其體下は黑色、體長（雌雄）一分七厘乃至二分。

幼蟲　前種に酷似すれども小形なり。

經過　同前。

（三）いねのとげどげ（一名鐵甲蟲）Hispa callicantha Bates.（第四十六圖版(6)）

被害植物　稻甘蔗粟稗等。

特徵　成蟲　體は黑藍色、眼、觸角、脚をなせる六節は黑褐、前胸背に四分せる指樣の棘狀突起あり、尙其後方に一棘刺あり、翅鞘には點刻多く、各二十內外の棘刺を裝ふ、脚は割合に長く、腿節の末端は赤褐、體長（雌雄）一分五厘內外。

幼蟲　扁平長楕圓形にして白色を呈し、少しく綠色を帶ぶ、淡黃色の太き且低き縱隆起を有し、其兩側には細き數條の縱皺を有す、頭部は細小、第一、二、三の三節は其兩側圓く、他は皆突起を出し、尾節の背上には二つの刺狀突起あり、體長二分內外。

經過　年五回の發生をなし、成蟲の狀態にて越年す、三月上旬より苗代に飛來し葉の裏面

に止まり葉皮を殘して食す、一個宛葉肉內に卵を產下し、其の孵化せる幼蟲は葉肉を食して更に下方に下り約二寸內外に及ぶ頃老熟す、蛹は黃色にして長楕圓形を呈し前胸背の兩側に短き指樣の四刺あり、又腹部の兩側に小刺を列ね、第五節にあるもの最も大なり、長さ一分六厘、常に稻葉の皮下にあり、臺灣にては有名なる害蟲の一なり。

驅除法　掬網を以て稻葉を掬ひ捕ふべし、幼蟲及び蛹は葉皮下にあるを以て如何なる藥劑を用ふるも効なし、故に一匹宛手にて捕ふるの外なし、但し其幼蟲若くは蛹のある處は白枯せるを以て容易に識別するを得べし。

（四）かたびろとげどげ　Hispa sulquadrata Baly.（第四十六圖版(7)）

被害植物　櫟楢及び其他の穀斗科植物。

特徵　成蟲　暗黑色、頭、觸角、前胸背の兩側、翅鞘下半部の側緣並に後緣、脚、腹面等は黃色乃至黃褐、前胸背の棘狀突起は黃色にして其突端は黑色、翅鞘には黃褐の斑紋ありて稜狀部の下方にあるものは稍々X字形をなす、肩部は弓狀に膨脹し、中央の側緣は弓狀に刳らる、側緣の棘狀突起は銳尖なり、鞘上には瘤狀突起及び縱隆起あり、體長一分六七厘。

經過　未だ判然せざれども、成蟲は五六月頃より現はれ櫟楢其他の穀斗科植物の葉綠層を食す、白色にして稍々平たし、老熟すれば葉組織內に蛹化すること前種の如し、此害に罹りたるときは葉の表裏共に褐色に變色す、中國及び九州に普通なれども東北地

方には稀なり、北海道に產せず。

(五) だいこのみはむし Psylliodes angusticollis Baly.

被害植物 蔬菜類。

特徵 成蟲 體長卵形にして膨起し、地色は黑綠、觸角は暗褐にして體の半に達す、翅鞘には二十餘條の點刻列を縱列し、其列間は殆ど平滑、各脛節は黃褐、後腿節は黑色、體長六厘乃至七厘。

經過 發生の回數未だ判然せざるも、或者は幼蟲の儘越年し、翌春四五月に至りて成蟲となる、植物の稚葉を食ひ、老熟して地中に蛹化す、蛹期は八日乃至十四日間、成蟲は卵子を一個宛葉下に產附し、之より孵化せる幼蟲は葉柄若くは葉脈に潛入して食害す、性甚だ活潑にして、旱天に於て其害殊に甚だしく、人之に近づけば忽ち跳躍す。

驅除法 日中は殊に跳躍するの性盛なるを以て、鳥黏に四五割の魚油若くは種油を混煮せるものを用ひて捕ふべし、早朝夜露の未だ乾かざる前心臟形の受網の內に落し適宜に殺すべし、亞砒酸銅綠色砒石)或は亞砒酸鉛に百倍の澱粉を混じ、散粉器を以て撒布すれば甚だ有効なり。

(六) おほだいこのみはむし Psylliodes punctifrons Baly. (第四十六圖版(8))

被害植物 蔬菜類、葎草(カナムグラ)。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども稍々大にして色は濃綠、頭小さく、觸角は暗黃、基節及び

脚は黃色、翅鞘の點刻列間に小點刻を密布す、後腿節は甚だしく膨大し、黑色を帶ぶ、體長一分。

經過 前種に同じ。

驅除法 同前。

(七) むぎのみはむし Chaetocnema cylindrica Baly. (第四十六圖版(9))

被害植物 麥類。

特徵 成蟲 體卵形に近く、光澤ある黑綠色を帶ぶ、觸角暗黑、其基部にある四節及び脚は黃褐、後肢の腿節は甚だ膨大し、黑褐なり、體長八厘乃至九厘。

經過 未だ判然せざれども、早春麥類を害すること大なり。

驅除法 同前。

(八) むぎのるりのみはむし Chaetocnema japonicum Jac.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども翅鞘は美麗なる靑藍色、觸角は暗黑にして其基節の三四節は黃色、頭及び前胸背に點刻多し、脚は黃色にして腿節は黑褐、體長八厘。

經過 未だ判然せざれども前種に混じて麥の稚葉を食害す、其害甚だしからず。

驅除法 同前。

(九) くはのみはむし Phyllotreta funesta Baly. (第四十六圖版(10))

被害植物　桑。

特徴　成蟲　體は光澤ある黒色、脚は黒褐、觸角の基部に於ける三節及び跗節は赤褐、眼大、前胸背の中央に顆粒狀の小突起と小點刻とあり、兩側にも亦各一個の小突起を装ふ、翅鞘は前胸より少しく廣く、兩側は稍々平行し、小點刻を散在す、體長一分乃至一分三厘。

經過　未だ判然せざるも、早春より現はれ稚葉を食害すること大なり、秋田地方にありては其害大なり、「じやうかいぼん」は好んで之を捕食す。

驅除法　同前。

（一〇）きすぢのみはむし Phyllotreta sinuata Redt.（第四十六圖版(11)）

被害植物　蘿蔔、蕪菁、蕺菜、其他の十字科植物。

特徴　成蟲　體は光澤ある黒色、頭は前胸より小、頭頂に點刻なく、額には少數の點刻を具ふ、觸角は絲狀、基節の二三節は暗黄褐、末端は大なり、翅鞘の兩側に各一條の廣き黄色線を装ひ、其翅底に近き一端は稍々靴形をなして膨大し、他の一端は少しく内方に曲る、後腿節は膨大す、脛節の基部及び跗節は黄褐、何れも灰白の短毛を粗生す、體長八厘、幼蟲　形細長にして稍々圓柱形、尾端細し、色は黄白、頭、第一節及び尾節の硬皮板は暗褐、各節に瘤狀の小突起ありて之より各一本の短毛を生ず、脚は三双、尾脚あれども小なり。

經過　年四五回の發生をなす、成蟲の有様にて土塊若くは落葉下に越年し、翌春野生十字科植物の葉下に一個宛の卵子を産下す、之より孵化せる幼蟲は其處に一代を終りて成蟲となり、直ちに培養植物に來りて食害するものゝ如し、卵は葉下の脈に沿うて産附せらる、卵期十日内外、幼蟲は孵化後葉下に潜入して葉綠層を食ふ、凡一週間にて老熟し、地下一寸七八分の處に入りて蛹化す、蛹は裸蛹にして暗黄、蛹期は凡十五日間、普通一代の經過に凡一ケ月を要す、幼蟲は加害甚だしからざるも成蟲は稚葉を食害すること猖獗なり、殊に旱天に於て然りとす、其性雨露を嫌忌し、日中は性活潑にして盛に跳躍す。

驅除法　同前。

（一一）あゐのみはむし Crepidodera chloris Fondr.（第四十六圖版(12)）

被害植物　藍、甘菜。

特徴　成蟲　體は長卵形、光澤ある黒色、觸角黒色、基部の二三節は黄褐、頭は褐色、點刻を有せず、但し複眼の内側に二三個の小點刻を有す、前胸背には點刻多く、基部には横溝ありて其終末に各一條の縦溝あり、翅鞘は前胸より廣く、點刻の縦列を連ね、脚は黒色、脛節及び跗節は黄褐、體長七厘乃至九厘。

經過　未だ判然せざるも早春甘菜及び藍畑に現はれ稚葉を食害す。

驅除法　同前。

（一二）むぎながのみはむし Crepidodera japonica Baly.

被害植物 麥類。

特徵 成蟲 體は長楕圓形にして光澤ある黑綠、觸角は黑色にして基部の三四節は黃褐、頭及び前胸背には點刻多く、後者基部の兩側は凹陷し、更に其兩側に短縱溝あり、翅鞘は前胸より少しく廣く、殆ど相平行し、點刻を縱列す、脚は黑褐、脛節及び跗節は黃褐なり、體長一分內外。

經過 早春麥圃に現はれ、稚葉を食し、時に大害を加ふることあり。

驅除法 同前。

（一三）あさのみはむし Haltica fiavicornis Baly. （第四十六圖版(13)）

被害植物 大麻。

特徵 成蟲 體は長卵形にして黑色、少しく綠色を帶ぶ、觸角は黃白、末端は黃褐、頭は小にして點刻なく、前胸背には點刻多く、基部には淺溝を橫走す、翅鞘は前胸より廣く、之に不規則なる點刻列あり、體長七厘。

經過 未だ判然せざれども、恐らくは他の植物に卵子を產下するものならんか。

驅除法 同前。

（一四）かみなりはむし Haltica coerulescens Baly.

被害植物 赤楊、柳、白楊、稻。

特徵 成蟲 體は黑藍色、頭及び觸角は黑色、第一觸角節の兩端は黃褐、前胸背には點刻を缺き、頗る光澤を有し、後緣に近く一橫溝を裝ふ、翅鞘には點刻多し然れども劃然たる縱列をなさず、脚及び體下は黑色、後腿節は肥大し跳躍に適す、體長一分五厘乃至二分。

經過 未だ判然せざれども、年三回の發生をなすものゝ如し、第一回は六月上旬第二回は八月、第三回は九月、臺灣及び沖繩地方にありては年數回の發生をなすものゝ如し、沖繩にありては三月頃より現はれ幼蟲は葉上にありて葉を食ひ、老熟すれば地中に入りて蛹化す、葉上にありて跳躍する音盛なるを以て此名あり。

（一五）すぢかみなりはむし Haltica latericosta Jac.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども其異なる主點を擧ぐれば左の如し。

一、翅鞘上にある點刻は微小にして甚だしく判然せず。

二、翅鞘の兩側(前緣に各一條の縱隆ありて其末端は稍々翅端に達す。

三、觸角第一節の兩端は黃褐ならず。

四、少しく小形なり、體長一分五厘乃至一分七厘。

經過 未だ判然せざれども前種と同樣なるべし、臺灣及び沖繩に產せず、本邦には普通にして前種よりも一層多し。

（一六）こかみなりはむし Haltica viridicyanea Baly.

被害植物 同前。

特徵 成蟲 體は藍色、觸角、稜狀部脚及び體下は黑色、但し個種により前胸背の黑色なるものあり、翅鞘の點刻は「かみなりはむし」に酷似すれども一層小形なり、體長一分二厘。

經過 不明なれども柳に普通なる種類にして、五月頃より十月迄加害あり、跳躍する性は前種と異ならず。

(一七) くははむし *Aenidia armata* Baly. (第四十六圖版(14))

被害植物 桑、苹梨。

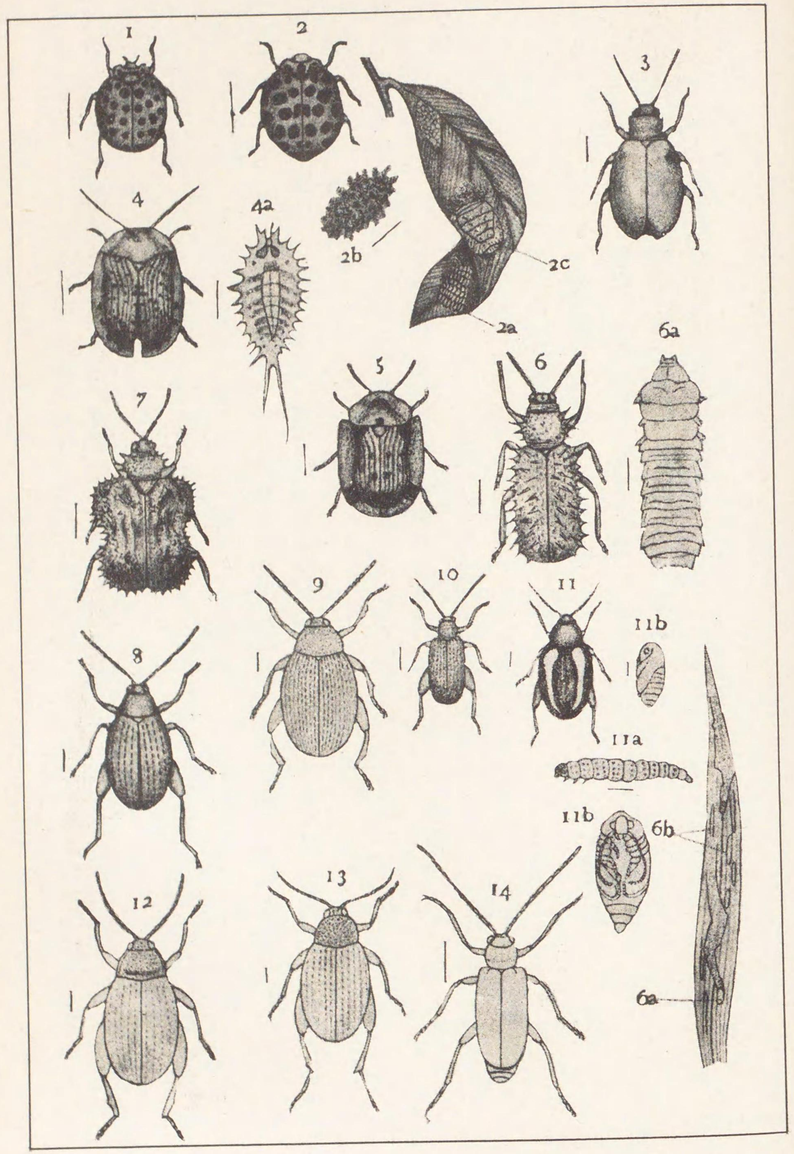
特徵 成蟲 形細長、體は黑色、翅鞘は光澤ある黑綠、顏、觸角、其基部の下面、前肢の腿節端、脛節及び跗節は暗黃、觸角は長くして體長の半を超え、暗色を帶ぶ、前胸背は光澤ある黑藍色、中央に橫溝を具へ別に短淺の縱溝ありて前者と十字形をなす、翅鞘は長方形、稜狀部は黑色、肩部には少しく瘤狀をなせる部分あり、其成熟せるものにありては雌の腹部膨大し、尾節を翅鞘端より露出す、體長二分乃至二分三厘。

經過 未だ分明ならざれども蛹の有樣にて地中に越年し、翌春五六月に至り羽化するもの〻如し、其害甚だしからず、性遲鈍にして動搖すれば脚を縮小して地上に落つ。

驅除法 朝露の未だ乾かざる早朝樹上の成蟲を受網內に落して殺すべし。

[附言] 拙著害蟲目錄に此學名を *Luperus impressicollis* Motsch. となせるは誤なり、爰に之を訂正す。

第四拾六圖



第四拾六圖

1. Epilachna 28-maculata Motsch. にじゆうやぼし……P.791
2. Epilachna 28—punctata F. おほにじゆうやぼし……P.791
   a. 卵 *b.* 幼蟲 *c.* 蛹
3. Saula japonica Gorh. きいろてんたうむしだまし……P.792
4. Cassida nebulosa L. かめのこはむし……P.793
   a. 幼蟲
5. Ca sida nigroguttata Gorh. ひめかめのこはむし……P.793
6. Hispa callicantha Bates. いねのとけどげ(一名鐵甲蟲……P 794
   a. 幼蟲 *b.* 成蟲加害の狀況
7. Hispa subquadrata Baly. かたびろとげとげ……P.795
8. Psylliodes punctifrons Baly. おほだいこのみはむし……P.796
9. Cha tocnema cylidrica Baly. むぎのみはむし……P.797
10. Phyllotreta funesta Ba'y. くはのみはむし……P.797
11. Phyllotreta sinuata Redt. きすぢのみはむし……P.798
    a. 幼蟲 *b.* 蛹
12. Crepidodera chlor's Fondr. あゐのみはむし……P.799
13. Haltica flavicornis Baly. あさのみはむし……P.800
14. Aenidia armata Baly. くははむし……P.802

（一八）ふたすぢひめはむし Monolepta nigrobilineata Motsch.

被害植物　荳科植物・稻・甘蔗。

特徴　成蟲　體黄色、頭は黄褐、大點刻を裝ふ、觸角は黄褐、絲狀にして體長の半を超え、前胸背は稍々卵形に近く、翅鞘は胸背より遙に廣く、中央に各一條の黑線を縱走すれども翅端に達せず、體長一分乃至一分二厘。

經過　未だ判然せざれども早春荳科植物、殊に大豆の子葉を出せる頃より現はれ、葉面に圓形の孔を穿ちて食害す、臺灣地方にありて稻・甘蔗を害することあれども、其害大ならず、札幌地方に稀なれども東北地方には多し。

（一九）ほたるはむし（一名あゐのうらむし）Monolepta dichroa Har.

被害植物　藍・草棉・蔬菜。

特徴　成蟲　體は光澤ある黑色、口部は褐色、頭・前胸背及び觸角の基部は黄色、觸角は暗褐、翅鞘は隆起し微小の點刻あれども、判明ならず且つ縱列をなさず、脚は暗褐、腿節の末端及び脛節の基部は黄色、體長一分二厘乃至一分五厘。

之に變種ありて var. apicipennis Jac. と云ふ、原種と異なる所は翅鞘端の黄色を呈するにあり、本邦にては變種の方多し。

經過　年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲の有樣にて越年す、第一回は六月中旬乃至下旬、第二回は九月乃至十月、蔬菜其他作物の葉を食ひ、葉面に多數の小孔を穿つ。

幼蟲は常に葉の裏面にあるを以て「うらむし」の名あり、五月下旬蛹となり、次で羽化第二回の幼蟲は七月中旬に至りて蛹化す、廣く本邦に播布す。

驅除法　同前。

（二〇）りんごはむし（はんのきはむし）Agelastica alni L. var. coerulea Motsch.（第四十七圖版(1)）

被害植物　莘樹、梨、櫻、桑、赤楊。

特徴　成蟲　地色は紫藍色若くは綠藍色、觸角、稜狀部、脛節及び跗節は黑色、頭頂には圓形の凹陷せる部分あり、觸角は長くして體の半に達す、前胸背は稍々隆起す、稜狀部は三角形、翅鞘は前胸より廣く、尾端に至るに隨ひ增大す、脚及び觸角には灰黃の短毛を密生す、爪の兩內側に太き疣狀突起あり、體長二分三厘乃至二分五厘。

幼蟲　黑色、長楕圓形にして扁く、光線の工合にて少しく綠色を帶ぶ、體下は灰黃、頭及び第一節の硬皮板幷に各節に於ける疣狀突起は光澤ある黑色、各背上の突起は長くして橫置せらる、胸部は他節より大きく其兩側膨起し、之に黃色の剛毛數本を生ず、各腹節の兩側も亦膨起し、其中央には各橫溝を具へ、尾端は截斷狀に終る、全體黃色の剛毛多し、脚は三双、黑色にして割合に長く、爪は赤褐にして彎曲す。

經過　年二回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、早春出でゝ稚葉を食害す、交尾後は雌の腹部膨大し、尾節は翅鞘端より露出するに至る、卵子は黃色、長楕圓形にして二十八星に同じく一塊をなし、葉上に產下せらる、幼蟲は網狀に葉を食害す、札幌地方にて其

最も食害する時期は八月上旬なり、四週間內外にして老熟し、食葉を辭して地中に入り、繭樣の土窩を造りて其內に蛹化す、蛹は淡黃、大凡二週間にして羽化す、羽化せしものは再び食害を始め降霜と共に潛伏處を求め、爰に越年す、其性遲鈍なり。

驅除法　同前。

（二一）くろうりはむし もどき　Luperodes nigripennis Motsch.

被害植物　十字科植物、莖科植物、薄荷。

特徴　成蟲　黑色、頭及び前胸背は暗黃、雄にては翅鞘の基部稍々圓形をなして暗黃、雌にては翅鞘の全部黑色、觸角の基部は暗黃、體長一分六厘乃至二分五厘。

經過　未だ判然せざれども年一回の發生をなし、卵の有樣にて越年するものゝ如し、幼蟲は五月中旬頃より現はれ、葉を食害す、老熟すれば地中に入り土窩を造り其內に蛹化す、蛹は約一週間を經て羽化す、成蟲は幼蟲と同じく葉を食ひ大害を加ふ、樺太地方にありては十字科植物を害すること大なりと云ふ。**うりはむし もどき**　Luperodes discrepens Baly.（第四十七圖版(19)）は定めて前種と同種なるべし、試驗の結果によれば暗黃色の翅鞘を有するものと黑色の翅鞘を有するものとあり、而して黑色の翅鞘を有するものは「くろうりはむし もどき」と毫も異なる所あるを見ず。

［附言］拙著害蟲目錄第六十三頁に Luperodes Pallidulus Baly.（たいこのとびはむし）とあるは「うりはむし もどき」の誤なれば爰に訂正す。

(二二) あとぼしはむし Aulacophora angulicollis Motsch. (第四十七圖版(2))

被害植物 同前。

特徴 成蟲 體は淡黄、頭は小にして黄褐、複眼は黒色、前胸背は方形に近く、後緣に接して一條の横溝を有す、翅鞘は淡黄にして小點刻を密布す、翅底内緣に沿うて左右各一個の黒紋を有し、翅を疊むときは合して一紋となる、前緣は黒色、前外緣に近く各一個の大なる黒紋を有す、此紋は外緣の黒線と相接合す、體長一分八厘。

(二三) うりはむし(瓜守) Aulacophora femoralis Motsch. (第四十七圖版(3))

被害植物 西瓜、南瓜、胡瓜等。

特徴 成蟲 黄褐にして光澤を有し、眼、上唇、腹部及び中後の兩肢は黒色、觸角及び前肢の脛節並びに跗節は暗褐なり、觸角絲狀、眼は割合に大にして突出し、前胸背は略正方形にして横溝を有す、翅鞘は前胸より廣く後方に至るに隨ひ膨大す、全面微小の點刻を密布す、雌は黒色の産卵管を具へ雄の尾節は黄色なり、體長二分四厘乃至二分六厘。

幼蟲 黄色、頭は褐色、圓柱形にして長く、短毛を粗生す、尾端は圓錐形をなして細小なり、脚は三双、體長三分五厘。

經過 年一回發生し、成蟲の有樣にて越年す、幼蟲は地中に在りて根を食害し、翌春出でて葉を網狀に蠶食す、性甚だ活潑にして、外敵に遇へば直ちに飛翔す、日中は地上に落ちて死狀を擬すること少し、七月頃最も猖獗を極む、卵は圓形橙黄色にして根邊若くは

地表に産附せられ、約三週間にして孵化す、幼蟲期は一ヶ月乃至二ヶ月、廣く全國に分布す。

驅除法 同前。

(二四) くろうりはむし(くろうりばい) Aulacophora nigripennis Motsch. (第四十七圖版(4))

被害植物 同前。

特徴 成蟲 頭及び前胸は黄色、前胸背には横溝あり、眼、胸片及び脚は黒色、翅鞘は光澤ある黒藍色、體長二分三厘乃至二分五厘。

經過 前種と同じく地中にありて幼蟲期を經過するものゝ如し、成蟲は前種より遲鈍にして其數少く隨つて其害も亦大ならず。

驅除法 同前。

(二五) いちごはむし Galerucella distincta Baly. (第四十七圖版(5))

被害植物 西洋苺。

特徴 成蟲 暗黄にして短き灰毛を密生す、形は長楕圓形、腹部頭頂觸角基部を除く及び稜狀部は黒色、脚は黄褐、跗節は暗色を帶ぶ、前胸背の中央は三角形に隆起し、其兩側は凹陷す、尙其前緣及び後緣角に各一個の疣狀突起めり、翅鞘は稍々長方形にして前胸より廣く、之に小點刻を密布す、其兩側に暗色の一縱線ありて基節より起り殆んど翅端に達す、體長一分五厘乃至一分七厘。

經過 未だ判然せざれども五月中旬より苺圃に出で其葉面を食害す、其害大ならず。

驅除法 同前。

(二六) やなぎるりはむし Plagiodera distincta Baly.

被害植物 草棉・白楊・赤楊。

特徴 成蟲 體は綠藍色、觸角は暗褐、基部は黃褐、脚は暗綠、腿節及び脛節の末端並に跗節は褐色、爪は黃色、前胸背に點刻を缺く、翅鞘には點刻を密布すれども縱溝を有せず、肩部に瘤樣の突起ありて其外方に縱溝あり、體長一分五厘。

「だいこはむし」に酷似すれども、後腿節の膨大せざること及び翅鞘にある點刻の縱列をなさゞること等によりて容易に區別するを得べし。

經過 未だ判然せず、年三回の發生をなすものゝ如し、第一回は五六月、第二回は七八月、第三回は九十月、幼蟲は黃色にして黑色の疣狀突起を裝ふ、成蟲・幼蟲共に葉を食ひ網狀の纖維を殘留す。

(二七) だいこはむし Phaedon brassicae Baly. (第四十七圖版(6))

被害植物 蘿蔔・蕪菁・蕓薹其他十字科植物。

特徴 成蟲 體は略々半球狀、頭は小、前胸背と共に點刻を密布す、觸角は黑色、額片は五角形をなす、前胸は少しく膨起し、幅は其長さの約二倍あり、後緣は廣し、翅鞘は隆起し、之に十六條の點刻縱線を並列す、尾節に黃色の部分あり、體長一分二厘乃至一分四厘。

幼蟲 體細長扁平にして黑色、各節に六個乃至八個の疣狀紋あり、背上にあるものは長くして橫置せられ、之より各褐色の剛毛一、二本を生ず、各節の左右は膨起し、環節の縱皺は多少緊縊す、脚は黑色、體下は灰黃、體長二分內外。

經過 年三四回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春出でゝ蔬菜類の葉を網狀に食害す、卵は黃色、楕圓形、成蟲は葉柄若くは葉面の表皮を破りて一顆宛產卵し、後巧に其上を被ふも表面乾枯するため其局部黑色を呈す、幼蟲の孵化したるものゝ初めは灰色なれども脫皮する每に黑色を增す、三回の脫皮を終へ老熟すれば地中に入り土窩を造り其內に蛹化す、蛹は淡黃、頭・觸角・脚翅等は判然せり。

驅除法 同前。

(二八) ひめだいこはむし Phaedon incertum Baly.

被害植物 同前。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども、其異なる所は第一、着色の綠藍なること、第二、前胸背に於ける點刻の小なること及び其中央に於ける點刻數の少きこと、第三、前胸後緣角の前種より銳角をなせること、第四、稜狀部の半楕圓形をなせること等なり、但し雌にありては稜狀部に殆んど點刻なし、體長一分乃至一分四厘。

幼蟲 前種と異ならず。

經過 同前。

驅除法　同前。

（二九）**ふぢはむし**　Phytodecta rubripennis Baly.（第四十七圖版(7)）

被害植物　藤。

特徴　成蟲　形前種に似たれども、頭胸は黒色、點刻を密布す、翅鞘赤褐にして膨起し、九條の點刻列を縱走す、稜狀部體下及び脚は黒色、體長一分五厘乃至二分。

驅除法　同前。

（三〇）**とほしはむし**　Phytodecta gracilicornis Kraatz.（第四十七圖版(8)）

被害植物　柳、白楊、赤楊。

特徴　成蟲　雄にては體は光澤ある黒色、前胸背は稍々四角形、兩側に大なる點刻を粗布す、翅鞘は黄色、乃至赤色、各翅に五個の黒紋を裝ひ、尾端に近き二紋は普通相癒着して鉤狀をなす、九條の點刻ある縱溝あり、間室には微小の點刻あれども判然せず、觸角は割合に細く、基部の大半は黄色、脚は黒色、腿節端は黒褐、脛節の大部及び跗節は黄褐、雌は黄色、斑紋は判然す、體長二分乃至二分五厘。

經過　五月下旬より現はれ、柳、白楊、赤楊等の葉を網狀に食害す、經過未だ判然せず。

（三一）**どろのきはむし**（どろはむし）　Melasoma populi L.（第四十七圖版(9)）

被害植物　白楊、柳。

特徴　成蟲　體は光澤ある黒藍色、觸角及び兩鬚は黒色、前胸背は兩側に各一條の縱溝を具へ、粗大の點刻を裝ふ、翅鞘は赤黄、點刻を密布し、四五條の縱溝あれども判然せず、體下及び脚は黒藍色、跗節は黒色、體長三分五厘。

（三二）**るりはむし**　Melasoma aenea L.（第四十七圖版(10)）

被害植物　柳、白楊、赤楊、樺。

特徴　成蟲　體は光澤ある金綠色若くは黒藍色、觸角は黒色、前胸背より少しく長し、頭及び前胸背に點刻を裝ひ、後者は四角形に近く、稍々平たし、翅鞘には點刻多く、三四條の縱溝あれども判然せず、脚は黒色、光線の工合にて綠色を現はす、體長二分五厘。

經過　年二回の發生、成蟲の有樣にて越年し、翌春交尾後葉下に黄白の卵子を產下す、一雌の總產卵數は約百四五十、凡一週間にして孵化す、幼蟲は黄白にして黒色の疣狀突起を裝ふ、約三週間にして老熟し次で葉上に蛹化す、第一回の成蟲は八月下旬乃至九月上旬現はる。

（三三）**やなぎはむし**　Melasoma vigintipunctata Scop.（第四十七圖版(11)）

被害植物　柳、白楊。

特徴　成蟲　體は黒藍色、觸角は胸部より少しく長く、棍棒狀にして尖端の半部は黒褐、殘部は黄色、頭は黒色、中央少しく凹陷す、前胸背は少しく黒色にして平たく、兩側は黄色、各翅鞘に十個乃至十一個黒色の縱紋を裝ひ、其中或ものは縱に相癒合す、接合部は細くして黒色、脚は黄色、腿節端は黒藍色、尤も種類により腿節の大部黒藍色なるものあ

り體長二分六厘。

經過 未だ判然せず、成蟲は七月上旬發生す、其數多からず。

(三四) はくかはむし Chrysomela gutiata Gebl. (第四十七圖版(12))

被害植物 薄荷。

特徴 成蟲 體上は黒紫色、體下及び脚は光澤ある紫藍色、觸角は割合に短く、末端は暗黒にして棍棒狀をなし、少しく平たし、前胸背は略々四角形、前緣及び後緣角は鋭角をなして突出す、翅鞘は穹狀に膨起し、之に平滑なる十條の點紋列を裝ひ、全面に小點刻を密布す、腹面には短き灰白毛を粗生し、跗節には灰褐の軟毛を密生す、體長三分五厘乃至四分。

(三五) よもぎはむし Chrysomela auricalcea Gebl.

被害植物 菊其他の菊科植物。

特徴 成蟲 體は黒藍色、觸角體下及び脚は黒綠、觸角は體の半以上に達し、棍棒狀をなす、頭及び前胸背に少しく點刻を密布す、前胸背は稍々穹狀に膨大し、前緣角は鋭角をなす、稜狀部割合大にして、其基部に點刻を裝ひ、末端は褐色、翅鞘は點刻を密布すれども判然せる縱列をなさず、溝を缺き、間室は平滑なり、體長二分內外。

經過 未だ明ならず、恐らくは菊科植物殊に艾（ヨモギ）の根部を食するものなるべし、成蟲の有樣にて越年し、翌春艾に普通なれども亦菊の葉を食害することあり。

(三六) ばらるりはむし Cryptocephalus approximatus Baly. (第四十七圖版(13))

被害植物 薔薇科植物はしばみ。

特徴 成蟲 體は光澤ある黒藍色、觸角は體より遙かに長くして黒色、基部の四節は黄色、頭は下方に向ひ、前頭は黄色顆粒多し、頭頂は黒色にして少しく藍色を帶ぶ、前胸背は穹狀に膨起し頗る光澤を存し、點刻は微小なるを以て判然せず、稜狀部は少しく突出し、點刻なし、翅鞘は粗大の點刻縱列を裝ひ、之は稍々溝をなせども判然せず、脚は黒褐、腿節の基部及び前脛節は黄色、前肢は發達して長し、體長一分五厘內外。

經過 未だ判然せざれども成蟲は五月上旬より現はれ、薔薇及び其他同科植物の葉を食害す、青森以南には普通なれども、未だ北海道に於て捕獲したることなし。

(三七) くろぼしはむし Cryptocephalus 6-punctata L. (第四十七圖版(14))

被害植物 苹樹薔薇楢櫟。

特徴 成蟲 體は黄褐、體下及び頭は黒色、頭の中央にある一點は黄褐、觸角は黒色、基部の三四節は黄色、前胸背は雄にては大部黒色、前緣及び兩側は黄褐、雌にては黄褐、兩側にある括弧樣の紋及び稜狀部上の短縱線は黒色、翅鞘に六個の黒紋あり、其中四個は一列をなして前列に位し、二個は稍々大にして後列にあり、脚は黒色、腿節末端は內方に黄白の一紋を裝ふ、體長二分五厘乃至三分。

經過 前種に同じく未だ判然せず、成蟲は四月下旬より現はれ、薔薇科及び殼斗科植物の

葉を食害す、中國、九州地方には普通なれども、東北地方及び北海道には產せざるが如し。

(三八) きぼしるりはむし Gynandrophthalma aurita F. (第四十七圖版(15))

被害植物 柳樺。

特徵 成蟲 體は黑色、脚及び前胸背の兩側は黃色、觸角は黑褐、基部の四節は黃色、頭は光澤ある黑綠色、複眼間に一凹陷を裝ひ、縮刻を有す、前胸背は黑色、點刻を缺く、稜狀部は光澤ある黑色、點刻を有せずして少しく膨起す、翅鞘は暗靑色、光澤を帶び、點刻を密布す、體長二分乃至三分。

經過 未だ判然せず、五月乃至六月頃より現はれ、柳、樺等の葉を食害す、其數甚だ多からず。

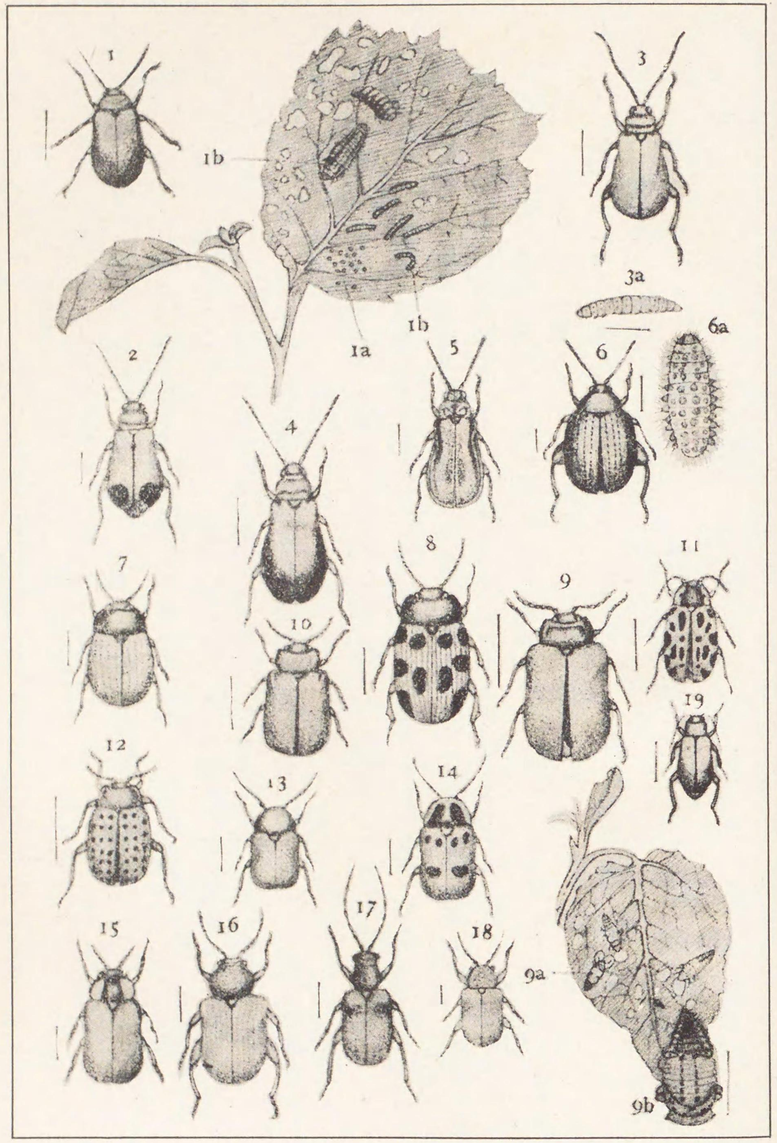
(三九) ぶだうさるはむし Eumolpus obscurus L. (E. vitis F.) (第四十七圖版(16))

被害植物 葡萄蔕。

特徵 成蟲 暗黑、頭は平たくして前胸下に隱れ上方より見ること能はず、觸角は長く、末端の四節大にして、基部は赤褐、前胸は稍々球形にして黑色、小黑點を密布す、翅鞘は赤褐、前胸より廣く、肩部突出し、鞘上は少しく凹陷し、十六條の暗色縱線を有し、全面小點刻を裝ふ、脛節の全部及び腿節は赤褐體長一分六厘。

經過 未だ分明ならざれども、幼蟲は地中にありて根を食害するものゝ如し、成蟲は六月頃現はる、葡萄の新芽及び嫩葉を食ひ大害を加ふることあり。

第四拾七圖



第四拾七圖

1. Agelastica alni L. var. coerulea Motsch. りんごはむし ……P.804
   a. 卵 *b.* 幼蟲
2. Aulacophora angulicollis Motsch. あとぼしはむし ……P.806
3. Aulacophora femoralis Motsch. うりはむし(瓜守) ……P.806
   a. 幼蟲
4. Aulacophora nigripennis Motsch. くろうりはむし……P.807
5. Galerucella distincta Baly. いちごはむし ……P.807
6. Phaedon brassicae Baly. だいこはむし ……P.808
   a. 幼蟲
7. Phytodecta rubripennis Baly. ふぢはむし ……P.810
8. Phytodecta gracilicornis Kraatz. とほしはむし ……P.810
9. Melasoma populi L. どろのきはむし ……P.810
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
10. Melasoma aenea L. るりはむし……P.811
11. Melasoma vigintipunctata Scop. やなぎはむし ……P.811
12. Chrysomela guttata Gebl. はくかはむし……P.812
13. Cryptocephalus approximatus Baly. ばらるりはむし ……P.813
14. Cryptoecphalus 6—punctata L. くろぼしはむし ……P.813
15. Gynandrophthalma aurita F. きぼしるりはむし……P.814
16. Eumolpus vitis F. ぶだうさるはむし ……P.814
17. Leprotes pulverulentus Jac. りんごのこふきはむし ……P.815
18. Demotina decorata Baly. かさはらはむし ……P.815
19. Luperodes d'screpens Baly. うりはむしもどき ……P.805

驅除法　同前。

(四〇) りんごのこふきはむし Lepropes pulverulentus Jac. (第四十七圖版(17))

被害植物　苹樹。

特徴　成蟲　體は暗黒觸角は長くして暗褐、基部の三節は黄色、上唇及び兩鬚は黄色、頭には顆粒を密布し、中央に一縦溝あり、前胸背は圓柱形にして細く、頭に同じく顆粒を密布す、翅鞘は廣くして點刻列を縦走す、各翅に二條の縦溝あり、灰色の短毛を密生す、脚は黒褐脛節端及び跗節は黄褐、體に白鱗を裝ふ、體長二分五厘。

(四一) かさはらはむし Demotina decorata Baly. (第四十七圖版(18))

被害植物　桑

特徴　成蟲　體は黄褐、頭は光澤あり、眼は黒くして突出し、觸角は長く、末端の四節少しく膨大す、前胸は圓柱形、前後の兩緣細く、背上には小刻點を散在し、中央に隆條を裝ふ、翅鞘は長方形にして前胸より廣く、肩部は少しく隆起し、點刻の縦線を並行す、全面灰白の短毛を裝ふ、脚は割合に長くして黄色、爪は少しく赤色を帶ぶ、體長一分二厘。

經過　判然せざれども六月上旬より現はれて桑芽を食ひ大害を加ふることあり、之に抵觸するときは脚を縮小して落下す。

驅除法　同前。

[附言]　從來此の害蟲に Xanthonia placida の學名を用ひ來りたれども、誤謬なるを以て玆

に訂正す。

(四二) いもさるはむし Chrysochus chinensis Baly. (第四十八圖版(1))

被害植物 甘藷。

特徴 成蟲 黒銅色、頭は下方に向ひ、觸角は體の半以上に達し、初めの三四節は暗褐、頭及び前胸背の點刻は翅鞘にあるものよりも遙に相近接す、腿節は何れも棍棒狀に膨大す、體長(雌雄)二分内外。

幼蟲 白色、頭は淡褐横皺多く、細毛を粗生す、脚の爪は黒褐、體長三分。

經過 年一回發生、幼蟲の有樣にて越年す、翌春蛹化し次で成蟲となる、成蟲は沖繩及び臺灣地方にては、五月中旬より七月下旬に亘りて現はる、葉莖を食ひ大害を加ふることあり、幼蟲は土中にありて球根の表面に寄食す、老熟すれば土中五寸乃至一尺の處に蛹化す、沖繩及び臺灣地方に普通なるものにして、時に大害を加ふることあり。

(四三) こいもさるはむし Chrysochus pretiosus F.

被害植物 甘藷。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども其異なる要點は第一、形少しく小なること、第二、色澤に青色、青藍色、黒銅色の諸色あること、第三、前胸背の小なること、第四、前胸背の點刻遙に小形なること等なり、體長一分六厘乃至二分。

經過 同前。

(四四) あかがねさるはむし Acrothinium gaschkewitschi Motsch. (第四十八圖版(2))

被害植物 葡萄。

特徴 成蟲 體は光澤ある金綠色、觸角は黒色、基部の一二節は黄褐、頭は前胸下に入りて唯前頭のみを見得べし、前胸背は稍々圓柱形をなし、點刻を粗布し、灰白の短毛を粗生す、翅鞘は光澤ある赤銅色にして周圍綠色、大なる點刻の縦列あれども溝は判然せず、脚は黒色、腿節は黒藍色、前肢は發達して長し、體長二分五厘。

經過 未だ判然せず、成蟲は五月上旬より現はれ葡萄の葉を食害す、新潟地方にありては其害大なりと云ふ、臺灣地方にありては三四月頃より現はる、幼蟲は地中に棲息するものゝ如し。

(四五) いねどろはむし(泥負蟲) Lema tristis Herbst. (Lema flavipes Suff.) (第四十八圖版(4))

被害植物 稻。

特徴 成蟲 形細長、頭觸角及び眼は黒色、頭は光澤を帶び、觸角の基節は黄褐、胸部は黄色或は黄褐、稍々圓柱形をなし、後方少しく縊る、翅鞘は青藍色にして點刻を縦列す、肩部には各一個の深き切目あり、體下黒色、脚黄色、又は黄褐、腿節の一部及び跗節は暗色、體長一分五厘乃至一分八厘。

幼蟲 體暗黄褐、稍々西洋梨形をなし、第五、第六節最も膨起す、頭は黒色、體上に蟲糞を負ふ、此蟲の肛門は殆んど腹背と平行せるを以て之より出づる蟲糞は自然腹背に集

まり、其葉上にあるときは悦も小土塊の觀をなす、各節には六個乃至二十二個の黒色の疣狀突起ありて、初めの三節にあるものは一列をなせども第四節以下にあるものは二列に横走す、何れも一本の短毛を生ず、脚は三双にして黒褐なり、體長二分内外。

經過 年二三回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、翌春五六月出でゝ苗代に集まり産卵す、卵子は二週間内外にて孵化す、幼蟲は葉脈に沿ひて縦に葉綠層を食ひ表皮を殘留するを以て、被害葉は平行せる數條の白線となる、六月下旬葉上に綿樣の灰白楕圓形の繭を作り其内に蛹化す、蛹は黄色、楕圓形にして兩端細小す、觸角、翅鞘等判然せり、七月上旬乃至中旬羽化す、第二回より其經過不規則にして、或ものは八月中旬に出で或ものは九月上旬現はる、第三回は九月下旬乃至十月上旬なり、但し札幌地方にては年二回の發生をなす。

驅除法 稻葉の表裏に附着せる土塊樣のものは多くは其幼蟲なるを以て、掬網を以て捕殺すべし、其繭も亦發見するに難からず、成蟲も亦網にて捕殺すべし。

(四六) すげはむし（一名おほねくひはむし） Donacia simplex F. （第四十八圖版(4)）

被害植物 稻莎草。

特徴 成蟲 體細長、頭は小、頭頂に一個の縦溝を有す、複眼は黒色にして割合に大、觸角は黒色にして絲狀、前胸は長方形にして中央に一縦溝あり、翅鞘は金綠色にして胸部より廣く、點刻列を縦走す、腹部は銀白の短毛を以て被はれ、後腿節には微小なる突起を有す、體長二分内外。

驅除法 成蟲は莎草、蛭藻に棲息するを以て網を以て捕ふべし、又産卵せんが爲め苗代又は本田に來る成蟲を捜索すべし。

(四七) ねくひはむし Donacia lenzi Schönf. （第四十八圖版(5)）

被害植物 稻蛭藻莎草。

特徴 成蟲 體絲褐、頭小、頭頂に一縦溝あり、複眼は黒色、前胸背は稍々正方形、中央に一縦溝あり、其前緣角は少しく突起す、翅鞘の背面は平坦にして小點刻を縦列し、肩部は尖り、翅端は切斷狀をなして終り尾節を蔽はず、腹部は銀白色、脚は黄色、後腿節に一突起あり、其外側に黒斑を有す、體長二分内外。

幼蟲 體は長形にして兩端細小す、體上は球狀に膨起し、體下は稍々平たし、頭は小、尾端に爪樣の附屬物あり、地色は灰白、暗黒の短毛を粗生す、體長二分。

經過 幼蟲は六月より八月に亘りて稻根を食害すれども、成蟲は稻葉に來ることなく蛭藻の葉を食ふ、日中は性活潑にして人之に近づけば忽ち飛散す。

驅除法 同前。

天牛科 Cerambycidae.

(一) るりかみきり Chreonoma fortunei Thoms. （第四十八圖版(6)）

被害植物 梅・杏・李。

特徴 成蟲 體は橙黃色、頭は前胸より稍々幅廣く、複眼及び觸角は黑色、後者は少しく褐色を帶び、其長さ體長に等し、第一節は長く、第二節は短し、前胸は圓柱形、前緣及び後緣に各一條の横溝あり、翅鞘は光澤ある黑藍色にして不規則の點刻を密布す、脚は短かくして橙黃色、暗色の軟毛を裝ふ、體長三分四厘內外。

幼蟲 黃色、頭は黃褐、老熟すれば四五分に達す。

經過 年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化するものゝ如し、成蟲は五月下旬乃至六月上旬現出す、初めは葉裏の中肋を食ひ、交尾後は幹に孔を穿ち其內に一粒の卵子を產下す、卵は黃白、長さ五厘、數日の後孵化す、初めは表皮を食ひ、次第に皮下に侵入す。

(二) りんごかみきり Oberea japonica Thunb. (第四十八圖版(7))

被害植物 苹樹。

特徴 成蟲 體は橙黃色、頭・觸角及び腹部の末端は黑色、頭部に粗糙の點刻を散在し、中央に一縱溝あり、前胸に微細の點刻と軟毛を密布す、翅鞘は細長にして、翅底は橙黃色、其他は暗色、中央少しく黃色を帶び、黑色の點刻縱列を具へ、後脛節の末端は稍々暗色を呈す、體長五分五厘乃至六分。

幼蟲 初めは淡黃にして光澤を有し、成長すれば淡褐となる、頭は長方形にして銳き

大腮を具へ、第一節は大にして平たく、尾端に至るに隨ひて細小す、體長一寸。

經過 成蟲は六七月頃現はれ、嫩枝の外皮を破り木質部に穿孔し、各一個の長楕圓卵子を其內に納め、後前の外皮を以て巧に之を覆ふ、幼蟲は數日の後孵化し、下部より梢上に向ふて食害するの傾あり、嫩枝の髓部を食ふを以て、其局部は枯死し大害を被ることあり、八月下旬に老熟し、次で蛹化す、蛹は淡黃、其儘越年し、翌春羽化す、被害樹枝は褐色の蟲糞を直下の葉上に堆積するを以て容易に其存在を認め得べし。

(三) きくすゐかみきり Phytoecia ventralis Chevr. (第四十八圖版(8))

被害植物 菊。

特徴 成蟲 全體暗黑、少しく藍色を混ず、頭・胸及び翅鞘に點刻及び短毛を密布す、觸角は暗黑にして體長を越ゆ、頭頂に一縱溝あれども判然せず、前胸背には赤色の楕圓紋あり、各腿節は濃黃色、末端の數腹節は黃色、體長三分內外。

幼蟲 體は黃白、前種の幼蟲に酷似す、體長五六分。

經過 五六月頃菊科植物の莖幹を切斷して大害を加ふ、白色長楕圓形の卵子を一個宛縱に莖中に產下し、之より孵化せる幼蟲は莖中を上下するがため植物を枯死せしむ、秋季老熟し、次で蛹化して其儘越年し翌春羽化す。

(四) あさかみきり Thyestes gebleri Fald. (第四十八圖版(9))

被害植物 大麻。

特徵　成蟲　體は暗色、灰白の微毛を密生す、頭頂に一縱溝あり、觸角は體と同長、第三節以下の各節端は黑色、前胸は圓柱形、背上に灰黃の三縱條を裝ひ、稜狀部は灰黃、翅鞘の基部に點刻を有し、他部に短毛を密生す、其接合部及び前緣の大半は灰黃、體長雄四分、雌四分五厘乃至五分。

(五) ごまだらかみきり *Mesosa japonica* Bat.（第四十八圖版(10)）

被害植物　莘樹、漆、楡。

特徵　成蟲　體は黑色、顆粒狀の點刻を密布す、頭頂に一縱溝あり、其兩側に各一列の黃色毛を列す、觸角の第一節は大にして黑色、第二節は小にして葡萄色を呈す、以下の各節は灰白と葡萄色との斑をなす、前胸背は稍々正方形、中央に一縱溝と其兩側に黃色斑を有す、翅鞘は前胸よりも遙に廣く、顆粒及び黃斑を散在し、其中後方に近き黃斑は波狀をなす、脚は黑色、各脛節に二個の黃色紋を裝ふ、體長雄四分、雌四分五厘內外。

(六) くはかみきり *Apriona rugicollis* Chevr.（第四十八圖版(11)）

被害植物　桑、柑橘類、無花果。

特徵　成蟲　體は暗綠黃毛を裝ふ、頭頂は隆起し中央に一縱溝あり、複眼は腎臟形、黑色にして少しく紫赤色の光澤を帶ぶ、觸角は體より長く、基節及び各節の末端は黑色、前胸背に橫皺多く、兩側に各一個の棘狀突起あり、翅鞘の基部には黑色の顆粒多く、肩部は突起す、翅端は截斷狀をなし、之より二小刺を出だす、脚は細長、灰白毛を裝ひ、腹部に黃

褐毛を密生す、體長雄一寸二分、雌一寸六分。

幼蟲　體は乳白色、少しく黃色を帶ぶ、頭は略ぼ長方形にして平たく、前頭の周圍は黑褐、黑褐の銳き大腮を有す、第一節は膨大し其氣門は殊に大なり、第二及び第三節は短く、尾節に至るに隨ひ長さを增す、第五節以下の背腹節に瘤狀二突起ありて樹幹の隧道を上下するに便ならしむ、全體黃褐の短毛を粗生す、體長二寸六分內外。

經過　成蟲は八月頃現はれ、樹枝、樹幹に孔を穿ちて其內に卵子を藏む、一孔に產下する卵數は七八個を普通とす、一雌の總產卵數は百數十、卵子は白色、長楕圓形にして、長徑七八厘、孔は樹皮を以て被はるれども容易に看破することを得べし、其性濕氣を忌むを以て、可成樹液少なき老木を好むの傾あり、產卵の際は其個所より二三寸下方を切斷し樹液の上昇を防ぐ、幼蟲期は約三ケ年、孵化當時は樹皮下の形成層を食害し、翌年に至り材質部に入る、卵形の大孔を穿ち、之より褐色の蟲糞を排泄す、常に上方に向ひ縱孔を造りて食害す、全く老熟すれば孔內に木屑を集め其內に蛹化す、蛹は黃白、既に成蟲の具有せる觸角及び脚を認め得べし。

(七) しろすぢかみきり *Iatocera lineolata* Chevr.（第四十九圖版(1)）

被害植物　枇杷、欅、椎。

特徵　成蟲　體は灰黑微細の黃毛を以て被はる、頭頂は膨起し、其中央より額に亘りて細き一縱溝あり、觸角間は凹陷す、複眼は黑色、額片の下部は瑪瑙色、上唇には四個の剛毛

塊を有す、大腮は大にして光澤ある黒色、複眼の後方に一條の太き白條あり前胸には横皺多く、中央に微細の一縦線を具へ、其兩側に各一個の白斑と棘狀突起とを裝ひ、其下方に各一條の白線あり、稜狀部は白色、翅鞘の基部に黒色の顆粒を密布し、肩部に一刺を出だし、中央には不正の白斑を散在す、中後の兩胸側は白色、各脛節の末端には天鵞絨様の毛塊あり、體長一寸七分。

幼蟲 前種に酷似すれども遙に大なり、完熟したるものは長さ二寸四分餘、脚は細長にして三節より成る、一本の褐色爪を裝ふ。

經過 同前。

(八) のこぎりかみきり *Prionus insularis* Motsch. (第四十九圖版(2))

被害植物 松杉檜楡。

特徴 成蟲 體は黒褐、觸角兩鬚體下及び脚は黄褐、觸角は兩鋸齒狀にして第三節最も長大、前胸兩側に各三個の齒狀突起ありて中央にあるものは大なり、粗に點刻を裝ふ、稜狀部稍々五角形、亦少しく點刻あり、翅鞘は粗糙にして三個の判然せざる大なる縦溝を具へ、縮刻多し、胸下に黄褐の短毛を密生す、體長八分乃至一寸三分。

經過 未だ判然せず、三四年を經て一回の發生をなすもの、如し、樹幹に産卵せる幼蟲は孵化して材質部に蠢入し食害す、幼蟲は他の天牛と異ならず、黄白にして第一二節は甚だしく膨大し稍々平たし、頭には褐色の鋭齒を裝ふ、其數多しと雖も、多く朽木を食

するを以て大害なし、廣く本邦に分布す。

(九) うすばかみきり *Aegosoma sinicum* Whit. (第四十九圖版(3))

被害植物 白楊柳。

特徴 成蟲 體は暗褐、頭は中央にて深く凹陷す、上唇に金色毛を密生す、觸角は絲狀にして大に、雌にては體の三分の二に達す、前胸背は廣底四角形にして顆粒多く、兩側に棘刺なし、翅鞘に四條の縦隆を具へ、初めの二條は末端に近く合して一條となり、外側の一條は中央より分岐して二條となり、末端に至りて更に相合す、體下及び脚は赤褐、體長一寸一分乃至一寸四分。

經過 此も亦前種の如く經過判然せず、兩三年を經て一回の成蟲を生ずるもの、如し、成蟲は七月下旬乃至八月上旬に發生するもの多し、白楊の樹幹に蠢入し其材質部を食害すること他の天牛と異ならず、其數多きを以て大害を加ふ、廣く本邦に播布す。

(一〇) くろかみきり *Spondylis buprestoides* L. (第四十八圖版(12))

被害植物 松杉檜槙等。

特徴 成蟲 體は黒色、長楕圓形、大腮は發達して大なり、觸角は短くして纖かに翅底に達するに過ぎず、前胸背は稍々球形にして相癒合せる粗大の點刻及び縮刻を粗布す、翅鞘にも亦同様の縮刻あり、何れも光澤を帶ぶ、後者には二條の判然せる縦條あり、體下は黒褐、體長六分乃至七分。

經過　未だ判然せざれども、のこぎりかみきり」と同樣の經過をなすものゝ如し、其數多からざるを以て甚だしく有害ならざるべし、形狀は一見吉丁蟲に似たる所より其學名あり、九州地方にありては十月上旬發生するもの多し、此幼蟲の他の天牛の幼蟲と異なる所は、頭の突出(大腮の突出)せると、脚割合に長きとにあり、前硬皮板には點刻多く後硬皮板には顆粒多し、尾節には稍々圓錐形の二突起あり。

（一一）さびかみきり Crioecphalus rusticus L.（第四十八圖版(13)）

被害植物　松、杉、檜。

特徴　成蟲　體は暗褐、少しく平たし、黃色の短毛を密生す、觸角は體より短く、柄節は大にして棍棒狀をなす、兩鬚は黃色、頭の中央に細き縱溝を具へ、前胸背は稍々圓形、中央に一縱溝を裝ひ、二三個の凹陷あれども甚だしく判然せず、翅鞘には二條の縱隆あり、點刻を密布す、體下は赤褐、體長七分乃至八分。

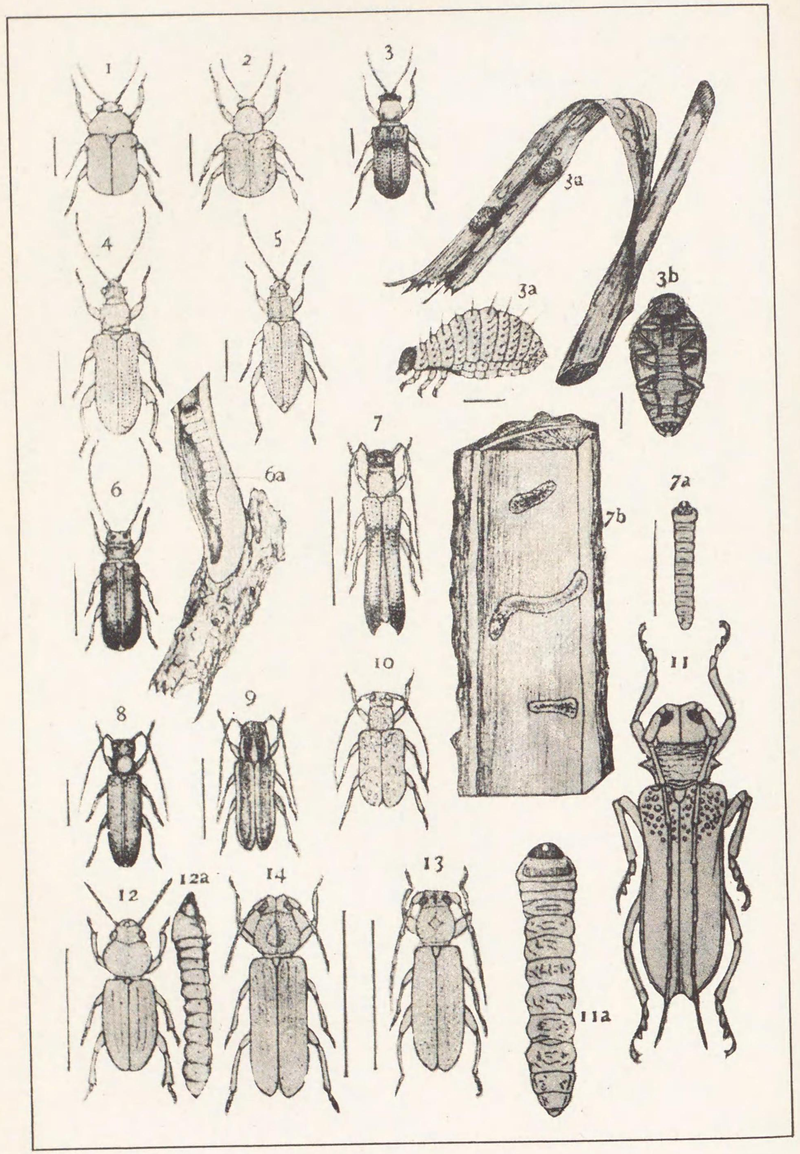
經過　未だ判然せず、成蟲は松の樹幹に蠹入して材質部を食す、老木若くは新しき倒木に產卵する性あり。

（一二）おほくろかみきり Megasemum quadricostulatum Kraatz.（第四十八圖版(14)）

被害植物　樅、えぞまつ、とどまつ。

特徴　成蟲　體は黑褐、觸角は雄にては略々體と同長、雌にては纔かに體の半に達するに過ぎず、前胸背は稍々球狀、中央は淺く凹陷し、其中央に更に一個の縱溝あり、顆粒及び

第四拾八圖



第四拾八圖

1. Chrysochus chinensis Baly. いもさるはむし ……P.816
2. Acrothinium gaschkewitschi Motsch. あかがねさるはむし ……P.817
3. Lema tristis Herbst. (*Lema flavipes* S ff. いねどろはむし ……P.817
   a. 幼蟲 *b*. 蛹
4. Donacia simplex F. すげはむし ……P.818
5. 〃 lenzi Schöf. ねくひはむし ……P.819
6. Chreonoma fortunei Thoms, るりかみきり ……P.819
   a. 幼蟲
7. Oberea japonica Thunb. りんごかみきり ……P 820
   a. 幼蟲 . *b*. 被害樹斷面
8. Phytoecia ventralis Chovr. きくす かみきり ……P.821
9. Thyestes gebleri Fald. あさかみきり ……P.821
10. Mesosa jadonica Bat. ごまだらかみきり ……P.822
11. Apriona rugicollis Chevr. くはかみきり ……P.822
    a 幼蟲
12. Spondylis bupr stoides L. くろかみきり ……P.825
    a. 幼蟲
13. Criocephalus rusticus L. さびかみきり ……P.826
14. Mogasemum quadricostulatum Kraatz. おほくろかみきり ……P.826

點刻多し、翅鞘は各二個の縦隆を裝ひ、其間室は粗糙にして縮刻多く、灰色の微小毛あり、體長六分乃至一寸。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、札幌地方にありては七月下旬より八月上旬に亘りて現はれ、「とどまつ」「えぞまつ」の樹幹に產入して材質部を食す、多く新伐木に產卵するの性あり、「くろかみきり」に酷似すれども、前胸背に大なる凹陷あるを以て容易に識別することを得べし。

(一三) まるくびひらたかみきり Asemum amurense Kraatz. (第四十九圖版(4))

被害植物 とどまつ、えぞまつ、松。

特徴 或蟲 體は黑褐色にして灰白毛を密生す、翅鞘は暗黃褐、觸角は短くして纖かに體の半に達し、末端は黃褐、頭頂は圓く凹陷す、前胸背は稍々圓形にして中央少しく凹陷す、稜狀部は長くして黑褐、翅鞘に判明なる廣き五縱溝ありて其間室は縱隆をなす、前緣に近く横皺あり脚は短く、尾端は暗褐なり、體長三分五厘乃至四分。

經過 六月上旬乃至七月中旬現はれ、新伐木に產入す、其數多からず、小形にして觸角短きが爲め一見叩頭蟲の觀あり、札幌地方にては定山溪に普通なり、年一回の發生をなすものゝ如し。

(一四) おほまるくびかみきり Asemum striatum L.

被害植物 同前。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども形遙かに大なるを以て容易に區別することを得べし、前胸背には顆粒狀の小突起多く、中央に廣き一縱溝あり、觸角は黑色、翅鞘に五條の刺然せる縱隆あり、間室は網目樣の縮刻をなす、個種により翅鞘の黃褐なるものあり、體長四分五厘乃至六分。

經過　不明、成蟲は六月下旬現はれ新伐木地に集來して之に產卵す、內地にては稀なる種類なれども、樺太には普通なるが如し、同地にありては七月中旬現はる、年一回の發生をなすものゝ如し。

（一五）えぞまつかみきり　Tetropium luridum L.（第四十九圖版(5)）

被害植物　どどまつ、えぞまつ。

特徵　成蟲　體は黑色にして、黑毛多し、頭及び前胸背は頗る光澤を帶ぶ、觸角は割合に大にして體の半以上に達す、柄節大に次の三節は小、末端の節は黃褐、頭及び前胸背には點刻を粗布す、前胸背の中央は最も廣く、中央に一縱溝を具へ、後緣には一橫溝あり、翅鞘は光澤を缺き、二縱隆を具へ、短毛を密生す、腿節は大なる棍棒狀をなす、第三跗節及び爪は黃褐、個種により翅鞘觸角及び跗節の黃褐なるものあり、體長三分三厘乃至四分五厘。

經過　七月上旬より現はれ新伐木地に集まり來りて爰に產卵す、樺太地方にありては七月中旬現はる、前種と同時なるが如し、其數甚だ多からず、歐洲にては落葉松及び普通

松を害す、其加害の甚だしき樹木は六十年乃至百年の星霜を經たるものにして、材質部に一尺六寸乃至二尺餘の蝕痕を有するものあり、年一回の發生にして、幼蟲は晩秋稍々成長を終り、翌春蛹化し次で羽化するものゝ如し。

（一六）よつぼしかみきり　Stenygrinum 4-notatum Bat.（第四十九圖(6)）

被害植物　栗、櫟、椙。

特徵　成蟲　體は黃褐、翅鞘の末端は淡色にして鼈甲樣の光澤を有す、觸角は體より少しく長く、頭及び前胸背に顆粒及び點刻多く、前胸背は稍々圓柱形にして中央少しく大なり、縱溝の中央に各二個の黃白紋あり、點刻を粗布し、光澤あり、腿節は頗る大に、稍々球棍狀をなす、體長三分乃至四分。

經過　成蟲は六月乃至八月現はれ、栗其他殼斗科植物の樹幹に產卵す、幼蟲は材質部を食ひて縱孔を穿ち、一方に蟲糞を排出する口を開くを以て容易に其存在を認め得べし、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、幼蟲は黃白色にして形狀他の天牛の幼蟲に異ならず、成蟲は栗の開花期に現はれ、其花粉を以て食とするものゝ如し。

（一七）ほそかみきり　Distenia gracilis Bless.（第四十九圖版(7)）

被害植物　とどまつ、松。

特徵　成蟲　體は暗褐、細長、頭頂に一縱溝あり、觸角黃褐、體より遙に長く、柄節大なり、前胸背の兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘は深き點刻列を縱走し、中央より末端に至るま

で點刻なし、灰黑の短毛密生す、脚長し、體長七分乃至八分。

經過　成蟲の發生する時期は一定せず、七月上旬乃至十月現はれ、松柏科の植物幹に蠹入して食害す、其數多からず。

（一八）はひいろかみきり　Allorhagium inquisitor L.（第四十九圖版(8)）

被害植物　松、とどまつ、えぞまつ。

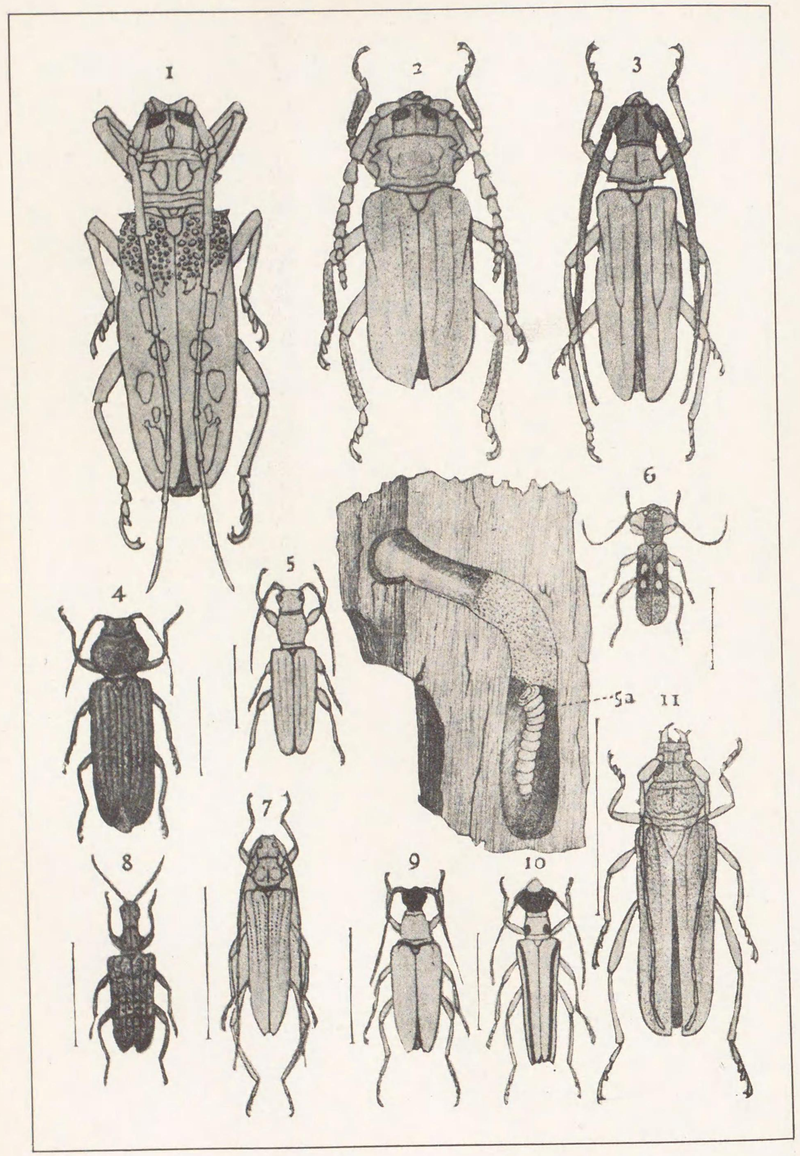
特徴　成蟲　體は灰色、觸角は短くして翅底に達するに過ぎず、基部の大半は黄褐、末端は黒褐、前胸背の中央に黒褐の縦條を具へ、兩側に一個の棘狀突起ありて少しく上方に向ふ、翅鞘は前胸背より甚だ廣く、三個の縦隆ありて黒褐色を呈す、其内に黄色の部分あり、間室には黒褐の隆紋を散在す、全體灰色の短毛を密生す、體下は黒褐、脚は赤褐、腿節末端は褐色、腹面の中央に一個の縦隆あり、體長五分乃至六分。

經過　未だ判然せざるも年一回發生するものゝ如し、成蟲發生の時期は一ならず、五月より十月に至る間何時にても捕獲し得べし、幼蟲は普通樹皮下にありて食害す、老熟するまでには少なくも一尺乃至一尺四寸の蝕孔を生ず、蝕孔は木屑及び蟲糞を以て常に充實せり、幼蟲の他の天牛と異なる所は頭の一層扁平なること、頭緣の截斷狀なること、及び硬皮板後緣の中央三角形に刻られあることなり。

（一九）あかはなかみきり　Leptura succedanea Lew.（第四十九圖版(9)）

被害植物　赤楊。

第四拾九圖



第四拾九圖

1. Batocera lineolata Chevr. しろすぢかみきり ……P.823
2. Prionus insularis Motsch. のこぎりかみきり ……P.824
3. Aegosoma sinicum Whit. うすばかみきり ……P.825
4. Asemum amur nse Kraatz. まるくびひらた みきり ……P.827
5. Tetropium luridum L. えぞまつかみきり ……P.828
   a. 幼蟲
6. Stenygrinum 4—notatum Bat. よつぼしかみきり ……P.829
7. Distenia gracilis Bless. ほそかみきり ……P.829
8. Allorhagium inquisitor L. はいいろかみきり ……P.830
9. Leptura succedanea Lew. あかはなかみきり ……P.830
10. Eustrangalia distenoides Bat. くろすぢはなかみきり ……P.831
11. Aromia moschata L. var. ambrosiaca Stev. くびあかかみきり…P.831

特徴　成蟲　體は黒色、前胸背、翅鞘及び脚の一部は赤褐、觸角は鋸齒狀にして體より少しく短く、額片は赤黃、後頭は延長して頸狀をなす、前胸背の前後に各一個の黒紋あり、稜狀部は黒色にして黃毛を裝ふ、翅鞘は粗大の點刻を密布し、黃毛を密生す、末端は斜に截斷せられ、其外側に刺あり、前腿節の下方及び前腿節の大部は赤褐、體下は黒褐、黃白の絹樣毛を密生す、體長五分五厘乃至七分。

經過　未だ判然せず、成蟲は八月上旬乃至下旬現はる、幼蟲の他の天牛と異なる所は後頭部の頸狀を呈するにあり、年一回の發生をなすもの、如し、廣く本邦に播布す。

樺太地方にも亦稀ならず。

(二〇) くろすぢはなかみきり　Eustrangalia distenoides Bat. (第四十九圖版(10))

被害植物　槭。

特徴　成蟲　體は黃色、頭頂、觸角、前胸背の二紋、翅鞘の一縱條及び尾節は黒色、跗節は黒褐、翅端は斜に刳られ、外側に一銳刺あり、粗大の點刻を散在す、體長四分五厘乃至五分。

經過　未だ判然せず、槭の伐木地に普通なり、雌は產卵管を樹幹に挿入して產卵し、幼蟲は深く材質部に侵入して蝕害す、二年に一回の發生をなすものならんか、甚だ多からざる種類なり。

(二一) くびあかかみきり　Aromia moschata L. var. ambrosiaca Stev. (第四十九圖版(11))

被害植物　柳、白楊。

特徵　成蟲　體は黒綠、觸角及び脚は黒藍色、前胸背は赤黃、前後の兩端は紺色、觸角は體より遙に長く、頭頂に大なる點刻多し、前胸背の後緣に二個の瘤狀突起を具へ、兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘に二縱隆あれども翅端にては判然せず、全面縮刻多し、體下は帶黒綠色、後脛節は腿節より短し、體長八分乃至九分。

經過　幼蟲の壽命は未だ判然せざれども略々三、四年なるが如し、完熟したる幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、七月乃至八月羽化す、兩三年に一回の發生をなすものなればにより更に成蟲を見ざることあり、幼蟲は老熟すれば一寸五六分に達す、成蟲は一種固有の香氣を有す。

(二二)　おほあをかみきり　Chloridolum thaliodes Bat.　（第五十圖版(1)）

被害植物　柳、白楊。

特徵　成蟲　體は黒綠、前胸背は少しく藍色を帶ぶ、觸角及び脚は黒藍色、前者は絲狀にして體よりも長く、柄節大なり、兩鬚は赤褐乃至黒褐、前胸背に點刻多く、中央に四個の瘤狀突起を具へ、兩側に大なる棘狀突起あり、翅鞘は雌にては腹部より少しく短く、顆粒を密布す、體下は黒色にして少しく綠色を帶ぶ、後肢頗る長く、脛節は扁平にして少しく彎曲す、體長八分乃至九分。

經過　同前、前種より多し。

(二三)　あをかみきり　Chelidonium quadricolle Bat.

被害植物　槭ちやうじやのきみねばり。

特徵　成蟲　體は綠色、觸角、脚及び眼は黒藍色、頭及び前胸背は金光の色澤を帶ぶ、觸角は雌にては體長より少しく短けれども雄にては少しく長し、前胸背の兩側に各一突起を具へ、中央に一縱溝を裝ひ、其兩側に縮刻多し、翅鞘は末端に至るに隨ひ細く且少しく暗色を帶ぶ、二個の縱隆あれども判然せず、腿節は棍棒狀に膨大し、後腿節は側扁、體下は金光色を帶ぶ、個種により全體黒藍色なるものあり、體長七分乃至九分。

經過　兩三年に一回の發生をなすものゝ如しと雖も未だ判然せず、幼蟲は槭科植物の幹內にありて縱孔を穿ち食害す、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、成蟲は普通六月上旬乃至七月現はる、常に樹幹に蟲糞を排出するを以て其存在を認め得べし、幼蟲老熟すれば一寸六分に達す、大腮は黒色、第一節は稍々方形をなし、其前半には三個の褐紋を具へ、後半は桃色を帶ぶ。

(二四)　くろひらたかみきり　Semanotus chlorizans Solsky.　（第五十圖版(2)）

被害植物　楡赤楊

特徵　成蟲　體は扁平、黒色にして少しく紺色を帶ぶ、觸角は體より遙に長し、前胸背は粗糙にして凹凸多く、後緣の兩側は縊る、翅鞘には顆粒突起を散在し、翅底に於て現明なり、腿節は稍々球桿狀に膨大す、體下及び跗節は黒褐、體長四分乃至六分。

經過　未だ判然せず、成蟲は六月上旬より現はれ楡の樹幹に產卵す、殊に新伐木地に集來

す、兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化すること他の天牛に異ならず。

〔附言〕 拙著千蟲圖解第三卷第百四十七頁に記載せる學名 Callidium violaceum L. は誤なるを以て爰に訂正す。

（二五）ほたるかみきり Dere thoracica Whit. （第五十圖版(3)）

被害植物 血滴合歡（カシホム）、

特徴 成蟲 體は黒藍色、觸角は棍棒狀にして黒色、頭に顆粒多し、前胸背は前後の兩端を除き赤色、中央膨起す、翅鞘に顆粒多く、中央は平坦なり、末端は少しく剝られ、其外側に一刺あり、腿節は甚だしく膨大す、各腹節の後緣は細くして黄色、體長三分內外。

經過 未だ判然せず、成蟲は四五月頃より現はれ、花上に集來する性あり、交尾後は樹幹に產卵管を挿入して產卵す、年一回の發生なるが如し、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、其數甚だ多からざるを以て、隨て加害少なし、中國、九州地方に多けれども、北海道には產せず。

（二六）びろうどかみきり Monochammus fraudator Bat. （第五十圖版(4)）

被害植物 交讓木（ユヅリハ）其他大戟科植物。

特徴 成蟲 體は褐色、天鵞絨樣の光澤あり、額片及び上唇の末端は黄色、頭に點刻を粗布す、觸角は黄褐、各節の末端は少しく濃色、體長の二倍餘あり、前胸背の兩側に上向せる

棘狀突起あり、中央に點刻を粗布す、翅鞘には深き點刻を粗布し、灰褐の短毛を密生す、脚短く、腿節太し、體長六分乃至七分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は六月頃より現はれ、樹幹に產卵す、幼蟲は幹內を縱橫に食害す、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、幼蟲は黄白色にして、頭は褐色、第一節は大にして平たく、中央にコ字形褐紋を裝ひ、其兩側に更に各一個の褐紋あり、老熟すれば一寸一二分に達す、被害樹は常に蟲孔より蟲糞を排出するを以て其存在を認め得べし。

（二七）せんのかみきり Monochammus luxuriosus Bat. （第五十圖版(5)）

被害植物 刺楸（ハリギリ）

特徴 成蟲 體は黒褐、觸角は體の二倍以上ありて黄褐、基部は黒褐、前胸背は兩側に大なる棘狀突起を具へ、粗大の點刻あり、翅鞘は廣くして灰毛を密生し、其基部に顆粒を密布す、二個の判然せざる黒褐の大紋あり、灰色毛の多からざる部分、脚は赤褐、體長七分五厘乃至一寸三分。

經過 兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、成蟲は八月下旬乃至九月中旬現はれ、樹幹に產卵管を挿入して產卵す、幼蟲は縱孔を穿ち材質部を食害す、幼蟲の有樣にて越年し翌春蛹化す、其成長の度異なるを以て夏期に於ては殆んど何れの時にても捕獲し得べし、廣く本邦に播布せる種類にして、沖繩地方にも產し、札幌地方には普通なり。

（二八）ひげながかみきり Monochammus grandis Whit.（第五十圖版(6)）

被害植物 檜（ひば）、えぞまつ、樅。

特徴 成蟲 體は黒色にして灰色毛あるを以て暗色を呈す、觸角基部の內側に各一個の短き角狀突起あり、前胸背には縱溝を具へ、縮刻多し、觸角は雄にありては體長の二倍半あり、前胸背には縮刻多く、兩側に棘狀突起ありて、其後方に灰白毛の縱紋あり、穀狀部には灰白毛を密生す、翅鞘の基部には顆粒を密布し、翅端の三分の二は光澤を帶び、點刻を粗布す、後胸片の兩側に各一個の灰白紋あり、雌にありては觸角は體より少しく長く、第二節乃至第五節の基部は灰色にして少しく藍色を帶ぶ、翅鞘には灰白毛紋を散在す、體長一寸一分乃至一寸六分。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、北海道地方には普通なる種類なれども深山にありては稀ならず、成蟲は樹幹に產卵管を挿入して產卵す、幼蟲は幹內に縱孔を穿ち食害す、其經過未だ全く判然せざれども、大形の種類なれば大害を加ふるものなるべし。

（二九）よつぼしひげながかみきり Monochammus sartor F. var. pellio Germ.（第五十圖版(7)）

被害植物 檜（ひば）、えぞまつ、樅。

特徴 成蟲 前種に類似すれども、其差異は左の如し。

一、遙に小形なること、體長七分乃至一寸一分。

二、前胸背の兩側に白條を有せず。

三、翅鞘の前半部には粗糙の縮刻及び點刻を裝ひ、翅端には灰黃色の短毛を密生せるを以て斑紋を有する觀あり、判然せざる二三の縱隆あり。

四、後胸片の兩側に灰白紋を缺く。

五、雌にては翅鞘に普通四白紋を裝ふ、時に二個なることあり。

經過 前種と同時に現はれ同樣の害をなす、北海道及び樺太地方に普通なれども經過未だ判然せず、歐洲にありても亦檜類に大害を加ふ。

（三〇）いたやかみきり Mecynippus publicornis Bat.（第五十圖版(8)）

被害植物 槭。

特徴 成蟲 體は暗褐色にして、黃褐の短毛を密生す、觸角は體よりも遙に長く、赤褐を呈し、灰白毛を密生す、前胸背の兩側に棘狀突起あり、翅鞘の基部には深き點刻を粗布し、中央には廣き灰白の斜帶を走らし、翅端も亦廣くして灰白なり、兩者何れも褐色紋を散在す、脚及び體下は褐色の短毛を密生す、雄にありては翅鞘の灰白帶小にして判然せず、體長六分乃至九分。

經過 未だ判然せされども成蟲は七月中旬現はれ槭に產卵するを見る、廣く本邦に播布し、特に九州に多し。

（三一）ひげながごまだらかみきり Apalimna lituata Bat.（第五十圖版(9)）

被害植物　桵。

特徴　成蟲　體は灰白色にして黒色の斑紋多し、觸角は體の約四倍餘ありて各節の末端は黒色、後頭に三個の黒紋を具へ、兩側及び前頭にも亦黒紋あり、翅鞘は圓柱形にして兩側に棘狀突起を具へ、其下方に黒縦條あり、前緣中央に二個の黒縦條を具へ、其後緣に三錐狀の黒紋あり、翅鞘には大小の黒紋を撒布し、前緣の大部は黒色なり、腿節及び脛節の中央、末端並に跗節の末端は黒色、脚及び體下は灰白毛を密生す、體長五分五厘乃至六分五厘。

經過　兩三年に一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲は樹幹に縦溝を穿ちて材質部を食するが故に、水の上昇を遮りて樹を枯死せしむることあり、成蟲は七月下旬乃至八月中旬現はれ樹幹に産卵す、其數甚だ多からず、廣く本邦に播布す。

（三二）ねじろかみきり　Pogonocharus semiliveus Bat.（第五十圖版(10)）

被害植物　しなのき、楡。

特徴　成蟲　體は黒色、翅底の大半は白色、觸角は體と稍々同長にして基部は褐色、各節の基部は白色にして少しく藍色を帶び、下面に黒色の長毛を粗生す、頭及び前胸背は暗褐、後者は中央に二個の瘤狀突起を具へ、兩側に低き棘狀突起あり、稜狀部黒色にして其中央は白色、翅底は白色にして中央に灰色紋を具へ、其前方は瘤狀に隆起す、翅鞘の後半は黒色、二個の縦隆を具へ、黒色の毛塊二個あり、翅端は黄色にして刺を裝ふ、脚は

黒色にして長短二種の灰白毛あり、體長二分乃至二分五厘。

經過　未だ判然せざれども、成蟲は四月下旬より現はれ樹枝に産卵するものゝ如し、年一回の發生にして、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、北海道地方には普通なれども、未だ他地方にて發見せることなし。

（三三）しなかみきり　Eutetrapha variconnis Bat.（第五十圖版(11)）

被害植物　しなのき。

特徴　成蟲　體は灰黄、觸角は灰白にして少しく藍色を帶び、第一及び第二節の全體並に以上五節の末端は黒色、額片は黄褐、前胸背は圓柱形にして中央に四個の小黒紋を裝ひ、兩側に各一條の黒線あり、翅鞘は約七個の黒紋を裝ひ、肩部より翅端に達する黒線ありて其中央に平行せる縦隆起あり、稜狀部の兩側にも亦黒紋あり、體及び脚に短毛を密生す、體長五分五厘乃至六分。

經過　年一回の發生、成蟲は六月乃至八月現はれ「しなのき」の樹幹に産卵す、老熟したる幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し次で羽化す、札幌地方には極めて普通なれども、本州には産せざるが如し。

（三四）はんのあをかみきり　Eutetrapha chrysargyrea Bat.（第五十圖版(12)）

被害植物　赤楊、しなのき。

特徴　成蟲　體は光澤ある鑛物性の淡綠、觸角、前頭の一紋、前胸背の四紋、稜狀部、翅鞘の前

緣及び縱列せる四大紋は黑色，觸角は體より少しく長し，稜狀部の中央に綠紋あり，翅鞘の黑紋には網目樣の點刻あり，脚は黑色，中後の腿節は綠色を帶ぶ，腹部は黑色，尾端の兩側は綠色，體長四分乃至五分。

經過　前種と同時に現はれ同樣の經過をなすものゝ如し。

（三五）かつらかみきり　Glenea fortunei Saund.（第五十圖版(13)）

被害植物　桂（カツラ）。

特徵　成蟲　體は黑色，灰白の短毛を密生す，觸角は雌にては體より少しく短，雄にては長し，前胸背の兩側に各一個の灰白色縱條あり，稜狀部は灰白，翅鞘は暗灰色，兩側に黑縱條あれども翅端に達せず，脚及び體下に灰白毛多きを以て暗灰色の觀あり，體長三分乃至四分。

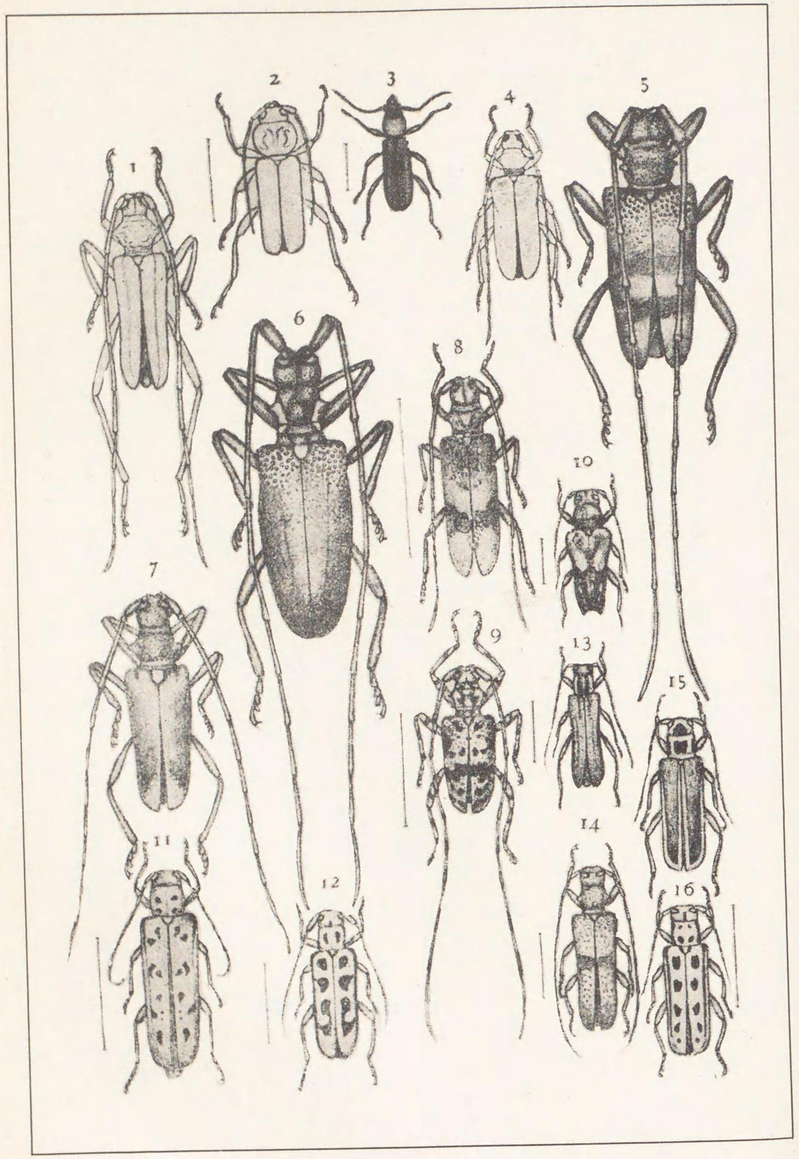
經過　未だ判然せず，四月中旬乃至五月下旬現はれ，樹幹に產卵するものゝ如し。

（三六）しなのくろふかみきり　Asaperda agapanthina Bat.（第五十圖版(14)）

被害植物　しなのき。

特徵　成蟲　體は灰褐色，少しく綠色を帶ぶ，觸角は體よりも長く，黃褐にして長毛を裝ひ，第一節及び第二節並に各節の末端は黑褐，前胸背の兩側に低き棘狀突起あり，翅には小黑褐紋を散在し，中央に大黑褐紋を裝ふ，脚は黃褐，腿節の基部は黑色，體長三分乃至四分。

第 五 拾 圖



第 五 拾 圖

1. Chloridolum thaliodes Bat. おほあをかみきり ……P.832
2. Semanotus chlorizans Solsky. くろひらたかみきり …… ……P.833
3. Dere thoracica White. ほたるかみきり …… P.834
4. Monochammus fraudator Bat. びろうどかみきり ……P.834
5. Monochammus luxuriosus Bat. せんのかみきり ……P.835
6. Monochammus grandis White. ひげながかみきり ……P.836
7. Monochammus sartor F. var. 4—maculatus Motsch. よつぼしひげながかみきり……P.836
8. Mecynippus pubicornis Bat. いたやかみきり ……P.837
9. Apalimna liturata Bat. ひげながごまだらかみきり ……P.837
10. Pogonochaerus seminiveus Bat. ねじろかみきり ……P 838
11. Eutetrapha varicornis Bat. しなかみきり ……P.839
12. Eutetrapha chrysargyrea Bat. はんのあをかみきり ……P.839
13. Glenea fortunei Saund. かつらかみきり ……P.840
14. Asaperda agapanthina Bat. しなのくろふかみきり ……P.840
15. Saperda sanguinolenta Thoms. はんのかみきり……P.841
16. Saperda decempunctata Gebl. とほしかみきり ……P 841

經過　未だ判然せず、五月中旬より現はれ「しなの木」に普通なり「しなかみきり」と同樣の經過をなすものゝ如し、札幌地方には極めて普通の種類なれども、本州には稀なるが如し。

(三七) はんのかみきり Saperda sanguinolenta Thoms. （第五十圖版(15)）

被害植物　赤楊。

特徴　成蟲　體は黑色、頭は赤黃、頭頂の一紋及び頭の三角紋は黑色、觸角は各節基部に於て灰白、前胸は赤黃、中央の二紋及び兩側の一紋は黑色、圓柱形にして兩側に棘刺なし、稜狀部赤黃、其兩側、翅鞘の前端及び後緣は赤黃、顆粒突起及び粗糙の點刻多し、體下及び脚は黑色、體長六分乃至七分。

經過　年一回の發生、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し次で羽化す。成蟲は三四月現はれ、樹幹に產卵す、幼蟲は材質部を食し、老熟すれば一寸餘に達す、頭は淡褐、其前緣は黑色、第一節は扁平にして褐紋を裝ふ、本州には稀ならざれども北海道には少なし。

(三八) とほしかみきり Saperda decempunctata Gebl. （第五十圖版(16)）

被害植物　しなのき。

特徴　成蟲　體は暗黃にして少しく綠色を帶ぶ「しなかみきり」に酷似すれども翅鞘の斑紋は大にして十個あり、稀に翅底の斑紋二個なることあり、翅鞘の兩側に縱隆を缺くを以て容易に識別することを得べし體長六分內外。

經過　不明、しなかみきり」と同時に發生し同樣の經過をなすものならんか。

（三九）くはごまだらかみきり　Melanauster chinensis Först.（第五十一圖版(1)）

被害植物　桑・柑橘・辛樹・柳・楝（センノキ）。

特徵　成蟲　體は光澤ある黑色、觸角は體より長く、各節の基部は灰藍色、前胸背に橫皺及び棘刺を有し、二個の灰藍色紋を裝ふ、稜狀部及び胸部は稍々藍色、翅鞘の基部に顆粒多く、鞘上に四十餘個の白紋を裝ふ、腹部及び脚は灰藍色、體長九分乃至一寸二分。

幼蟲「くはかみきり」の幼蟲に酷似し形稍々小なり。

經過　同前。

驅除法　「くはかみきり」に同じ、但し幹を害するを以て該樹を搜索して母蟲を捕殺すべし。

（四〇）べにかみきり　Purpuricenus temmickii Guér.（第五十一圖版(2)）

被害植物　棗（ナツメ）竹。

特徵　成蟲　體は黑色、頭の中央に一縱溝を有し觸角は黑色にして體と略々同長、前胸背は朱色、後緣は突起し側面に各一個の棘狀突起を有し、中央に五個の黑紋を裝ふ、翅鞘は濃朱色、接合部は黑色點刻を密布す、脚は黑色、褐色の短毛を密生す、體長六分。

（四一）くはとらかみきり　Xylotrechus chinensis Chevr.（第五十一圖版(3)）

被害植物　桑。

特徵　成蟲　體は黃色、頭は割合に小、中央の縱條複眼、觸角及び後頭は褐色、觸角は短くして僅かに中肢の基部に達す、前胸は球形にして中央に斷續せる一縱條を具へ、約三分の二の前方に黑色の一橫條ありて之より前方は黃色、後方は赤褐、更に其後方は黑色を呈す、翅鞘は前方廣く後方狹く、基部は黑色、次で黑黃の兩色交互に斜條をなして翅の半ばに達す、其後半は黃色にして其內に褐色の橫帶あり、故に翅を接合するときは前半の斜條は恰も人字形を現はす、胸腹は總て黑色、後胸の側片に黑色の環紋を裝ふ、各腹節の基部は褐色、脚は黃色、基節と腿節の半は黑色、轉節は褐色、體長七分乃至八分。

幼蟲「くはごまだらかみきり」の幼蟲に酷似すれども小形なり。

經過　幼蟲期は約一ヶ年、八九月頃產下せられたる卵子は二週間前後にして孵化す、樹皮下の軟質部を食ひ其儘越年す、翌春材質部に入りて食害したる後七八月頃に至りて老熟し、次で蛹化し、八九月頃羽化す、幼蟲は下方より上方に迂曲せる隧道を造りて食害するの傾あり、枝皮を害する場合には枝はために著しく膨大し、數年の後大に異狀を呈し、遂に枯死するに至る。

（四二）ぶだうとらかみきり　Xylotrechus pyrrhoderus Bat.

被害植物　葡萄。

特徵　成蟲　體は黑色、前胸背は赤褐にして稍々球形に近く網狀の點刻を具へ、黑毛を粗生す、翅鞘は黑色、稜狀部に近く黃褐と黃色の二橫帶ありて、前方にあるものは細くして斜走し後方にあるものは橫走して太し、體長三分五厘乃至四分五厘。

經過 年一回の發生をなすものゝ如し、幼蟲は黃白、大腮は黑色、口部は褐色、第一節には粗大の點刻を粗布し、硬皮板は黃白にして滑澤なり、蛹は尾端に齒狀突起を群生し、其末端は黑褐、老熟したる幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化するものゝ如し、東北地方殊に岩手地方に多し、北海道には未だ產するものあるを見ず。

(四三) ことらふかみきり Xylotrechus grayi Whit. (第五十一圖版(4))

被害植物 楡。

特徵 成蟲 體は黑褐、前頭觸角翅鞘の基部腹面並に脚は黃褐、觸角後方に黑褐の一橫條あり、後頭は黃毛を密生す、前胸は稍々球形にして中央に細き黃色の橫條あり翅鞘の基部黃褐共下方にある斜條中央の彎曲せる二橫條並に翅端は黃色、中胸並に第一第二腹節の兩側に各一個黃色の毛塊あり、腿節の中央黑褐、體長五分乃至六分。

經過 年一回發生す、成蟲は六月上旬乃至八月現はれ、新伐木地に集まり爰に產卵す、又薪積場に集まるの性あり、被害樹は多く老木なるを以て左程害なきものゝ如し、幼蟲の有樣にて越年し翌春蛹化し次で羽化す、札幌地方にありては普通の種類なれども東京地方には稀なり。

(四四) きすぢとらかみきり Clytus caproides Bat. (第五十一圖版(5))

被害植物 柿。

特徵 成蟲 體は黑褐觸角翅底の斑紋及び脚は黃褐頭の中央にある二紋後緣前胸背の

前後兩緣稜狀部翅鞘の二橫條腹面節の後緣並に翅端は鮮黃色、雄にては翅鞘の褐色部の下方に更に黃色の一斜條あれども餘り判然せず、中央の橫條は兩者相合して人字形をなし、外半にある廣帶は端直なり、體長四分乃至六分。

經過 年一回の發生、成蟲は六月中旬乃至七月下旬現はれ、柿其他柿樹科植物の樹幹に產卵す、幼蟲は縱溝を穿ちて材質部を食ひ、一端に小孔を開きて之より蟲糞を排出す、幼蟲の有樣にて越年し、翌春蛹化し、次で羽化す、廣く本邦に播布すれども北海道には稀なり。

(四五) たけのとらふかみきり Clytanthus annularis F. (第五十一圖版(6))

被害植物 竹(竹細工物其他竹柱等を食害す)。

特徵 成蟲 體は灰褐、頭は小、觸角は褐色にして中肢の基部に達す、前胸は球形、中央に二個の黑紋を裝ふ、中央にあるものは大にして叉狀をなす、翅鞘は暗黃、肩部に近く長楕圓形の黑輪を有し、其後方に一黑橫線あり、又翅端に沿ひて大なる黑紋を具ふ、脚は暗褐、後腿節は稍々黑色を帶ぶ、腹部は灰白の細毛を裝ふ、體長四分五厘內外。

(四六) しろおびかみきり Callidium albicinctum Bat. (第五十一圖版(7))

被害植物 葡萄、櫻等。

特徵 成蟲 體は黑色、褐色若くは灰白の短毛を裝ひ、頭には小點刻あり、觸角は體より少しく短し、前胸は球形をなし小點刻を密布す、翅鞘には褐毛を裝ひ、中央に一白帶あり

腿節は棍棒狀に膨大す、體長二分乃至二分三厘。

幼蟲　體は黃白、他の天牛の幼蟲と異なるなし、但し大腮は大にして他の種類よりも突出せる傾あり、體長二分。

經過　年一回の發生をなす、蛹の有樣にて越年し、翌春五月下旬乃至六月上旬に羽化す、成蟲は莖皮を破り其內に卵子を藏す、一雌の卵數は四五十內外、卵は白色、長楕圓形にして一端少しく尖る、幼蟲は初めは皮膚に止まりて食害すれども、成長するに隨ひ木質部に蠹入す、蛹は綿樣の繭內にあり、之が爲め葡萄の枯死すること稀ならず。

驅除法　成蟲は五月下旬乃至六月上旬孵化するものなれば注意して捕獲すべし、萎凋せる莖枝は切りて燒き拂ふべし。

（四七）あかねかみきり　Calidium maacki Kraatz.（第五十一圖版(8)）

被害植物　葡萄。

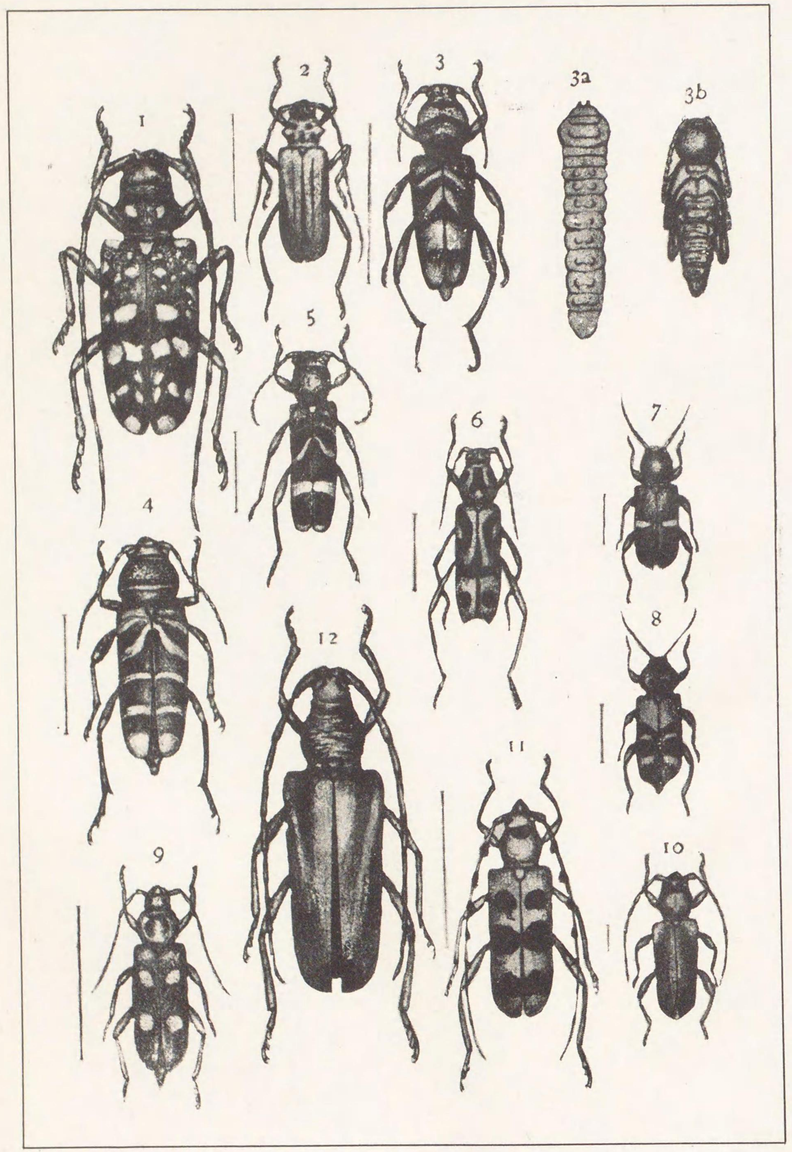
特徵　成蟲　體は暗褐頭及び前胸は黑色にして黑褐の細毛を粗生す、翅鞘の基部約三分の一は褐色、他は暗黑色、少しく褐色を帶び、之に二條の白色帶を裝ふ、後腿節は著しく膨大す、體長二分三厘乃至二分五厘。

（四八）すぎかみきり　Sympiezocera japonica Lac.（第五十一圖版(9)）

被害植物　杉。

特徵　成蟲　體は黑褐にして扁平、細毛及び點刻を密布す、觸角は赤褐にして長さ體より

第五拾壹圖



第五拾壹圖

1. Melanauster chinensis Först. くはごまだらかみきり……P.842
2. Purpuricenus temmickii Guer. べにかみきり……P.842
3. Xylotrechus chinensis Chevr. くはとらかみきり……P.842
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
4. Xylotrechus grayi Whit. ことらふかみきり……P.844
5. Clytus caproides Bat. きすぢとらかみきり……P.844
6. Clytanthus annularis F. たけのとらふかみきり……P.845
7. Callidium albicinctum Bat. しろおびかみきり……P.845
8. Callidium maacki Kraatz. あかねかみきり……P.846
9. Sympiezocera japonica Jac. すぎかみきり……P.846
10. Semanotus rufipennis Motsch. ひめすぎかみきり……P.847
11. Rosalia batesi Har. るりぼしかみきり……P.847
12. Mallambyx japonicus Bat. やまかみきり……P.847

短し、翅鞘には各二個の黄褐紋を裝ふ。體長六分乃至七分二厘。

(四九) **ひめすぎかみきり** Semanotus rufipennis Motsch, (第五十一圖版(10))

被害植物 杉、松。

特徴 成蟲 體は赤褐にして扁平、觸角は體より短くして黒褐、頭及び前胸は黒褐にして點刻を密布し、前胸背の兩側に近く黒紋を裝ふ、翅鞘は赤褐、點刻を密布す、體長三分。

(五〇) **るりぼしかみきり** Rosalia batesi Har. (第五十一圖版(11))

被害植物 胡桃。

特徴 成蟲 體は青色、觸角は體に約二倍し、柄節及び梗節は黒色、第三、第四及び第五節の末端に黒色の毛塊あり、前胸背の前緣及び中央の横紋は黒色、翅鞘は青藍色、三個の黒紋ありて末端に近きものは不正形をなす、體下は絹絲様の青白毛を密生す、腿節及び脛節の兩端は黒色、體長五分五厘乃至一寸。

(五一) **やまかみきり** Mallambyx japonicus Bat. (第五十一圖版(12))

被害植物 栗、

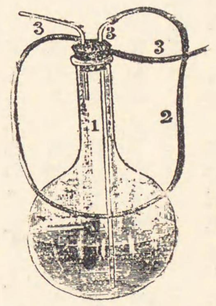
特徴 成蟲 體は灰黒にして灰黄色の短毛を密生す、頭細長中央に縦溝を有し、大腮は大にして突出す、觸角は黒色、體より長し、前胸は扁たく、横皺多し、翅鞘は細長にして肩部稍々隆起す、跗節の下部は扁たくして黄色、體長一寸六分。

幼蟲「くはかみきり」の幼蟲に酷似す、完熟すれば二寸餘に達す。

經過　三年に一回の發生を爲すものゝ如し、成蟲は七八月の頃現はれ、卵子を樹幹に殘す、幼蟲は材質部に大縱孔を穿ち食害するを以て、樹木の枯死を見ること稀ならず。

天牛一般の驅除法

第二百六十八圖
石油注射器



(1)瓶子硝子管　(2)ゴム管　(3)硝子管

一、上圖の如き灌注器にて蟲孔より石油石油乳劑若くは酢を注入すべし、此器を用ふる時は鐵砲蟲が如何なる場處にあるも汁液を之に達せしむることを得べし、又銳刀にて蟲孔を破り其內にある幼蟲を殺すべし、此蟲は常に蟲孔より蟲糞を出せるを以て容易に之を發見し得べし。

二、成蟲は幾分か燈火に飛來するの性あるを以て之を利用すべく、又新伐木地及び白布に集來するの性あるが故に、伐木地に至りて黃昏白布を樹幹に張り之を捕獲すべし、而して晝間は樹上に靜止するを以て急に動搖して之を落下せしむるを得べし、又被害の患ある樹幹は時々巡視して其有無を檢すべし。

三、卵子の所在は樹皮浮上し看破し得るが故に常に其搜索に心掛くべし。

小蠹蟲科 Scolytidae.

(一) まつのひめこしんくひ Myelophilus (Blastophagus) minor Hartig. (第五十二圖版(1))

被害植物　松樅檜えぞまつ落葉松。

特徵　成蟲　體黑色、圓柱形をなし、頭は下向して見えず、前胸は長く體の約三分の一を占め、前方は微細の小點を密布す、翅鞘は黑色にして縱條を有し、其間室に點刻を列ぬ、前方は少しく細小なり、體長一分。

幼蟲　白色にして象鼻蟲の幼蟲に酷似す、脚は判然せず、體長一分二三厘。

經過　成蟲の有樣にて越年す、翌春潛伏處より出で樹幹に穿入して產卵す、卵子は白色楕圓形にして十日內外にて孵化し、產附せられたる場所より食ひ始め、各自其欲する方面に向て食進す、幼蟲孔は概ね母孔の直角にして放線狀をなし相交叉することは稀なり、斯くて普通六月下旬乃至七月上旬に至り成長し終れば其處に蛹化す、八月乃至九月に至り更に甲蟲を見るは即ち第二回のものなり、幼蟲孔の長さは六七寸とす、母孔は複橫孔なり、此害に罹りたる樹は年內に枯死することあり、廣く本邦に播布す。

(二) まつのこしんくひ Myelophilus (Blastophagus) piniperda L. (第五十二圖版(2))

被害植物　松樅落葉松。

特徵　成蟲　體は黑色、翅鞘は少しく褐色を帶ぶ、胸部は前方幅狹く後方廣し、翅鞘には縱列せる小瘤あり、瘤上には細毛を生ず、末端は截斷狀に終る、體長一分三厘乃至一分七厘。

幼蟲　白色無肢、第一節は大にして少しく黃色を帶ぶ、體長二分。

經過　年二回の發生をなす、成蟲の有樣にて越年し、三四月頃現はれ、前種同樣に產卵す、幼蟲は十日內外にして孵化し、母孔と直角に幼蟲孔を穿つ、六月若くは七月上旬蛹化す、其害の甚だしきは「あかまつ」にして三十五年乃至四十年を經たるもの最も害を被り易し、其特に恐るべきは樹の新芽を穿つにあり、晩秋越年せんが爲め樹幹二寸以上の深さに蠹入するの性あるを以て其害少なからず、母孔は單縱孔にして、幼蟲孔は割合に變形なり、成蟲の新芽に蠹入するは其食物を得んが爲めにして常に長さ一二寸の孔を上方に向ひて穿ち、其部を枯死せしむ。

(三) すもものこしんくひ Scolytus japonicus Chap. (第五十二圖版(3))

被害植物　李、梅、櫻、楡。

特徵　成蟲　黑色、前胸は大にして體の半を占む、翅鞘に縱條多く翅鞘の接合部は少しく凹陷す、尾端は斜に切斷せられたるの觀を呈す、腹面に黃毛を密生す、體長八厘。

經過　年二回の發生をなす、母孔は四分乃至一寸、幅六厘にして其一端は彎曲す、靱皮層にあり、幼蟲孔は三寸三四分に達す、初めは放線狀をなせども次第に不規則となる、楡の枝に普通なる種類にして直徑一寸位の枝を最も嗜むもの〻如し、八月中旬二回の成蟲を生ず。

(四) うめのこしんくひ Scolytus aratus Blandf. (第五十二圖版(4))

被害植物　梅、李、櫻、楡。

特徵　成蟲　黑褐、頭は黑色、中央に一縱隆あり、前胸背は點刻を密布し、灰色毛を裝ひ、中央に一縱隆あり、翅鞘は黃褐明瞭なる縱溝列を具へ間室に黃毛を裝ひ、小顆粒あり、腹面は黑色、黃色の長毛あり、體長七厘。

經過　年二回の發生をなすもの〻如し、余の所藏標本は九月八日捕獲したるものなれば、定めて第二回の發生なるべし、母孔は長さ六分乃至一寸、幅四厘、其一端は分叉す、靱皮層にあり、幼蟲孔は母孔に稍々直角をなして互に相平行す。

(五) にれのおほこしんくひ Scolytus esuriens Blandf. (第五十三圖版(2))

被害植物　楡。

特徵　成蟲　黑色、光澤あり、頭は雄にては前方扁たくして短毛を裝ひ雌にては稍々隆起し、細き縱溝多し、前胸背は前緣小となり、赤褐色にして頗る光澤を帶び、點刻は中央にては小にして粗、前緣及び兩側に於ては大にして密なり、翅鞘は黑色乃至赤褐色、腹部は黑色、基部隆起す、體一分一厘乃至一分八厘。

經過　年二回の發生をなす、第一回は五六月、第二回は八九月、幼蟲の有樣にて越年す、母孔は單縱孔にして深く靱皮層に達す、幼蟲孔は直角をなして上方に向ふ、普通樹幹及び大枝を害す、札幌地方にありては普通なる種類にして樹は之が爲めに枯死す。

(六) みつとげこしんくひ Scolytus trispinosus Strohm.

被害植物　楡。

特徵　成蟲　前種に酷似すれども少しく小形、尾端に赤褐の三刺を裝ふを以て容易に區別することを得べし。體長一分二厘乃至一分五厘。

經過　前種と同時に現はれ同樣の害をなす、母孔は前種よりも少しく短し。

(七) にれのこしんくひ　Scolytus chikisanii Niis.（第五十三圖版(3)）

被害植物　楡。

特徵　成蟲　黑色、形は前種に比し稍々長形なり、翅鞘は前胸よりも長く尾端細し、點刻ある縱列ありて其間室には小なる一列の點刻あり、第二腹節は少しく凹陷し、第二、第三及び第四腹節の後緣は隆起す。體長一分二厘乃至一分六厘。

經過　年二回の發生をなすものゝ如し、成蟲は六月及び八月現はる、母孔は長さ七分乃至一寸六分、幅七厘、上端にて傾斜するもの多し、幼蟲孔は相接近して出で末端にて交叉す、多くは枝を害すれども又幹にあることもあり。

(八) ゆみばらこしんくひ　Scolytus curviventralis Niis.（第五十三圖版(4)）

被害植物　楡。

特徵　成蟲　前種に酷似す、其差異は前胸背點刻の密なること及び翅鞘上の間室にある點刻の小なるにあり、體長一分三厘。

經過　同前。

(九) にれのひめこしんくひ　Scolytus frontalis Blandf.

被害植物　楡。

特徵　成蟲　黑色にして少しく光澤を帶ぶ、頭に點刻を密布す、黃色の短毛を裝ふ、翅鞘は前胸背よりも廣く、縱溝は餘り判然せず、間室は狹く小點刻列あり、第一、第三及び第五間室には二列の點刻列あり。

尙此種に係るものにして本邦に產するものは左の二種なり。

しらかばこしんくひ　Scolytus agnatus Blandf.「にれのこしんくひ」に酷似すれども、第二腹節は凹陷せず、翅鞘の末端は圓く、接合部に近く細かき鋸狀齒を有し、間室には不規則なる一列の點刻を有す、「しらかば」の枯木に寄生す、體長一分二厘―一分五厘。

さはしばこしんくひ　Scolytus claviger Blandf.「にれのおほこしんくひ」に酷似すれども、第二腹節の中央に當り雄にては後方に向へる稍々長き長形の隆起を備へ、雌にては同位置に小瘤を有することあり、體長一分乃至一分八厘、之は「さはしば」の樹皮下に寄生す。

（一〇）ひのきのこしんくひ　Phloeosinus rudis Blandf.

被害植物　ひのき。

特徵　成蟲　黑色、雄は翅鞘の第一及び第二間室部に五六個の強き刺狀突起を備へ、第二及び第四間室は平滑にして末端に近く一二個の突起あり、雌は第一及び第二間室に小瘤列を裝ふ、體長八厘。

經過　未だ分明ならざるも、母孔は單縱孔或は複縱孔をなせり、「ひのき」の樹皮下に寄生す。

（一一）**ひばのこしんくひ** Piloeosinus perlutus Chap.（第五十三圖版(5)）

被害植物　あすなろ(ひば)。

特徴　成蟲　體は黒色,少しく褐色を帶ぶ,翅鞘赤褐を呈し,間室には顆粒突起列を備へ,又黄色の小鱗毛を密布す,第二間室は少しく窪み,末端にて細狹となる,體長一分餘。

經過　母孔は單縱孔にして一端に交尾孔を有す,靱皮層よりも寧ろ形成層を侵害す。此屬に係るものにして本邦に産するものは左の一種なり。

ひばのこしんくひ Piloeosinus lewisi Chap.　翅鞘黒色,間室は同幅,不規則なる一列の小瘤起を具へ,灰色の鱗毛を生ず,體長六厘「ひば」・「ひのき」に寄生す。

（一二）**やちたもこしんくひ** Hylesinus costatus Blandf.（第五十二圖版(5)）

被害植物　やちたも。

特徴　成蟲　黒色若くは黒褐,頭の前方は平たくして點刻多し,中央に光澤ある縱隆あり,前胸は黒色,前方は少しく淡色,兩側は圓し,翅鞘の末端に黄色の鱗狀毛あり,縱溝列は深く第一第三,第五,第七及び第九間室は中央より廣幅となる,顆粒多し,體長一分二厘。

經過　母孔は長さ三分乃至八分ありて常に樹幹に横置せらる,普通形成層にあり,幼蟲孔は甚だ不正にして長さ一寸三分乃至三寸五分あり,年發生の回數は未だ判然せず。

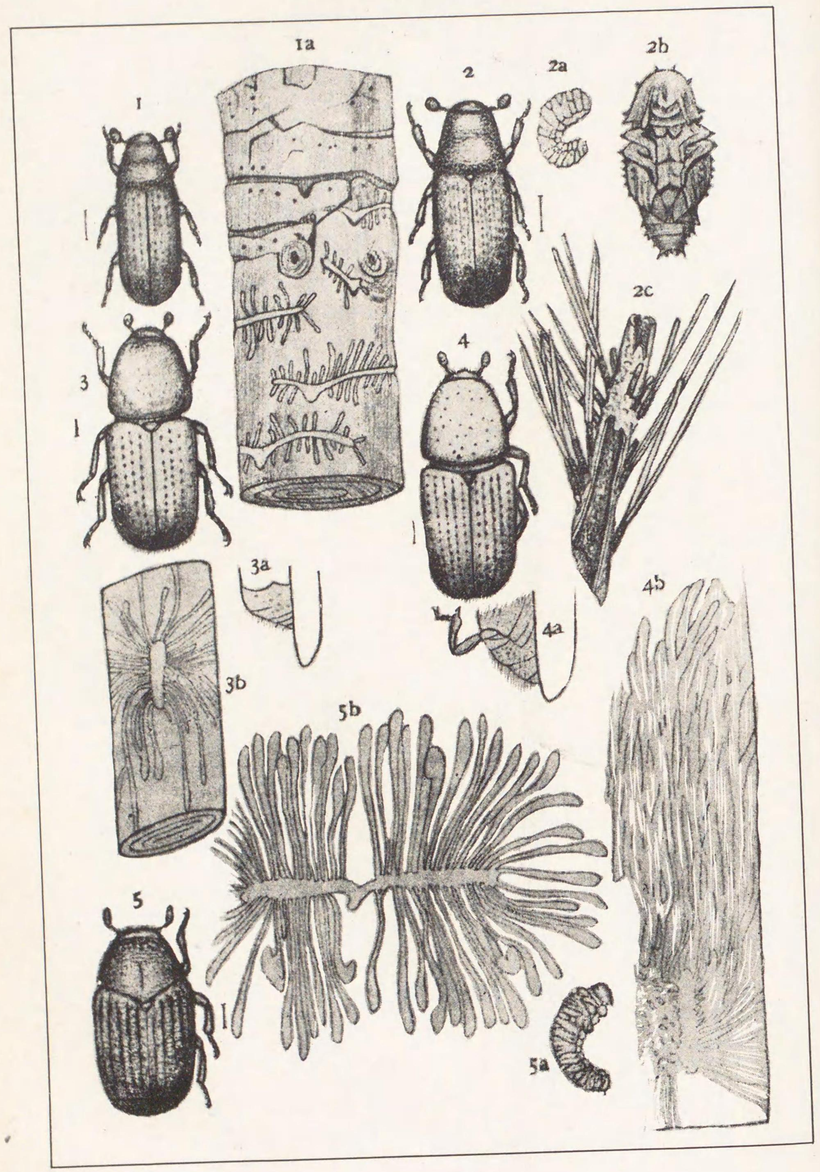
（一三）**おほやちたもこしんくひ** Hylesinus nobilis Blandf.

被害植物　やちたも。

第五拾貳圖

1. Myelophilus(Blastophagus)minor Hartig.　まつのひめこしんくひ…P.848
　a. 幼蟲
2. Myelophilus (Blastophagus) piniperda L.　まつのこしんくひ……P.849
　a. 幼蟲　b. 蛹　c. 成蟲
3. Scolytus japonicus Chap.　すぎまるこしんくひ……P.850
　a. 尾端　b. 成蟲
4. Scolytus aratus Blandf.　うめのこしんくひ……P.850
　a. 尾端　b. 成蟲
5. Hylesinus costatus Blandf.　やちたもこしんくひ……P.854
　a. 幼蟲　b. 成蟲

第五拾貳圖



第五拾貳圖

1. Myelophilus(Blastophagus)minor Hartig. まつのひめこしんくひ…P.848
   a. 穿孔
2. Myelophilus (Blastophagus) piniperda L. まつのこしんくひ……P.849
   a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 蝕痕
3. Scolytus japonicus Chap. すもものこしんくひ ……P.850
   a. 尾端 *b.* 蝕痕
4. Scolytus aratus Blandf. うめのこしんくひ ……P.850
   a. 尾端 *b.* 蝕痕
5. Hylesinus costatus Blandf. やちたもこしんくひ……P.854
   a. 幼蟲 *b.* 蝕痕

特徴　成蟲　體卵形に近く、黒色にして光澤を缺く、頭に小點刻を密布す、額は少しく突出し光澤あり、觸角は赤褐にして球桿は末端にて尖る、前胸は前方にて細まり、小點刻を密布し短毛を密生す、稜狀部の前方には一小凹陷あり、翅鞘の點刻列は大、間室には顆粒多し、體長二分。

經過　母孔は一分二三厘の圓孔にして普通皮にありて靱皮層を侵害せず、幼蟲孔は放線狀をなして不定の方向に走る、成蟲の出でたる孔は徑一分あり、經過不明。

左の三種は同じく「やちたも」を害す。

やちたもこしんくひ　Hylesinus laticollis Blandf.

被害植物　やちたも。

體長一分乃至一分三厘、卵形、黑色、光澤なし、翅鞘は腹面よりも隆起す。

やちたもくろこしんくひ　Hylesinus trisiis Blandf.

被害植物　やちたも。

體長九厘乃至一分三厘、前種に似たれども腹面は翅鞘よりも隆起せり。

しらおびこしんくひ　Hylesinus cingulatus Blandf.

被害植物　やちたも。

體長は八厘乃至一分一厘、觸角及び脚は赤褐、翅鞘に灰黃帶あり。

（一四）**とどまつこしんくひ**　Polygraphus proximus Blandf.（第五十三圖版(1)）

被害植物 椴。

特徴 成蟲 黑色若くは黑褐色にして灰色の鱗毛を裝ふ、頭は黑色、光澤ありて點刻多し、雌には前頭に二小突起あり、觸角は黃褐色にして前胸幅よりも長く、前方甚だしく細小す、灰色の鱗毛及び短毛多し、中央に判然せる縱條あり、翅鞘は黑色、末端は赤褐、點刻ある縱溝列を具へ、間室には粗大の點刻と灰色の鱗毛あり、體長八厘。

幼蟲 白色にして少しく黃色を帶び、頭は褐色なり。

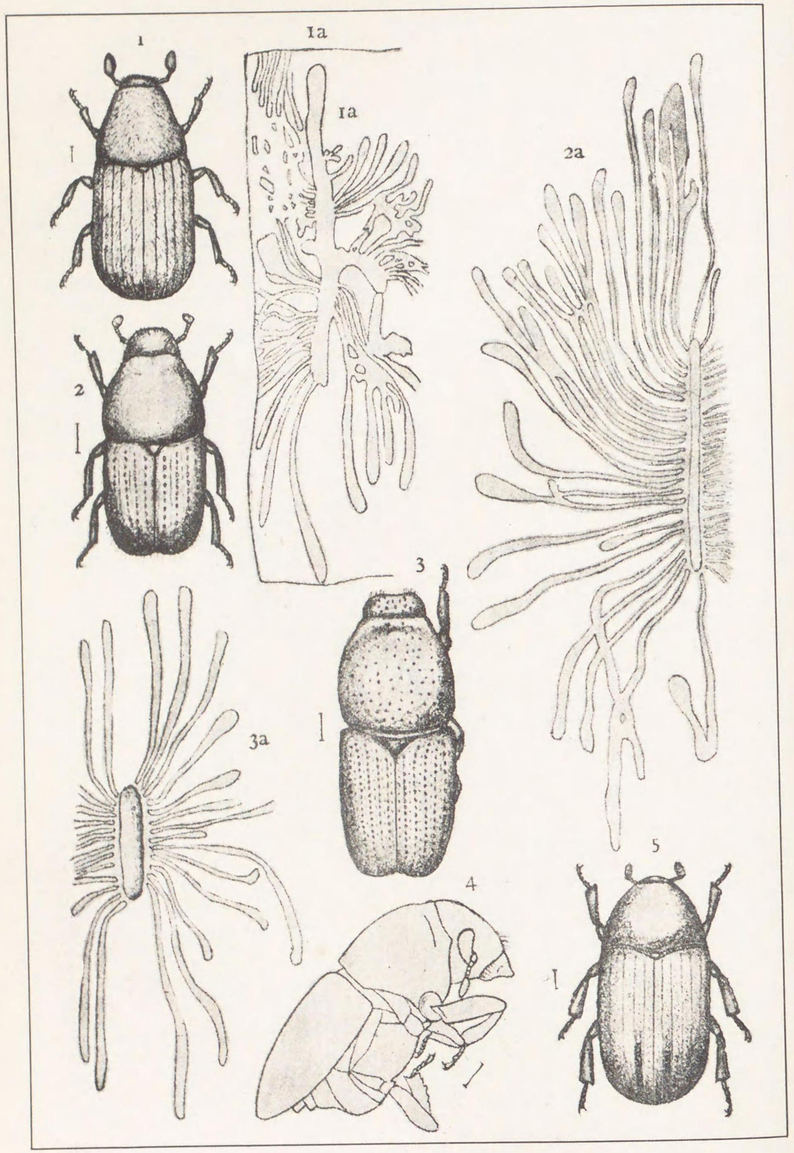
經過 年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、四五月頃より樹幹に蠹入し母孔を開きて產卵す、母孔には三個乃至四個の枝を具へたるものありて、靱皮層にあり、幼蟲孔は不正にして稍々羽狀をなす、强壯なる樹木を侵害せざるも老木若くは枯死せんとするものに蠹入して木材の腐朽を速かならしむ、九月下旬成蟲となる。

（一五）あかえぞこしんくひ Polygraphus jesoensis Niis.

被害植物 あかえぞ・えぞまつ。

特徴 成蟲 前種に酷似すれども少しく大なり、體は黑褐、前頭は圓く、額は光澤を缺き、點刻を裝ふ、前胸は長さよりも廣く、點刻を密布す、翅鞘の點刻列は判然し、間室にある點刻は小なり、腹面は突起し、短毛を密生す雄は尾端に長毛を生ず、體長八厘乃至一分。

經過 前種と同樣なるが如し、母孔は四分乃至一寸二分五厘、幼蟲孔は一定せずと雖も前種に酷似したる所あり、但し母孔の一端は前種の如く彎曲せず、前種よりも普通なる



第五拾參圖

1. Polygraphus proximus Blandf. とどまつこしんくひ ……P.855
a. 蝕痕
2. Scolytus esuriens Blandf. にれのおほこしんくひ ……P.851
a. 蝕痕
3. Scolytus chikisanii Niis. にれのこしんくひ ……P.852
a. 蝕痕
4. Scolytus curviventralis Niis. ゆみばらこしんくひ ……P.852
5. Phloeosinus perlatus Chap. ひばのこしんくひ ……P.854

種類にして隨つて其害も亦大なり。

（一六）ひめあかえぞこしんくひ Polygraphus gracilis Niis.

被害植物　あかえぞ・とどまつ。

特徴　成蟲　細長にして黒色、頭は光澤を帶び、雄の前頭には二個の小突起あり、觸角は黄色、球桿にして末端尖る、翅鞘は黒色、末端褐色、前胸よりも廣し、點刻ある縱溝列を具へ間室には灰色の鱗毛を裝ひ、顆粒突起なし、前種に似れども形細長にして小なるを以て容易に區別し得べし、體長七厘乃至八厘餘。

經過　「あかえぞこしんくひ」に酷似すれども幹よりも枝を害するもの、如し、多く形成層にありて靱皮層には稀なり。

此他此屬に係るものにして本邦に產するものは左の二種あり。

さくらのこしんくひ Polygraphus ssiori. Niis.　褐色にして光澤あり、翅鞘に鱗毛を缺き、間室には不規則に三列をなせる小點あり、體長一分「しうり」「さくら」の樹皮下に寄生す。

もみのこしんくひ Polygraphus oblongus Blandf.　は「とどまつこしんくひ」に酷似すれども、翅鞘は黑色にして前胸背の縱溝判明ならず全面に小點刻を密布す、體長八厘「もみ」の樹皮下に寄生す。

（一七）はんのこしんくひ Hylastes. alni Niis.（第五十四圖版(1)）

被害植物　赤楊。

特徵　成蟲　黒色、光澤なし、頭には粗大の點刻あり、觸角は赤褐、球桿は圓錐形をなす前胸は長さよりも廣く、前方にては粗大、中央にては微小の顆粒突起を具へ、又點刻及び短毛あり、翅鞘は前胸よりも廣く、縱溝の點刻は粗大、基部にては稍々微小、間室には顆粒と鱗毛あり、脚は黒色、跗節は赤褐、體長一分二厘。

經過　未だ判然せず、成蟲の有樣にて樹幹に越年し、成蟲は九月現はる、年一回の發生なるが如し。

此屬に係るものにて本邦に產するものは左の二種なり。

まつのねくひこしんくひ Hylastes interstitialis Chap.　體黒色にして長形、前胸背に大小二種の點刻を密布す、體長一分五厘「あかまつ」の切株に穿孔を造るものにして大害を加ふることなし。

まつのかばいろこしんくひ Hylastes glabratus Zett.　褐色にして形前種に似たれ共、前胸背にある點刻は一樣なり、其中央に滑なる縱線を有す、體長九厘內外、あかまつに寄生す。

(一八) とどちびこしんくひ Cryphalus piceae Ratz.

被害植物　とどまつ、えぞまつ、あかえぞ。

特徵　成蟲　黒褐、全面淡褐毛を生ず、觸角黃褐、前胸は球狀にして顆粒散在す、翅鞘は淡色、縱溝は判然せる點刻を具へ、間室には短き鱗毛ありて灰色の長毛は更に列をなして存す、脚は黃褐、體長六厘。

經過　成蟲の有樣にて越年す、翌春樹幹に母孔を造り產卵す、母孔は星形若くは枝狀にして之より不正形の幼蟲孔を出す、普通枝を侵害すれども幹にも亦少なからず。

(一九) からまつちびこしんくひ Cryphalus laricis Niis.（第五十四圖版(2)）

被害植物　落葉松。

特徵　成蟲　黒色、光澤なし、頭には點刻あり、灰色毛を帶ぶ、前頭には凹陷あり、前胸は長さより少しく廣く、剛毛を裝ひ、大小ある顆粒突起多し、翅鞘は黒褐、前胸よりも廣く、褐色の短き鱗毛あり、末端にある點刻ある縱溝は深くして判然す、間室に顆粒の一列を具へ、褐色の剛毛列を裝ふ、體長八厘。

經過　前種に酷似す、母孔は形成層にあり、幼蟲孔は皮下にあり。

(二〇) くはちびこしんくひ Cryphalus exiguus Blandf.

被害植物　桑。

特徵　成蟲　黒色、光澤を缺き灰色毛を裝ふ、頭の兩側に黒色を具へ、額の中央に橫隆起あり、(♂)觸角は黃色、球桿は褐色、前胸は幅よりも短く、前方細し、微毛を密生す、前方の中央に二顆粒を具へ、其後方には小顆粒あり、脚は黃褐、跗節は淡色、翅鞘は前胸と同幅、縱溝の點刻は小、間室に小點刻を具へ、灰色の鱗狀毛あり、體長四厘餘。

經過　年一回の發生をなすものゝ如し、母孔は星形若くは不正形にして幼蟲孔も亦一定せず、靱皮部を食害するが爲め樹を枯死せしむ、本邦恐るべき害蟲の一種にして、之に

罹りたる桑樹は年內に枯死するに至る、成蟲の有樣にて越年し、翌春樹幹に蠹入す、余は五月十日を以て之を捕獲せり、是れ越年したるものにして、大抵九月頃に現はるゝものは越年するものゝ如し。

(二二) りんごちびこしんくひ Cryphalus malus Niis. (第五十四圖版(3))

被害植物 苹樹櫻。

特徵 成蟲 黑色、光澤なし、頭は兩側に點刻を密布し、前頭の中央に一縱隆あり、前胸背は黑色、點刻を密布し、褐色毛を裝ふ、前緣に近く中央に六個の小突起ありて中央にあるもの最も大なり、尙顆粒突起多く後緣に近きものは稍々列をなす、翅鞘は前胸よりも廣く點刻ある縱溝を具へ、間室には褐色の鱗狀毛を裝ひ、末端に褐毛あり、體長五厘乃至七厘。

經過 年一回の發生をなす、成蟲の有樣にて樹幹內に越年す、北海道にありては四五月頃より現はれ產卵す、母孔は不正形にして一定せず、集合して產卵す、幼蟲孔も亦一定せず、北海道にありては恐るべき害蟲にして、樹は之が爲めに枯死す。

(二三) すぎちびこしんくひ Cryphalus cryptomeriae Niis.

被害植物 杉。

特徵 成蟲 黑色、光澤あり、前頭の中央に一個の凹縱條ありて其兩側に點刻を密布す、褐毛を裝ふ、觸角は黃褐、前胸背の前緣に四個の小突起を具へ、中央には稍々三角形に排

列せる顆粒あり、後方には點刻を裝ひ、灰色毛あり、翅鞘は前胸背よりも約二倍長く、縱溝にある點刻は圓形にして深し、間室に微小の點刻を具へ灰色の鱗毛あり、體長六厘乃至七厘。

經過 未だ判然せざるも若き杉樹を害するものにして、森林大害蟲の一なるべし、熊本地方に產す。

(二三) きいろちびこしんくひ Cryphalus fulvus Niis.

被害植物 松。

特徵 成蟲 暗黃色、灰色毛を裝ふ、雄にては前頭に一橫隆あり、眼は黑色、前胸は長さよりも廣く、點刻多く黃毛を裝ひ鱗狀毛あり、前緣より中央に至るまでに小顆粒あり、縱溝に點刻を具へ、間室は狹く鱗毛及び細毛あり。

經過 松の害蟲なれども其經過は未だ判然せず、成蟲は八月中旬現はる、中國及び四國地方に稀ならず。

(二四) ひのきちびこしんくひ Cryphalus chamaecypariae Niis.

被害植物 ひのき。

特徵 成蟲 黑色、光澤を帶ぶ、前頭に橫溝あり、頭頂は隆起す、前胸背には顆粒突起多く、粗大の點刻あり、翅鞘は前胸の約二倍ありて縱溝に粗大の點刻あり、間室には顆粒を裝ふ、後方に白色鱗狀毛を裝ふ、脚は黃褐、體長四厘弱。

經過　未だ判然せざれども「ひのき」の樹幹に蠹入して大害を加ふ、成蟲は八月中旬現はる。

(二五) やつばこしんくひ　Ips japonicus Niis. 第五十四圖版(4)

被害植物　えぞまつ・あかえぞ・とどまつ。

特徴　成蟲　黑色、光澤を有し、頭及び前胸の前方に黃褐の長毛を密生す、前頭に一突起あり、前胸には點刻多く、明に幅よりも長し、後方には毛を帶びず、翅鞘は前胸よりも少しく長く稍々褐色を帶ぶ、後端は深く卵形に刳られ、其兩側に四個の齒狀突起を具へ黃褐毛を裝ふ、縱溝には判然せる點刻を具へ、間室は少しく隆起し、微小の點刻あれども判然せず、脚黃褐、脛節黑褐、體長一分五厘。

經過　年一回の發生、成蟲の有樣にて越年す、四五月頃現はれ樹幹に産卵す、母孔は八分乃至四寸、幅六厘乃至八厘あり、幼蟲孔は長くも二寸內外にして母孔に直角をなして出づ、普通形成層にあり、九月頃に至りて蛹化す、成蟲は九十月現はれ、其儘樹幹に蠹入して越年す。

(二六) まつかはこしんくひ　Ips proximus Eichh.

被害植物　松・えぞまつ。

特徴　成蟲　光澤ある黑褐若くは黑色、前頭緣に橙黃色の短毛あり、頭には點刻粗布す、觸角の球桿は黃褐、前胸は幅よりも長く、前方には粗大、後方には微細の點刻あり、兩側に黃褐の長毛を裝ふ、翅鞘は前胸よりも遙かに長く、縱溝に點刻を具へ、間室は隆起し、之

に微小の點刻を粗布す、翅鞘は卵形に刳られ、其緣に三四個の齒狀突起あり、脚は黑褐、跗節は黃褐なり、體長一分內外。

經過　未だ判然せざるも、年二回の發生をなすもの、如し、成蟲の有樣にて越年す、翌春四五月より現はれ樹幹に蠹入して産卵す、第二回の成蟲は八月現はる、伊豫地方にありて松を害すること大なりと云ふ。

(二七) からまつこしんくひ　Ips laricis F.

被害植物　落葉松・えぞまつ・松。

特徴　成蟲　前種に酷似すれども翅鞘末端の第二及び第三齒間は前種のそれよりも廣く、脚は黃褐なり、體長一分乃至一分三厘。

經過　成蟲の有樣にて越年し、翌春四五月頃現はれ樹幹に蠹入して産卵す、母孔は星形枝狀若くは多枝形にして一定せず、卵子は集合して産下せらる、幼蟲孔は一定せず、年二回の發生をなす。

尙此屬に係るものにして本邦に産するもの左の三種あり。

まつのおほしんくひ　Ips cembrae Heer.　黑色にして翅鞘の間室には上面に於て一列の小點刻を存し、斜面部には四個の齒狀突起あり、此蟲は「あかまつ」に寄生す、體長一分七厘。

まつのむつばこしんくひ　Ips acuminatus Gyll.　赤褐色にして翅鞘の間室に縱列せる點刻を有す、斜面部には各三個の齒狀突起あり、其內最下にあるもの最大なり、體長一分餘、「あかま

つ」に寄生す。

まかりばこしんくひ Ips curvidens Germ. 赤褐色にして翅鞘の斜面部は黄色を呈し光澤あり、其兩側に各三齒を備へ、上部にあるものは最小にして上方に向ひ、中央にあるものは下方に屈曲し最大なり。體長九厘「とどまつ」に寄生す。

（二八）くすまるこしんくひ Xyleborus mutilatus Blandf. （第五十四圖版(5)）

被害植物 樟。

特徴 成蟲 黒色、觸角及び脚は黄褐、褐毛を裝ふ、頭には淺き點刻あり、前胸は翅鞘よりも長大にして前緣に顆粒多く、後方には點刻あり、翅鞘には縱溝ありて其間室廣く數多の點刻列あり、後方は斜に切斷せられたる觀を呈し、褐毛多し、體長一分二厘。

經過 未だ判然せず、九州及び沖繩地方にありては樟の樹幹に蠹入して大害を加ふ。

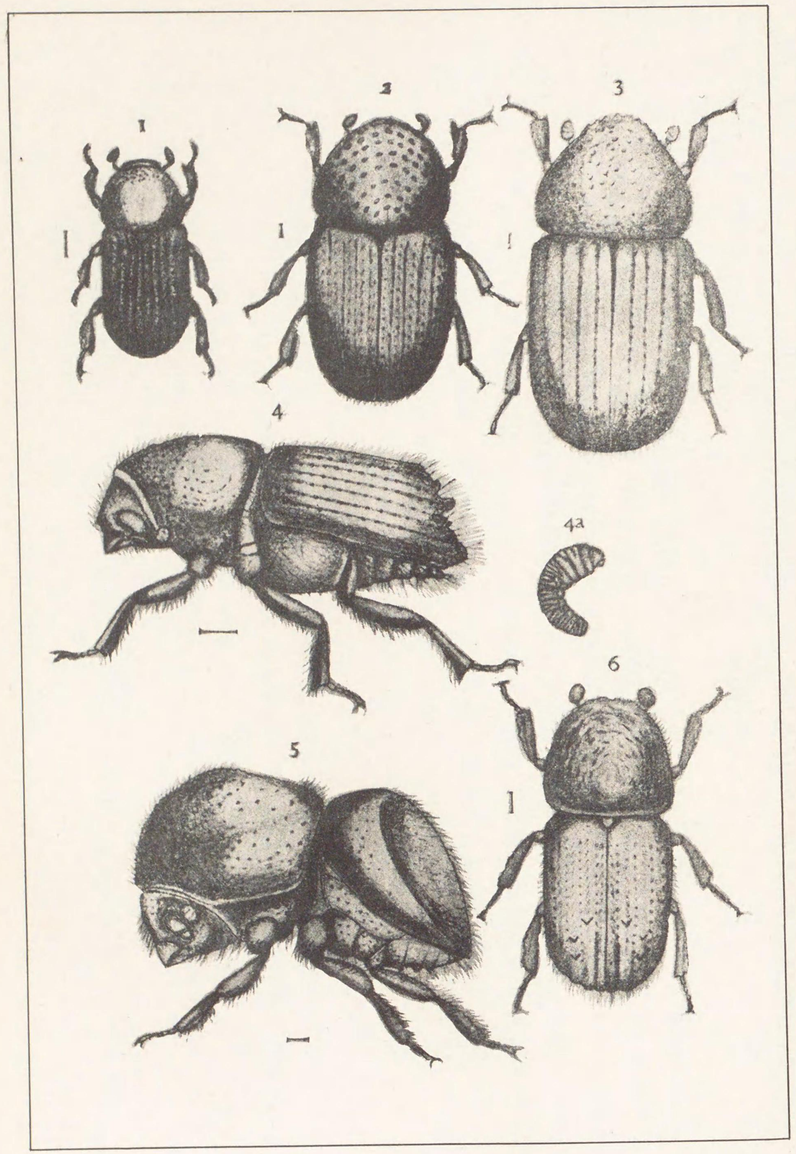
（二九）りんごまるこしんくひ Xyleborus apicalis Blandf. （第五十四圖版(6)）

被害植物 苹樹、葡萄、赤楊、楡。

特徴 成蟲 光澤ある黒色、頭の中央に一縱隆起あり、其兩側に點刻を粗布す、前胸背の前方には顆粒突起多く、後方には微小の點刻あれども判然せず、翅鞘には明瞭なる點刻列ある縱溝を備へ間室に小點刻あり、末端は斜に截斷狀に終り第二間室の終る處に各一突起あり體長八厘乃至一分。

經過 年一回發生す、成蟲は五月下旬より七月に亘りて現はれ樹枝及び樹幹に蠹入し八

第五拾四圖



第五拾四圖

1. Hylastes alni Niis. はんのこしんくひ……P.857
2. Cryphalus laricis Niis. からまつちびこしんくひ……P.859
3. Cryphalus malus Niis. りんごちびこしんくひ……P.860
4. Ips japonicus Niis. やつばこしんくひ……P.862
5. Xyleborus mutilatus Blandf.. くすまるこしんくひ……P.864
6. Xyleborus apicalis Blandf. りんごまるこしんくひ……P.864

月下旬に至りて産卵す、之より孵化する幼蟲は九十月に至りて殆んど老熟し其儘越年するものと、又既に蛹化して越年するものとあり、卵子は白色半透明にして、楕圓形をなし、普通四五個相集合せり、母孔は星形若くは不正形なり、幼蟲孔も亦一定せず、成蟲の蠢入する場所は普通樹枝にして皮下養分の上昇する部分を輪食し、又髓部に入りて上下に横行するを以て爲めに其局部は枯死す、枯木若くは衰弱せる樹に多しと雖も亦旺盛なる樹を食害することあり、本邦に於ける恐るべき害蟲の一なり。

［附言］拙著害蟲編に X. defensus Blandf. となせるは誤なり。

(三〇) くはまるこしんくひ　Xyleborus atratus Eichh. (第五十五圖版(1))

被害植物　桑、楡、赤楊。

特徴　成蟲　黒褐、頭は黒色、灰色毛あり、前胸背の前方は少しく淡色、小顆粒を散在す、後方には點刻を具へ、中央には判然せざる一縦滑線あり、翅鞘は判然たる點刻ある縦溝を装ひ、第一溝の點刻は第二の其れよりは小なり、間室は廣く小點刻を具へ灰色毛あり、前種に酷似すれども翅鞘末端に突起なく、色は少しく褐色を帯び、前胸背にある顆粒は小なり體長八厘乃至一分。

經過　前種に酷似す、廣く本邦に播布する種類にして桑樹を枯死せしむること少なからず。

(三一) はんのまるこしんくひ　Xyleborus germanus Blandf.

被害植物　桑赤楊。

特徴　成蟲　體は黒色、翅鞘は赤褐光澤あり、前胸背の前半には顆粒多し、後半は滑澤にして後緣に少しく點刻あり、翅鞘は前胸と同幅なれども少しく長し、點刻ある縱溝を具へ、間室は廣く小點刻あり、尾端は次第に傾斜し、其傾斜面にある點刻は大なり、脚は黄褐、體長六七厘。

經過　未だ判然せざるも穿孔は材部に造られ、少しく厚き共同孔をなす、同處に二個或は三個が細孔によりて連續せられて存することあり、丹波地方に於て桑樹の幹枝に蟲入して大害を加ふ、本邦普通の害蟲なり。

（三二）まつまるこしんくひ　Xyleborus validus Eichh.

被害植物　松檜。

特徴　成蟲　體は黒色光澤を帶び黄毛を裝ふ、頭は點刻を密布し、前頭に短き一縱隆あり、前胸背の前方に顆粒突起多し後半は滑澤、翅鞘の縱溝は淺き點刻を裝ひ間室には顆粒あり、傾斜面にある縱溝は深く間室の顆粒は大なり、翅鞘に黄色の長毛を裝ふを以て他と容易に區別することを得べし、脚及び觸角は黄色、體長一分三厘。

經過　年一回の發生をなし成蟲の有樣にて越年す、四五月頃より現はれ樹幹に蟲入す、其蝕道は徑約六厘ありて初めは樹幹に直角に蟲入し、三四の枝道を造りて食害す、九月頃出づるものは樹幹に入りて越年す、廣く本邦に播布する種類にして沖繩地方にも

産す。

此他尚此科に屬する害蟲の種類を擧ぐれば左の如し

ほしがたこしんくひ　Pityogenus chalcographus L.　黒褐色にして光澤あり、雄は頭の前緣に瘤狀の一小隆起を備へ、雌にありては圓き凹陷を存す、翅鞘の斜面部の兩側に各三個の小隆起を有すれども雌にありては著しく小なり、體長六七厘、「えぞまつ」、「はいまつ」、「たうひ」、「もみ」、「からまつ」等に寄生す。

たうひねこしんくひ　Dryocoetes autographus Ratz.　暗褐色にして前胸背は前後狹く、全面に鱗狀の隆起あり、翅鞘に粗大の點刻を有す、體一分乃至一分五厘、「たうひ」、「えぞまつ」の根株に寄生す。

れゐすまるこしんくひ　Xyleborus lewisi Blandf.　雌雄大に其形狀を異にし、黒色にして長毛多し、前胸背に鱗狀の小突起を密布す、雌は體長一分五厘、雄は楕圓形にして體長六厘、「さくら」の樹幹に穿孔して之を枯死せしむ。

かつらまるこしんくひ　Xyleborus saxeseni Ratz.　黒色にして細長く七厘ばかりあり、「かつら」、「かし」、「ぶな」、「かば」、「いたや」、「しな」、「やまならし」等の諸木に寄生す。

はんのおほまるこしんくひ　Xyleborus alni Niis.　前種に似たれども形少しく大にして（八厘）赤楊を害す。

さいほくまるこしんくひ　Xyleborus septentrionalis Niis.　黒褐の種類にして體長一分あり、「あ

かえで」松等を害す。

かしはこしんくひ *Xyloterus quercus* Eichh. var. *nipponicus* Blandf. 黃褐にして黑縱條あり、體長一分乃至一分三厘、櫟楢を害す。

いたやこしんくひ *Xyloterus aceris* Niis. 黑色にして光澤あり、翅鞘眞黑にして末端に近く黃褐色の細毛を生ず、間室にある點刻と點刻線にある點刻と同大なれども前者は淺し、體長一分「いたや」の材部に穿孔す。

みかどこしんくひ *Scolytoplatypus mikado* Blandf. 黑褐にして翅鞘に深き縱隆を有す、脚黃色、體長一分二厘乃至一分六厘、槭、黃蘗、楡等を害す。

だいめうこしんくひ *Scolytoplatypus daimio* Blandf. 前種よりも少しく小にして黑色なり、櫛「みづき」等を害す。

しようぐんこしんくひ *Scolytoplatypus shogun* Blandf. 暗褐なる種類にして體長一分二厘あり「いたや」「こぶし」「しでこぶし」等を害す。

やちたもながこしんくひ *Crossotarsus niponicus* Blandf. 赤褐にして二分內外「やちたも」を害す。

しなのながこしんくひ *Platypus severini* Blandf. 前種よりも少しく小なり、赤褐黃毛あり「しな」楡、赤楊等を食害す。

長蠹蟲科 Bostrychidae. （五節亞目に編入せらるべきも）（のなるも便宜上此處に入る）

（一）**つがながしんくひ** *Dinoderus tsugae* Mats. （第五十五圖版(2)）

被害植物 つがもみひのきすぎ。

特徵 成蟲 黑褐乃至黑色、觸角は黃褐、末端の三節は甚だしく膨大す、上唇は黃褐にして其の中央は凹陷す、前胸背の前方には粗大の顆粒多く、後半には小顆粒を密布し、兩側には點刻あり、翅鞘は赤褐、粗大の點刻を密布し、縱溝を有せず、尾端は圓く、基部は明に後方よりも狹し、黃褐の短毛を裝ふ、脚は黑褐、脛節及び跗節は赤褐、體長一分二厘。

經過 未だ判然せざれども「つが」の材料に蠹入して大害を加ふと云ふ、成蟲は六月上旬現はる、和歌山地方に多し、小蠹蟲科の昆蟲に酷似すれども觸角の末端三節は棍棒狀を呈し、翅鞘は縱溝を缺けるを以て容易に之を區別することを得べし。

（二）**たけのながしんくひ** *Dinoderus japonicus* Lesne. （第六十二圖版(12)）

被害植物 竹。

特徵 成蟲 前種に酷似すれども其重要なる差異は左の如し。

一、形短く、翅鞘の前半は後半より狹細ならず。

二、觸角及び上唇は暗褐、但し前者は其基部に於て少しく黃褐を帶ぶ。

三、翅鞘は黑褐、點刻は遙に大にして深し、末端に裝へる粗毛は少しく短く、稍々淡色な

り、翅鞘明に短し、體長一分一厘。

經過 未だ判然せざれども、竹稈の內部に孔を穿ちて大害を加ふることあり、前種に酷似せるを以て兩者を混ずるの記事多く、未だ共に加害の狀判然せず、「もみ」・「すぎ」・「ひのき」をも害するものとせらるれども甚だ疑はし、又鉛管をも穿つといふ。

(三) ふたつのながしんくひ *Sinoxylon japonicum Lesne.* (第六十二圖版(11))

被害植物 柿樫。

特徵 成蟲 體は黑褐にして翅鞘は赤褐、觸角は黃褐を呈す、前胸背の前半には後方に向へる齒狀突起を散在し、其內前線にある二三は鉤狀に曲り、後半は小顆粒多く、兩側に灰白の軟毛を裝ふ、翅鞘には顆粒及び粗大の點刻多く、或ものは相癒合す、斜面部に各一個の栓狀突起あり、全面に黃白の軟毛多し、脚は栗色、爪は黃褐、體長一分七厘內外。

經過 不明、四國九州に普通なる種類にして常綠かし幷に柿の材部に穿入して大害を加ふることあり。

(四) こながしんくひ *Rhyzopertha dominica F.* (第六十二圖版(13))

被害物 麥粉、洋菓子。

特徵 成蟲 體の上面は暗褐、下面は赤褐、觸角は黃褐、基部の二節は暗褐、後頭は頗る光澤を帶び、滑澤なり、前胸背渦狀をなして顆粒突起列を備へ、後方には小顆粒を散在す、翅鞘は粗大の點刻ある縱溝を備へ、間室は平滑、縱に稍々隆起せる部分あり、後方には灰

黃色の短毛を粗生し、斜面部に異狀なし、脚は暗褐、跗節は黃褐なり、體長一分內外。

經過 未だ判然せざれども、臺灣には普通なる害蟲にして、大小麥粉其他ビスケット等を食し、殊に後者の如きは小孔を穿たれ大害を被ること少なからず、世界共有の害蟲にて、特に印度支那地方に最も多く、米國にも少なからず。

小蠹蟲科及び長蠹蟲科一般の驅除法

一、成蟲の發生期を見計ひ、樹幹に石油乳劑の十倍液を灌注すべし、死せざるも他に飛び去るべし。

二、一度內部に蠹入せば驅除の道なし、然れども小孔を穿てるを以て其孔より灌注器を以て石油酢の如きものを注入すべし。

三、此害蟲は水氣を忌むものなれば、可成樹木の成長を旺盛ならしむべし、瘠地に生ずるもの若くは老木は被害の虞あるを以て注意すべし、雌蟲の樹幹に蠹入するに當り汁液を多量に滲出するときは其木を去て他に行くもの〻如し、故に小刀を以て樹皮を掻くときは大に液汁の滲出を促し其蠹入を防ぐのみならず、既に內部に入れるものも之が爲めに死すべし、要するに肥料を施し、樹木の成長を盛ならしむるは最も有效なる豫防法なり。

四、被害木は切りて燒棄すべく、若くは成蟲の出でざる前燃料に供すべし。

五、伐木地に集來するの性あるを以て注意して捕ふべし、伐採後株木を掘り取ること

は必要なれども甚だ困難なり、故に少なくも皮を剝ぐべし、火災を受けたる場合は可成早く伐採すべし。

六、果樹其他材木の何れを問はず、枯枝を生ずるときは伐りて燒棄すべし。

七郭公蟲は小蠹蟲を食するものなれば頗る有益なり（第五十五圖版(3)）は郭公蟲科に屬する「ありもどきかつかう」 Clerus formicarius L. と稱するものにして、體は赤色、頭觸角前胸の前緣翅鞘及び脚は黑色、翅鞘の翅底は赤色、其後方に波狀をなせる白毛塊の橫紋あり、體長二分五厘乃至三分、幼蟲は白色、頭及び第一節は淡褐、第二及び第三節には各二個の淡褐紋あり、蛹は白色、樹皮下若くは樹幹の空隙にあり、尙此他小蠹蟲科の昆蟲を食するものには「おほこくぬすと」ありて其形大なれば其之を食ふも亦大なり、此の學名を Temnochila japonica Reitt. と稱し黑色にして光澤を帶び、頭長く、前方に一個の縱溝あり、翅鞘に九條の判然せる點刻列ありて、其間室に小刻の一列あり、跗節は褐色、爪は赤褐體長四分五厘乃至五分、「べにひらたむし」 Cucjes coccinatus Lew. も亦樹皮下にありて小蠹蟲其他小蟲の幼蟲を食す、體は黑色扁平、翅鞘は朱色、體長三分五厘乃至四分五厘、幼蟲は黃色にして頭及び第一節は淡褐を帶び體は頗る扁平なり。

豆象科 Mylabridae (Bruchidae)

（1）まめざう Mylabris (Bruchus) chinensis L. （第五十五圖版(4)）

被害植物 大小豆、豌豆、貯藏品。

特徵 成蟲 體は赤褐、灰色の短毛多し、頭は小にして常に下方に向ひ、大なる複眼を有す、觸角は長くして櫛齒狀、口吻は突出するも象鼻蟲の如く甚だしからず、前胸は前方狹まりて下向し、後方は廣くして其中央隆起す、稜狀部の直上に灰色の二毛塊あり、翅鞘は稍々四角形にして赤褐の縱條を裝ふ、跗節は一見四節なれども其實五節なり、體長約七厘。

幼蟲 全體乳白にして肥大し橫皺多く無脚なり、頭は小、黃色にして鱗片の如き銳利の大腮を具へ、體の兩側に判然せる九双の氣門を有す、體長一分二三厘。

經過 年一回の發生をなす、處により幼蟲の有樣にて豆の中に越年し、翌春蛹化し次で羽化すれども、或は成蟲或は蛹にて越年することもありて一定せず、甲蟲は野外に出で豆圃に至りて玆に交尾し、夜間若くは晝天に產卵す、產卵の場所は莢の膨大したる部即ち豆粒の上に當る所にして一粒宛に過ぎず、豆の收穫後は倉庫內にありて食害す。

驅除豫防法 二硫化炭素を小皿に盛り室を密閉して其儘數時間放置すべし、豆中の害蟲を殺滅するの効あり、夏日晝天の時豆圃に產卵せんとする成蟲を捕殺すべし、倉庫內を搜索して成蟲及び幼蟲を殺すべし、又倉庫の窓には金網を張りて害蟲の飛去を防

ぐべく、其根本的の驅除を計るには青酸加里の瓦斯を燻蒸するにあり。

(二) おほまめざう Mylabris dorsilis. F. (第五十五圖版(5))

被害植物 同前。

特徴 成蟲 體は黒色にして灰色の短毛を密生す、前種に似たれども遙かに大なり、觸角は黒色、基部の四節は赤褐色、前胸背後緣の中央及び稜狀部には灰色の旋毛を裝ふ、翅鞘に暗色を帶びたるものと灰褐色を帶びたるものとの二種あり、何れも縱溝を有し其間室に細毛を裝ふ、細毛は點々白毛を混ずるを以て恰も白斑を散在するの觀あり、殊に褐色なるものに於て然りとす、尾節には灰藍色の毛塊を有するを以て恰も斑紋の如くに見ゆ、體長一分二厘。

幼蟲 略前種に似たり。

經過 同前。

驅除法 同前。

長角象鼻蟲科 Anthribidae

(一) ひめひげながざうむし Tropideres nodulosus Sharp. (第五十五圖版(6))

被害植物 桑・苹樹・楡・老木)。

特徴 成蟲 體は黒色にして灰白毛を裝ふ、頭は小、複眼は黒色にして大なり、口吻は扁大にして頭に直角をなして下向し、顏は白色、前胸の前方は細まり、灰白の斑紋を裝ふ、翅鞘に黒色の點刻縱列を具へ、工字形の灰白斑紋を裝ふ、其上方の一橫線は太く之れに二個の黒點あり、體長一分七厘。

經過 未だ判然せざるも、札幌地方にありては最も普通なり、但し老木にあるを以て其害大ならず、成蟲は材質部に蠹入して産卵するものゝ如し。

驅除法 時々巡視して成蟲を捕殺すべし、外物に驚く時は脚を縮小して落下するが故に樹下に蓆若くは白布を敷き其上に落すをよしとす。

(二) こひーひげながざうむし Araecerus fasciculatus Deg.

被害物 珈琲(豆)糀。

特徴 成蟲 體は黄褐にして灰色の短毛を密生す、微小の點刻を密布すれども判明ならず、翅鞘には黒褐紋を散在し、點刻ある縱溝を有すれども判然せず、尾節露出し、體下は暗褐、脚及び尾端は黄褐にして腿節の中央は少しく暗色を帶ぶ、體長一分乃至一分五厘。

幼蟲 黄白色にして頭は少しく濃色、大腮は暗褐、體側には瘤狀の突起及び橫皺多し、完熟すれば一分七厘餘に達す。

經過 未だ判然せざれども成蟲・幼蟲共に珈琲豆に蕃殖して大害を加ふ、又糀を食害することあり、珈琲豆を害する場合には恰も豆象と同樣なる狀態を呈す、支那にありては

最も普通なる害蟲なれども、目下本邦にも少なからず。

驅除法 被害物を堅牢なる箱に入れ(箱の大さにより分量は異なれども)箱の大さ若し三尺四方内外なるときは青酸加里の數片(大片)を綿に包みて其中に入れて一晝夜間放置すべし但し青酸加里は種子の抵抗力を失ふものなれば種子用に供する場合は二硫化炭素を用ふべし。

象鼻蟲科 Curculionidae

(一) こくぞう Calandra oryzae L. (第五十五圖版(7))

被害物 穀類(貯藏品)。

特徴 成蟲 若きものは赤褐、老いたるものは黑褐、頭は小、口吻は細長、前胸背には顆粒多し、翅鞘は前胸と同幅、點刻の縱溝列を具へ、脚は短大、細毛を有す、腿節は太し、體長一分一厘乃至一分四厘。

幼蟲 體は灰白、頭は黃褐、圓柱形にして常に弓狀に彎曲し、横皺多し、觸角短、單眼及び脚を缺如す、體長一分五厘。

經過 年二回發生し、成蟲の儘越年す、翌春穀粒の發芽點に白色の卵子を一個宛産下す、卵は十日乃至十二日にて孵化し、内部に蠹入して食害す、穀蛾の幼蟲の如く粒より粒に移轉することなく、大概は一粒にて成長し終り其内に蛹化す、蛹は裸蛹にして脚、口吻

及び翅鞘判然せり。

驅除豫防法 穀物を貯藏する前にはなるべく乾燥し、少量の胡椒を混じ置くべし、又食鹽を混ずるも可なれども後者は水分を呼ぶを以て劣れり、尚葎草及び胡桃の葉を入れ置くも有効なり、倉庫の中央に二三斗の穀物を圓錐形に積み、其周圍のものを掻き擴げ置くときは、害蟲は其中央にのみ集まるを以て、之に熱湯若くは二硫化炭素を注ぎ殺すべし、倉庫は可成寒冷に保ち置くべし、華氏の四十五六度位の溫度にありては食害することなし、此目的を以て歐米にては種々の通風器を製造し堆積せる穀物中に冷氣を通ずることあり、硫黃を燻蒸するも効あり。

(二) ひめざうむし Baris deplanata Roel. (第五十五圖版(8))

被害植物 桑。

特徴 成蟲 長楕圓形にして色黑く、少しく光澤を帶び觸角膝節並に跗節は赤褐なり、觸角は口吻の中央より少しく前方に位し、刺毛と黃色の微毛とあり、口吻は弓狀に彎曲す、翅鞘には縱溝列ありて其内に更に點刻を具へ列間には大なる點刻列あり、腿節には凹陷せる部分ありて、脛節端には一爪を裝ひ、體下には點刻を密布す、體長一分三厘。

幼蟲 黃白色にして淡褐の頭部を有し、硬皮板は黃色、體は圓錐形にして少しく弓狀に曲り、横皺多く黃色の光澤ある短毛を粗生す、體長一分五六厘。

經過 年一回の發生をなし、成蟲若くは蛹の有様にて樹枝内に越年す、翌春圓形の孔を穿

ちて外部に出で、桑の新芽を食し、又其內に蠶入して大害を加ふ、交尾後口吻を以て樹枝に孔を穿ち、其內に長楕圓形の白色卵子を產下す、幼蟲孵化すれば材質部に入りて食害す、晩夏に至り蛹化し其儘越年するものと、羽化して後越年するものとあるは前述の如し。

驅除法 新芽に集まりて蠶入せんとするものを受網に打ち落し殺すべし、成蟲の蠶入する前に砒石劑を灌注すべし、石油乳劑も亦効あり、象鼻蟲を殺し得さるも其臭氣の爲めに之を驅除し得べし。

（三）**だいこんざうむし** Rhinoncus bruchoides Herbst.

被害植物 蘿蔔蕪菁。

特徵 成蟲 光澤ある黑色なれども、全體灰白の鱗毛にて被はるゝを以て一見暗灰色を呈す、口吻、前胸背の中央及び翅鞘の基部に之を缺く、前胸背の中央には顆粒狀の點刻多く、其兩側には黃色鱗を密布す、翅鞘は長楕圓形にして細き縱溝を有し、中央にある鱗毛は判明にして八字形を呈す、翅端は截斷狀に終り、腹端を露出す、體長二分、臺灣にては甘藷の根を食害す。

經過 不明なれども、五月上旬より田圃に現はれ、殆んど何れの植物をも食害するものゝ如し。

驅除法 打落法によりて殺すべし、又掬網を以て捕殺し得べし。

（四）**あさのざうむし** Rhinoncus pericarpius L. （第五十五圖版(9)）

被害植物 大麻。

特徵 成蟲 體は卵形にして肥大し、地色は黑色、體下部は白色の鱗毛を密布す、口吻は割合に長く、彎曲して殆んど胸片に接す、頭は小、前胸には點刻多く、前方に橫溝、兩側に棘狀突起を有す、翅鞘は粗糙にして前胸より廣く、點刻を有する縱溝を連ぬ、稜狀部は凹陷し、其下方に一白紋あり脚及び觸角は赤褐、灰白の短毛を密生す、體長一分餘。

經過 未だ判然せず、早春より大麻及び甘菜の葉を食害す、其害甚だ大ならず。

（五）**さるざうむし** Ceutorhynchus asper Roel. （第五十五圖版10））

被害植物 藍。

特徵 成蟲 體は黑色、口吻は長く、中央に黑褐の觸角ありて基節端に刺あり、前胸背に粗糙の點刻多く、兩端に各一個の突起あり、翅鞘は前胸より遙かに廣く、翅端に至り細小す、鞘上には澤き縱溝を幷列し、更に其內に點刻を列す、稜狀部は甚だしく凹陷し、其胸部に白鱗多し、體下に黃白の鱗毛多く、脚に白色の短毛あり、體長一分五厘。

色の鱗毛列あり、稜狀部は凹陷す、體長七厘內外。

經過　移植後藍畑に集まり二十乃至三十顆の白色卵子を藍莖に藏す、幼蟲は黃色にして藍莖の一節に二三頭乃至五六頭あり、二週間內外にて老熟し、次で褐色なる繭樣の被內に蛹化す、成蟲は甚だ活潑にして藍葉に無數の小孔を穿ち網狀脈を殘留す、其害の猖獗なるときは一兩日にして藍畑の全面を枯死せしむることあり。

「附言」拙著日本害蟲編に學名を coelosternus sulcatostriatus Roel. とせるは誤なり、茲に訂正す。

（六）まだらあしざうむし　Ectatorrhinus adamsi Roel.（第五十五圖版(11)）

被害植物　漆樹。

特徵　成蟲　體は暗褐、頭は灰黃褐複眼は黑色、口吻は基部を除き光澤ある黑色、觸角の第二節以下は灰色、前胸背に陷刻多く、中央に漆黑の一隆條を縱走す、翅鞘は頗る粗糙にして凹凸に富み、數個の棘狀突起を具ふ、其中肩部のものは最も大にして灰黃褐なり、各腿節の末端は膨大し、白輪を具へ、跗節に灰黃毛を裝ふ　體長三分五厘乃至五分五厘（口吻を除く）。

經過　未だ判然せざるも、早春漆樹に集まりて新芽を食ひ、大害を加ふることあり、幼蟲は材質部を食するものならん。

（七）いちござうむし　Minyrus japonicus Roel.（第五十五圖版(12)）

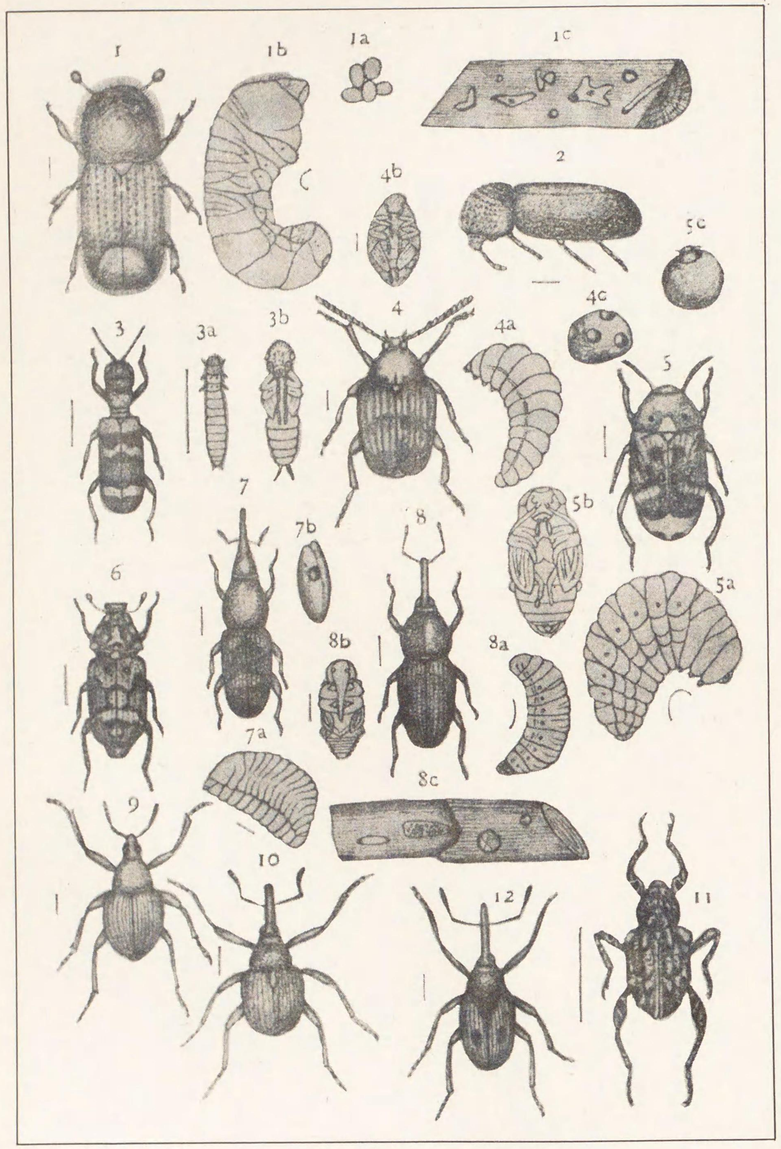
被害植物　西洋苺。

特徵　成蟲　體は赤褐、多少光澤を有す、灰白の短毛多し、觸角は十二節にして前胸より長

圖正訂正圖

1. Xylobotrus atratus Roel. （はまぐりムシ） ……P.865
　a. 卵　b. 幼蟲　c. 被害ノ植物
2. Dinodarus tanzao Mats. つぶがりムシ ……P.869
3. Clerus formicarius L. あかもどきかっこう ……P.872
　a. 幼蟲　b. 蛹
4. Mylabris (Bruchus) chinensis L. まめごう ……P.873
　a. 幼蟲　b. 蛹　c. 被害ノ植物
5. Mylabris dorsalis L. おほまめごう ……P.874
　a. 幼蟲　b. 蛹　c. 被害ノ植物
6. Tropidorea nodulosus Sharp. ひめひげながさびムシ ……P.874
7. Calandra oryzae L. こくぞう ……P.876
　a. 幼蟲　b. 被害ノ植物
8. Baris deplanata Roel. ひめさびムシ ……P.877
　a. 幼蟲　b. 蛹　c. 卵
9. Rhinoncus pericarpius L. あさのみさびムシ ……P.879
10. Centorrhynchus aper Roel. さるさびムシ ……P.879
11. Ectatorrhinus adamsi Roel. まだらあしざうむし ……P.880
12. Minyrus japonicus Roel. いちござうむし ……P.880

第五拾五圖



第五拾五圖

1. Xyleborus atratus Eich. くはまるこしんくひ ……P 865
   a. 卵 *b.* 幼蟲 *c.* 被害ノ有様
2. Dinoderus tsugae Mats. つがながしんくひ ……P 869
3. Clerus formicarius L. ありもどきかつかう ……P.872
   a. 幼蟲 *b.* 蛹
4. Mylabris (Bruchus) chinensis L. まめざう ……P.873
   a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 被害ノ有様
5. Mylabris dorsalis F. おほまめざう ……P.874
   a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 被害ノ有様
6. Tropideres nodulosus Sharp. ひめひげながざうむし ……P.874
7. Calandra oryzae L. こくざう……P.876
   a. 幼蟲 *b.* 被害ノ有様
8. Baris deplanata Roel. ひめざうむし……P.877
   a. 幼蟲 *b.* 蛹 *c.* 卵
9. Rhinoncus pericarpius L. あさのざうむし……P.879
10. Ceutorrhynchus asper Roel. さるざうむし……P.879
11. Ectatorrhinus adamsi Roel. まだらあしざうむし……P.880
12. Minyrus japonicus Roel. いちござうむし ……P.880

し、口吻は弓狀をなして少しく下方に向ひ、大腮は發達す、頭及び前胸は黑褐、灰白毛多く又點刻を密布す、翅鞘は前胸より遙かに廣く縱溝列ありて其內に點刻を列ね、灰白毛多し、翅底の大部及び接合部は黑褐、脚は赤褐、前腿節には三個の棘狀突起あり、體長一分。

經過　未だ判然せざれども、早春より現はれ、西洋苺の葉を食害す、幼蟲は「ひらたあぶ」の幼蟲に酷似し、葉・花・稚果を食害す。

驅除法　受網を以て捕殺すべし。

（八）くりしぎざうむし　Balaninus dentipes Roel.（第五十六圖版(1)）

被害植物　栗・楢。

特徵　成蟲　體は暗黃色、翅鞘は殆んど圓柱狀をなし、黑褐の斑紋を散在す、其縱溝は黑色なり、前胸背に不明なる三黃線あり、全部黃色の細毛にて被はる、口吻は赤褐にして頗る長し、各腿節の末端は膨大し、之に一個の棘狀突起あり、體長二分乃至三分、口吻二分。

幼蟲　全體黃白にして小形なる褐色の頭を有し、體には橫皺多く、短毛多し、體長四分。

經過　成蟲は六七月頃現はれ、長き口吻を以て稚果に孔を穿ち、口吻にて一顆宛卵子を深く其內に納む、果實の成長後は其孔口は閉塞せられて單に黑點を留むるに過ぎず、蟲害に罹りたる栗果は熟すること早きを以て、地上に落つるや老熟せるものは孔を穿ちて果外に出で深く地中に入りて越年す、翌春蛹化し次で羽化す、其未だ老熟せざる

ものが果內に殘り坊間に販賣するものゝ內に存在することあるは人のよく知る所なり。

驅除法 被害の爲め落下せるものは燒棄すべし、小木にして貴重なる種類には三四十倍の石油乳劑に煙草浸汁劑二合を加へ園藝用噴筒にて成蟲發生の時期を見計ひ灌注すべし、成蟲死せざるも之が爲めに驅除せらるべし。

(九) なしのちよつきりざうむし *Rhynchites heros* Roel. (第五十六圖版(2))

被害植物 梨、苹果、枇杷。

特徵 成蟲 體は光澤ある赤紫色、口吻は長く大腿は銳し、前胸は略々圓筒形、點刻及び細毛多し、翅鞘は稍々正方形にして點刻の縱列を具へ、點刻の多くは金色なり、暗褐の短毛を簇生す、體長三分、幅一分五厘。

幼蟲 體は圓柱形にして兩端細く、白色半透明なるを以て胃中の內容をも透見し得べし、頭は少しく黃色を帶び、口部は赤褐なり、體節は太く何れも腫起し、背面には橫皺、側面には縱皺多し、各節の後半には短小の粗毛ありて橫列す、體長四分。

經過 成蟲は六七月頃現はれ、長吻を以て果實に孔を穿ち、後尾端を其孔に當て一個の卵子を產下し、後一種の膠質液を以て孔を閉塞す、雌蟲の旣に產卵し終りたる頃、雄來りて其枝の半周を咬み切るを以て、時の經過と共に其局部折れて垂下し、幼蟲の蛹化せる頃地上に落下するに至る、幼蟲は斯くて果外に出で、土中に入り土塊を纏めて球形

の繭を營み、其內に越年す、翌春蛹化し、五六月頃羽化すること前述の如し。

驅除法 五六月頃樹上にある成蟲を打落法によりて捕殺すべし、晩秋樹下に土二三寸位まで攪拌して越年せる幼蟲を殺すべし、六七月頃石油乳劑(三四十倍位のもの)を注射すべし、其臭氣は產卵を防ぎ得る効あり、苹樹の如き止むなくんば袋掛を行ふべし。

(一〇) いたやはまきざうむし *Rhynchites betuleti* F. var. *motschulskyi* Lew. (第五十六圖版(3))

被害植物 槭、白楊、樺、葡萄、苹樹。

特徵 成蟲 體は綠色若くは赤銅色、但し後者は光線の工合にて綠色を帶ぶ、脚及び體下は黑紫色にして橫皺多く、前胸背の前方は縊れ、中央に一縱溝ありて綠色を帶ぶ、雌には黑藍色、觸角は黑色にして少しく藍色を帶ぶ、複眼間に長楕圓形の凹陷あり、後頭は兩側に各々一齒ありて前方に突出す、兩側に點刻を密布す、稜狀部は黑紫色、翅鞘は稍々四角形稜狀部の下方に當り各一個の凹陷あり、點刻を密布し縱溝あれども餘り判然せず、體長二分乃至二分五厘、口吻九厘。

經過 年二回發生、第一回は五六月、第二回は八九月、成蟲は葉の一端を切り之れを管狀に縱に卷き其內に一個の卵子を產下す、幼蟲は苹樹の葉を食とし成長す、往々全葉をして褐色の卷葉となさしむることあり、卵子より成蟲となるには約二ケ月を要す、早春にありては新芽に口吻を貫き液汁を吸收す、幼蟲の有樣にて地中に越年し、翌春蛹化し次で成蟲となるもの〻如し、本邦にありては普通白楊に多し、歐洲にありては葡萄